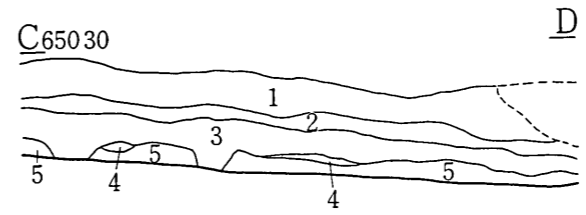
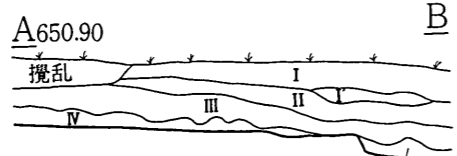


きたがた おおはら
北方大原遺跡 II

宅地造成に先立つ埋蔵文化財包蔵地
発掘調査報告書

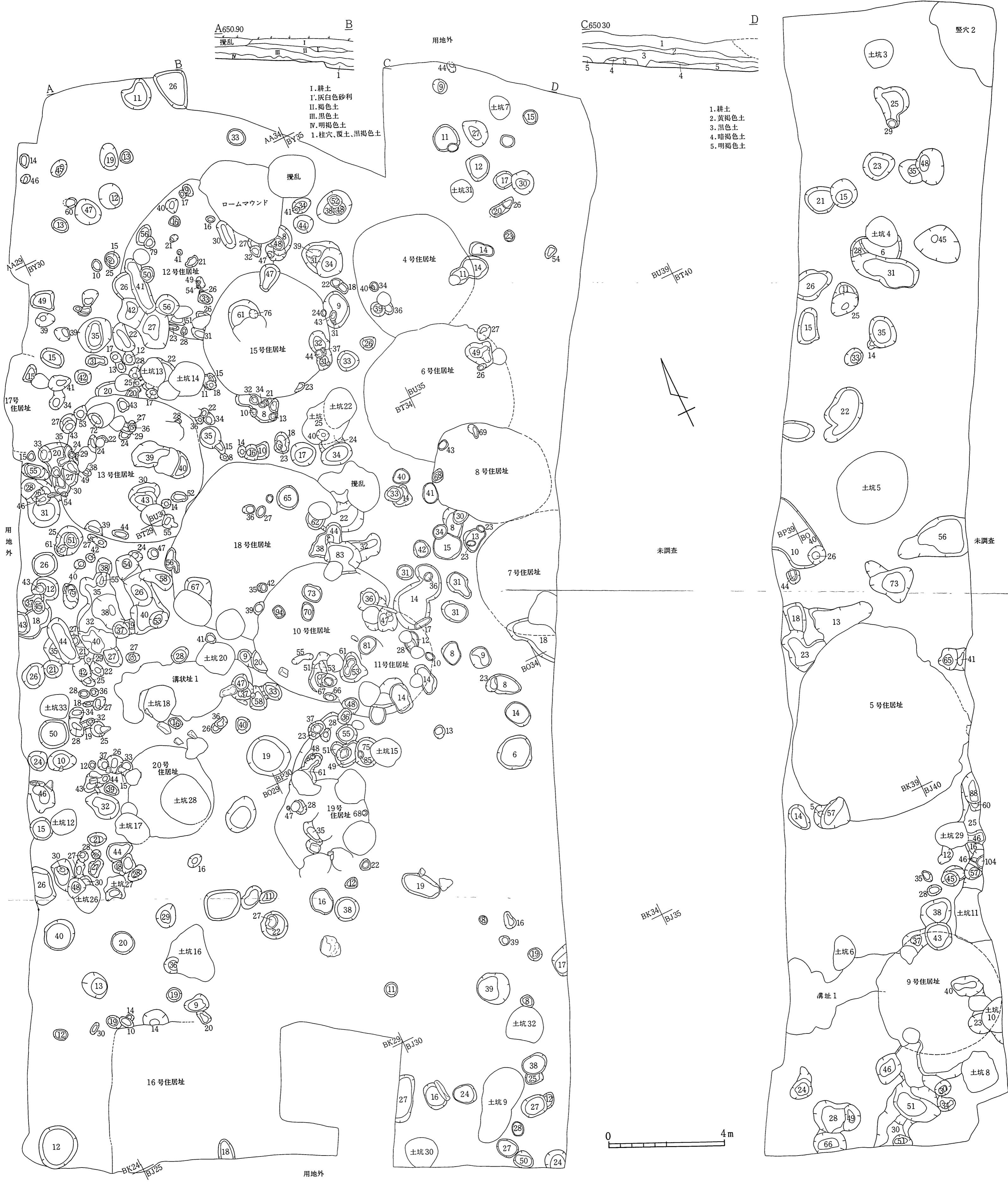
1995年3月

長野県飯田市教育委員会



- I. 耕土
 I. 灰白色砂利
 II. 褐色土
 III. 黒色土
 IV. 明褐色土
 1. 柱穴、覆土、黒褐色土

1. 耕土
 2. 黄褐色土
 3. 黒色土
 4. 暗褐色土
 5. 明褐色土



きたがた おおはら
北方大原遺跡 II

宅地造成に先立つ埋蔵文化財包蔵地
発掘調査報告書

1995年3月

長野県飯田市教育委員会

序

社会の変化に伴って、飯田市内においても様々な開発事業が行われています。それらに関連し、飯田市教育委員会では、埋蔵文化財の発掘調査を実施し、記録保存をして後世に伝える事業を実施しています。

近年、飯田市街地における開発は飽和状態に達しており、周辺地区の道路環境の整備が進みつつある状況と相まって、市街地周辺へ企業や住宅が拡散してきています。この北方地区においても飯田バイパス153号線、市道運動公園通りが開通して以来、沿線への店舗事業所等の進出が相次いでおり、それに伴い住宅開発が盛んになっています。今回の開発も、飯伊地方の経済活動の振興などを考えますと、是認すべきといえ、事前に発掘調査をして記録保存を図ることも又、大切なことであると考えます。調査の結果は、本報告書のとおりであり、これまで周辺で積み重ねられてきた調査成果に、さらに重要な知見を加えたわけであります。すなわち、地域の歴史解明が進むとともに、ひいては古代日本史の復元の一助となるものと確信いたします。

最後になりましたが、文化財保護の本旨に厚いご理解を賜った信州いいだ農業協同組合ならびに地元の皆様、現地作業、整理作業に従事された作業員の方々に謝意を申し述べる次第であります。

平成7年3月

飯田市教育委員会
教育長 小林 恭之助

例 言

- 1 本書は信州いいだ農業協同組合の宅地造成に伴い実施された飯田市北方3346-1番地の埋蔵文化財包蔵地北方大原遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は開発主体者である信州いいだ農業協同組合の委託を受け、飯田市教育委員会が実施した。
- 3 調査は平成5年11月30日に試掘調査を実施し、本調査を5年度は12月1日～12月20日、6年度は5月18日～7月21日に行った。続いて6年度中に整理作業および報告書作成作業を行った。
- 4 今次調査地点は農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業西部山麓線の調査地点と近接しており、連続する遺構番号を付した。
- 5 発掘調査および整理作業においては一貫して遺跡名に略号OOH3346-1を付して使用した。
- 6 発掘調査位置は国土基本図の区画、LC-83に位置し（社団法人日本測量協会 1969「国土基本図図式 同適用規定」参照）、グリット設定は株式会社ジャステックに委託した。詳細は（飯田市教育委員会 1994『中村中平遺跡』）を参照のこと。
- 7 本報告書の記載については、時代毎住居址を優先した。遺構図・遺物図は本文と合せ挿図とし、写真図版は本文末に一括した。
- 8 本書調査結果は吉川豊・馬場保之・吉川金利・下平博行・福澤好晃が分担執筆し、それぞれに記した。まとめは、馬場保之・吉川金利・下平博行・福澤好晃が執筆した。なお、本文の一部について小林正春が加筆・訂正を行なった。
- 9 本書に掲載された図面類の整理・遺物実測は、馬場保之・吉川金利・下平博行・福澤好晃が行ない、写真撮影は福澤好晃が行なった。なお整理作業にあたり、調査員・整理作業員が補佐した。
- 10 本書に掲載した遺構図の中に記した数字はそれぞれの検出面からの穴の深さ（単位cm）を表している。
- 11 本書に関連する出土品及び諸記録は飯田市教育委員会が管理し、飯田市上川路1004-1 飯田市考古資料館に保管している。

目 次

本文目次

序

例言

目次

I 経過

1. 調査に至るまでの経過 1

2. 調査の経過 1

3. 調査組織 2

II 遺跡の環境

1. 自然環境 3

2. 歴史環境 9

III 調査結果

1. 縄文時代の竪穴住居址 11

(1) 4号住居址 11

(2) 5号住居址 13

(3) 6号住居址 17

(4) 7号住居址 19

(5) 8号住居址 20

(6) 9号住居址 24

(7) 10号住居址 25

(8) 11号住居址 31

(9) 12号住居址 32

(10) 13号住居址 40

(11) 14号住居址 44

(12) 15号住居址 45

(13) 17号住居址 49

(14) 18号住居址 50

(15) 19号住居址 54

(16) 20号住居址 56

2. 縄文時代の竪穴状遺構 60

(1) 竪穴状遺構 2 60

3. 縄文時代の溝址 60

(1) 溝址 1 60

4. 縄文時代の溝状址 61

(1) 溝状址 1 61

5. 縄文時代の土坑 62

6. 弥生時代の竪穴住居址 70

(1) 16号住居址 70

7. 遺構外出土遺物 77

1) 土器 77

①縄文時代早期 77

②縄文時代前期 78

③縄文時代中期 78

④縄文時代後期 81

⑤時期不明 84

2) 土製品 85

3) 石器 86

IV まとめ 93

引用参考文献 101

報告書抄録 149

図 版 目 次

<p>第1図 調査遺跡及び周辺遺跡位置図 …… 4</p> <p>第2図 調査位置図及び周辺地図 …… 5</p> <p>第3図 基準メッシュ図区画調査位置図 … 6</p> <p>第4図 遺構全体図 …… 7</p> <p>第5図 4号住居址 …… 11</p> <p>第6図 4号住居址出土遺物 …… 11</p> <p>第7図 4号住居址出土遺物 …… 12</p> <p>第8図 5号住居址 …… 13</p> <p>第9図 5号住居址出土遺物 …… 14</p> <p>第10図 5号住居址出土遺物 …… 15</p> <p>第11図 5号住居址出土遺物 …… 16</p> <p>第12図 5号住居址出土遺物 …… 17</p> <p>第13図 6号住居址 …… 17</p> <p>第14図 6号住居址出土遺物 …… 18</p> <p>第15図 7号住居址 …… 19</p> <p>第16図 7号住居址出土遺物 …… 20</p> <p>第17図 8号住居址 …… 20</p> <p>第18図 8号住居址出土遺物 …… 21</p> <p>第19図 8号住居址出土遺物 …… 22</p> <p>第20図 8号住居址出土遺物 …… 23</p> <p>第21図 9号住居址 …… 24</p> <p>第22図 10号住居址 …… 25</p> <p>第23図 10号住居址出土遺物 …… 26</p> <p>第24図 10号住居址出土遺物 …… 27</p> <p>第25図 10号住居址出土遺物 …… 28</p> <p>第26図 10号住居址出土遺物 …… 29</p> <p>第27図 10号住居址出土遺物 …… 30</p> <p>第28図 11号住居址 …… 31</p> <p>第29図 12号住居址 …… 32</p> <p>第30図 12号住居址出土遺物 …… 33</p> <p>第31図 12号住居址出土遺物 …… 34</p> <p>第32図 12号住居址出土遺物 …… 35</p>	<p>第33図 12号住居址出土遺物 …… 36</p> <p>第34図 12号住居址出土遺物 …… 37</p> <p>第35図 12号住居址出土遺物 …… 38</p> <p>第36図 12号住居址出土遺物 …… 39</p> <p>第37図 12号住居址出土遺物 …… 40</p> <p>第38図 13号住居址 …… 40</p> <p>第39図 13号住居址出土遺物 …… 41</p> <p>第40図 13号住居址出土遺物 …… 42</p> <p>第41図 13号住居址出土遺物 …… 43</p> <p>第42図 14号住居址 …… 44</p> <p>第43図 14号住居址出土遺物 …… 45</p> <p>第44図 15号住居址 …… 45</p> <p>第45図 15号住居址出土遺物 …… 46</p> <p>第46図 15号住居址出土遺物 …… 47</p> <p>第47図 15号住居址出土遺物 …… 48</p> <p>第48図 17号住居址 …… 49</p> <p>第49図 17号住居址出土遺物 …… 49</p> <p>第50図 18号住居址 …… 50</p> <p>第51図 18号住居址出土遺物 …… 51</p> <p>第52図 18号住居址出土遺物 …… 52</p> <p>第53図 18号住居址出土遺物 …… 53</p> <p>第54図 18号住居址出土遺物 …… 54</p> <p>第55図 19号住居址出土遺物 …… 54</p> <p>第56図 19号住居址出土遺物 …… 55</p> <p>第57図 20号住居址 …… 56</p> <p>第58図 20号住居址出土遺物 …… 57</p> <p>第59図 20号住居址出土遺物 …… 58</p> <p>第60図 20号住居址出土遺物 …… 59</p> <p>第61図 竪穴状遺構2 …… 60</p> <p>第62図 溝址1 同址出土遺物 …… 60</p> <p>第63図 溝状址1 …… 61</p> <p>第64図 土坑3～12 …… 62</p> <p>第65図 土坑13～28 …… 63</p> <p>第66図 土坑29～33 …… 64</p> <p>第67図 土坑出土遺物 …… 66</p>
---	--

第68図	土坑出土遺物	67
第69図	土坑遺物	68
第70図	土坑遺物	69
第71図	16号住居址	70
第72図	16号住居址出土遺物	70
第73図	16号住居址出土遺物	71
第74図	16号住居址出土遺物	72
第75図	16号住居址出土遺物	73
第76図	縄文時代晩期の氾濫礫群	75
第77図	縄文時代早期土器	77
第78図	縄文時期早～中期土器	78
第79図	縄文時代後期土器	81
第80図	縄文時代後期土器	82
第81図	縄文時代後期土器	83
第82図	縄文時代後・晩期土器	84
第83図	縄文時代土製品	85
第84図	遺構外出土石器	86
第85図	遺構外出土石器	87
第86図	遺構外出土石器	88
第87図	遺構外出土石器	89
第88図	遺構外出土石器	90
第89図	遺構外出土石器	91
第90図	縄文時代中期に於ける集落変遷図	97

表 目 次

第1表	4号住居址	12
第2表	5号住居址	14
第3表	6号住居址	18
第4表	7号住居址	19
第5表	8号住居址	21
第6表	9号住居址	24
第7表	10号住居址	26
第8表	11号住居址	31
第9表	12号住居址	32

第10表	13号住居址	41
第11表	14号住居址	44
第12表	15号住居址	46
第13表	17号住居址	49
第14表	18号住居址	51
第15表	19号住居址	55
第16表	20号住居址	56
第17表	竪穴状遺構2	60
第18表	溝址	61
第19表	溝状址1	61
第20表	土坑調査表	65
第21表	16号住居址	71
第22表	草創期・早期土器観察表	79

写真図版目次

図版1	遺跡全景	104
図版2	調査区全景・調査区全景	105
図版3	4号住居址・5号住居址	106
図版4	6号住居址・7号住居址	107
図版5	8号住居址・10号住居址	108
図版6	10号住居址炉・12号住居址	109
図版7	13号住居址・13号住居址炉	110
図版8	13号住居址埋甕1、2 13号住居址埋甕3	111
図版9	14号住居址炉・15号住居址	112
図版10	15号住居址炉・18号住居址	113
図版11	18号住居址埋甕・20号住居址	114
図版12	20号住居址炉・土坑5	115
図版13	土坑11・土坑12	116
図版14	土坑13・土坑21	117
図版15	土坑24・土坑25	118
図版16	土坑28・16号住居址	119
図版17	氾濫礫群・重機作業風景	120
図版18	重機作業風景・発掘調査風景	121

図版19	発掘調査風景・委託測量調査 ……122	図版44	15号住居址出土石器 ……147
図版20	5号住居址出土土器(埋甕)・ 5号住居址出土土器 ……123	図版45	18号住居址出土石器・20号住居址 炉出土石器 ……148
図版21	6号住居址出土土器・7号住居址 出土土器・8号住居址出土土器…124		
図版22	8号住居址出土土器 ……125		
図版23	10号住居址出土土器 ……126		
図版24	10号住居址出土土器 ……127		
図版25	12号住居址出土土器 ……128		
図版26	12号住居址出土土器 ……129		
図版27	12号住居址出土土器 ……130		
図版28	13号住居址出土土器(埋甕2)・ (埋甕3) ……131		
図版29	13号住居址出土土器(埋甕1) ……132		
図版30	15号住居址出土土器・18号住居址 出土土器 ……133		
図版31	18号住居址出土土器 ……134		
図版32	20号住居址出土土器 ……135		
図版33	溝址1出土土器・土坑3出土土器 ・土坑5出土土器 ……136		
図版34	土坑14出土土器・土製円盤 ……137		
図版35	遺構外出土遺物 ……138		
図版36	遺構外出土遺物・遺構外出土 遺物 ……139		
図版37	遺構外出土遺物・遺構外出土 遺物 ……140		
図版38	遺構外出土遺物・4号住居址出土 石器 ……141		
図版39	5号住居址出土石器・5号住居址 出土石器 ……142		
図版40	6号住居址出土石器・8号住居址 出土石器 ……143		
図版41	10号住居址出土石器 ……144		
図版42	12号住居址出土石器 ……145		
図版43	13号住居址出土石器 ……146		

I 経 過

1 調査に至るまでの経過

飯田市西部の中央アルプス山麓際は、果樹園が主体の農業地帯である。近年、この地帯に山本地区・伊賀良地区・上飯田地区等を結ぶ農道が整備されつつある。それに伴い周辺は住宅建設などが進み、今回の開発もそのひとつである。

平成5年9月30日付で飯田市育良町1丁目2番地1、信州いいだ農業協同組合代表理事組合長木下順一より、飯田市北方地区での宅地造成について、埋蔵文化財発掘調査に関する協議依頼書が提出された。当該地は埋蔵文化財包蔵地北方大原遺跡の一面に位置し、東方約20mの位置では、農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（西部山麓線）建設に先立つ発掘調査で、縄文時代から中世にかけての遺構・遺物が検出された地点に隣接する。そこで調査協議依頼書に基づいて平成5年11月3日長野県教育委員会文化課担当職員を交え現地協議を実施した。その結果、保護措置を講ずる必要があるとの県教委の回答がなされた。平成5年11月22日、重機により東西に1本、南北に2本のトレンチを入れる試掘調査を行い、住居址などの遺構、縄文時代の土器・石器の出土を確認した。

2 調査の経過

関係者による諸協議を受け、平成5年11月26日委託者信州いいだ農業協同組合代表理事組合長木下順一と受託者飯田市長田中秀典との間で発掘調査に関する委託契約を締結した。開発は傾斜した用地を、三段に造成するものであるため、切り土される部分のみ発掘調査を行なうこととした。しかし、この時点で上段部分には家屋が建っており、まだ取り壊しがされていないため、まず中段・下段についての発掘調査を先行して行なった。11月30日、重機を入れて調査範囲の表土剥ぎをおこない、12月2日より作業員を入れて発掘調査を開始した。

まず、重機の荒れ土を除去し、竪穴住居址・土坑その他の遺構を検出し、掘り下げて精査し、それらについて写真撮影を行ない、空中写真撮影・空中測量調査を（株）ジャステックに委託し、作業を行なった。最後に、炉址などについての補充の測量調査をして、平成5年12月21日、家屋部分の調査を残して、現地での作業を終了した。

平成6年度に入り、家屋が解体撤去されたため、残りの上段部分についての調査を開始した。調査区には、縄文時代中期・後期・弥生時代後期の住居址が出土し、特に縄文時代後期の住居址は、県内でも調査例が少ないため、拡張して調査をし、写真撮影・測量調査を行い、調査区全体を埋め戻し、平成6年7月21日現地での作業を終了した。

その後、飯田市考古資料館において現地で記録された図面・写真類の整理作業、出土遺物の水洗・接合・復元作業、実測・写真撮影作業、遺構図の作成・トレース、版組み等行ない、報告書作成作業にあたった。

3 調査組織

調査担当者 小林正春

調査員 佐々木嘉和 佐合英治 吉川豊 山下誠一 馬場保之 吉川金利
澁谷恵美子 福澤好晃 下平博行 伊藤尚志

現場作業員 市瀬長年 井上晃一 小沢信治 恩沢不二子 北川彰 木下貞子 木下傳
木下義男 小林千加子 斉藤善千 榊原政夫 佐々木文茂 塩沢澄子
清水三郎 清水光朗 代田和登 菅沼和加子 高橋収二郎 滝上正一
塚原次郎 仲田昭平 中平隆雄 服部光男 広井保 福本静雄 福本まさし
細田七郎 牧内修 増山局武 松井明治 松下成司 松下直市 松下真幸
松下光利 溝上清見 宮下貞一 元村敬子 森章 山田康夫 吉川和夫
依田時子

整理作業員 新井幸子 新井ゆり子 池田幸子 岡田紀子 金井照子 金子裕子
唐沢古千代 川上一子 木下早苗 北原久美子 木下玲子 榊原勝子
小池千津子 小島孝修 小平不二子 小林千枝 佐々木真奈美
佐々木美千枝 佐藤知代子 斎藤徳子 関島真由美 田中恵子 中島真弓
丹羽由美 西山あい子 萩原弘恵 平栗陽子 福沢幸子 古根素子
古林登志子 牧内喜久子 牧内八代 松沢美和子 松島直美 松本恭子
三浦厚子 水落佳代子 南井規子 宮内真理子 森藤美知子 吉川悦子
吉川紀美子

事務局

飯田市教育委員会社会教育課

安野 節	(社会教育課長)	平成5年度)
横田 穆	()	平成6年度)
原田 吉樹	(文化係長)	平成5年度)
小林 正春	()	平成6年度)
吉川 豊	(文化係))
山下 誠一	()	平成6年度)
馬場 保之	())
吉川 金利	())
澁谷恵美子	()	平成5年度)
福澤 好晃	())
伊藤 尚志	()	平成6年度)
下平 博行	())
岡田 茂子	(社会教育係))

II 遺跡の環境

1 自然環境

飯田市は南アルプスと中央アルプスに挟まれた伊那谷の南端にあたり、両山脈の間を天竜川が南流する。見かけ上は天竜川による河岸段丘地形を成すが、山脈の形成に関わる断層地塊運動に伴い、盆地・大きな段丘崖が形成されており、複雑な段丘地形を呈している。

伊賀良地区は飯田市西部、市街地の南西4～2kmにあり、北西半分は中央アルプスの前山である笠松山(1271m)・高鳥屋山(1397m)の東山麓にあたり、飯田松川・茂都計川をはじめ、笠松山・高鳥屋山から流れ出す入野沢川・南沢川・滝沢川・新川等の河川によって形成された広大な扇状地が広がる。南東半分は扇状地を載せている段丘上にあり、両者が連続した地形上に立地している。

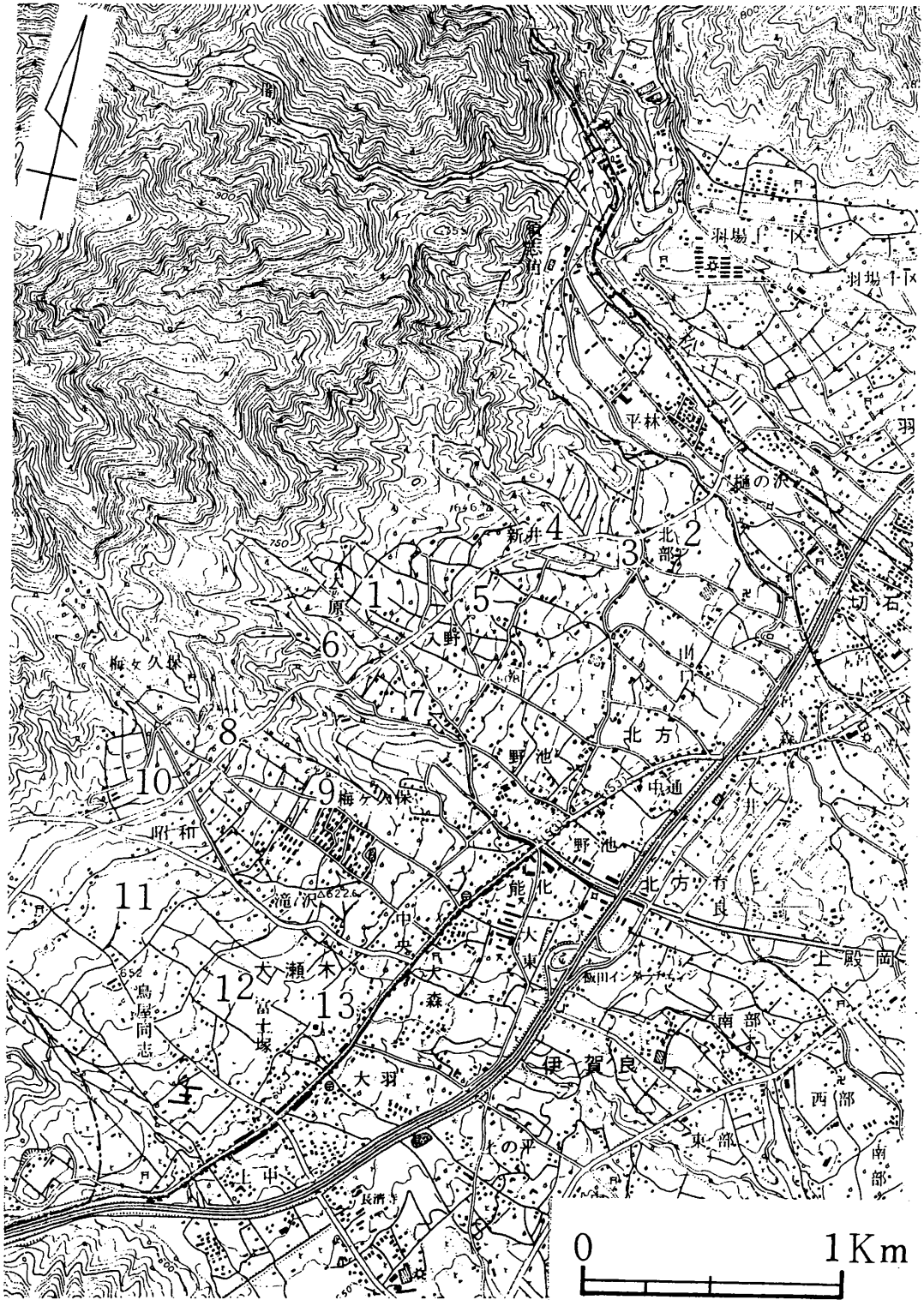
扇端の位置は北方地籍では新井付近、大瀬木で伊賀良小学校付近、中村の長清寺付近であり、これより西側は傾斜の比較的急な斜面となっている。扇端の一部は前述の線を大きく越えて東側に伸びており、下殿岡地籍まで達するものもある。扇端付近では通例の如く湧水が豊かであるのみでなく、この扇状地が小河川により幾重にも複合して形成されているため、扇央付近でも比較的湧水に恵まれ、今日でも横井戸を利用している住宅がみられる。扇状地の形成に大きな役割を果たした小河川は現在は堆積作用により下谷作用に転じているが、浸蝕力は弱く、解析谷の規模は比較的小さい。これに対し、地区の東側は基本的には高位の段丘面をしめており、扇端から離れる程地下水位が低くなる。古代末以来、この高燥な地帯への、井水の開削が繰り返し行なわれ、大井をはじめ多くの井水が開けられているほか、地区内の大小河川には人為的な改変が加えられてきた。北方大原遺跡は、飯田市伊賀良北方地籍に位置する東西約900m、南北約400mの遺跡である。大原地区は、山麓の扇状地上部の広大な東向きの斜面にあり、北側斜面の下部で新井地区に続き、南西側は毛賀沢川を挟んで河原林地区に至る。北西側は山が迫り、南東側は斜面が緩やかとなり野池・山口地区に続く。

本調査地点は、北方大原遺跡の中央やや南側に位置し、標高652mで比高差約5mの東向きの斜面にある。

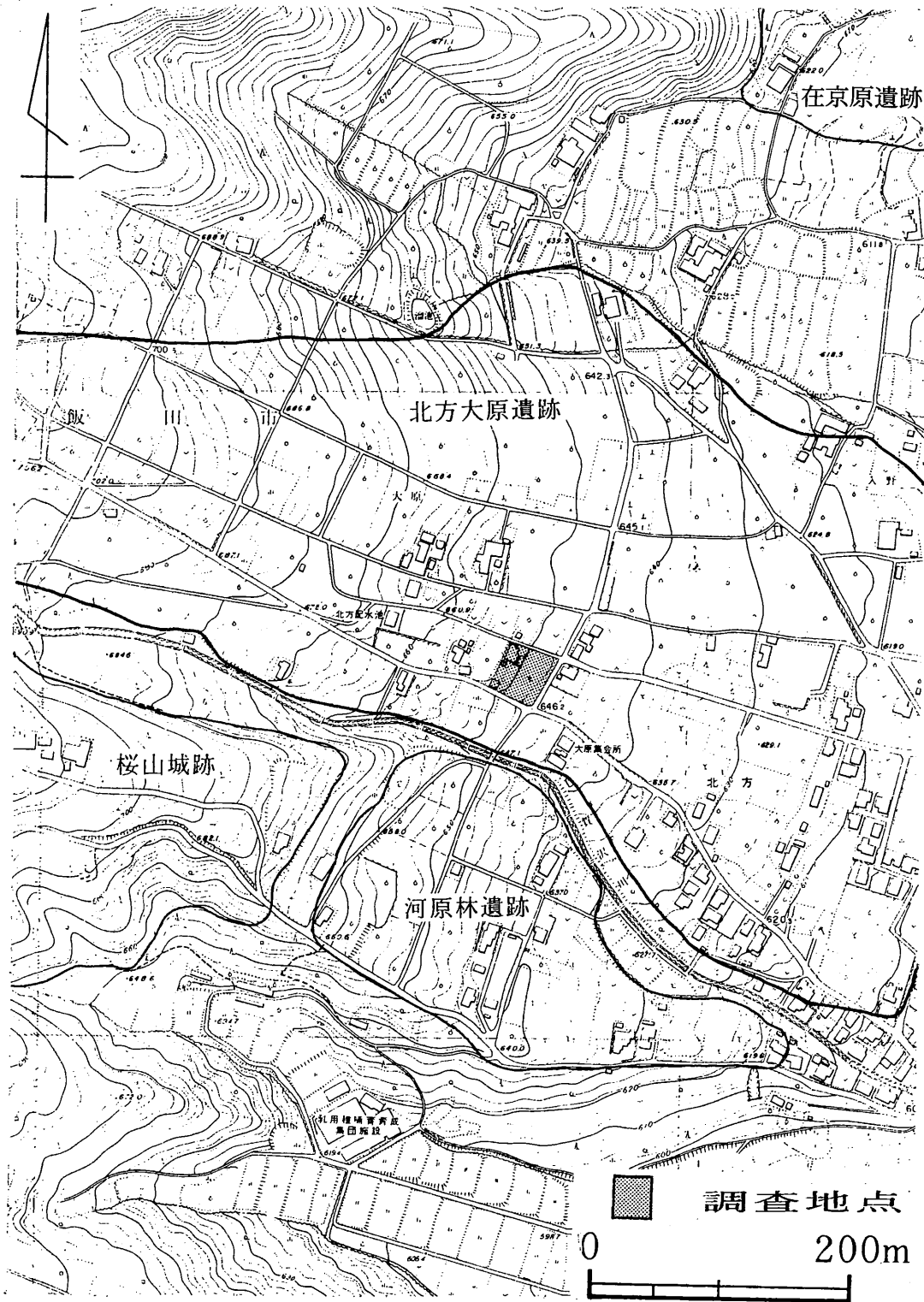
現在、この遺跡の範囲はほとんどが果樹園で、表土の浅いところでは耕作により破壊が進んでおり、住人の話によると調査地周辺では、土器・石器などの遺物がよく拾えるという。基盤の土は、黄色ローム層で一部に礫が混入している。

この斜面は飯田市街地から見ると、最後まで雪が残るところで、現在の住環境からすると劣悪な地と思われるが、ここに生活の拠を定めた古代の人々の苦勞が偲ばれる遺跡といえる。

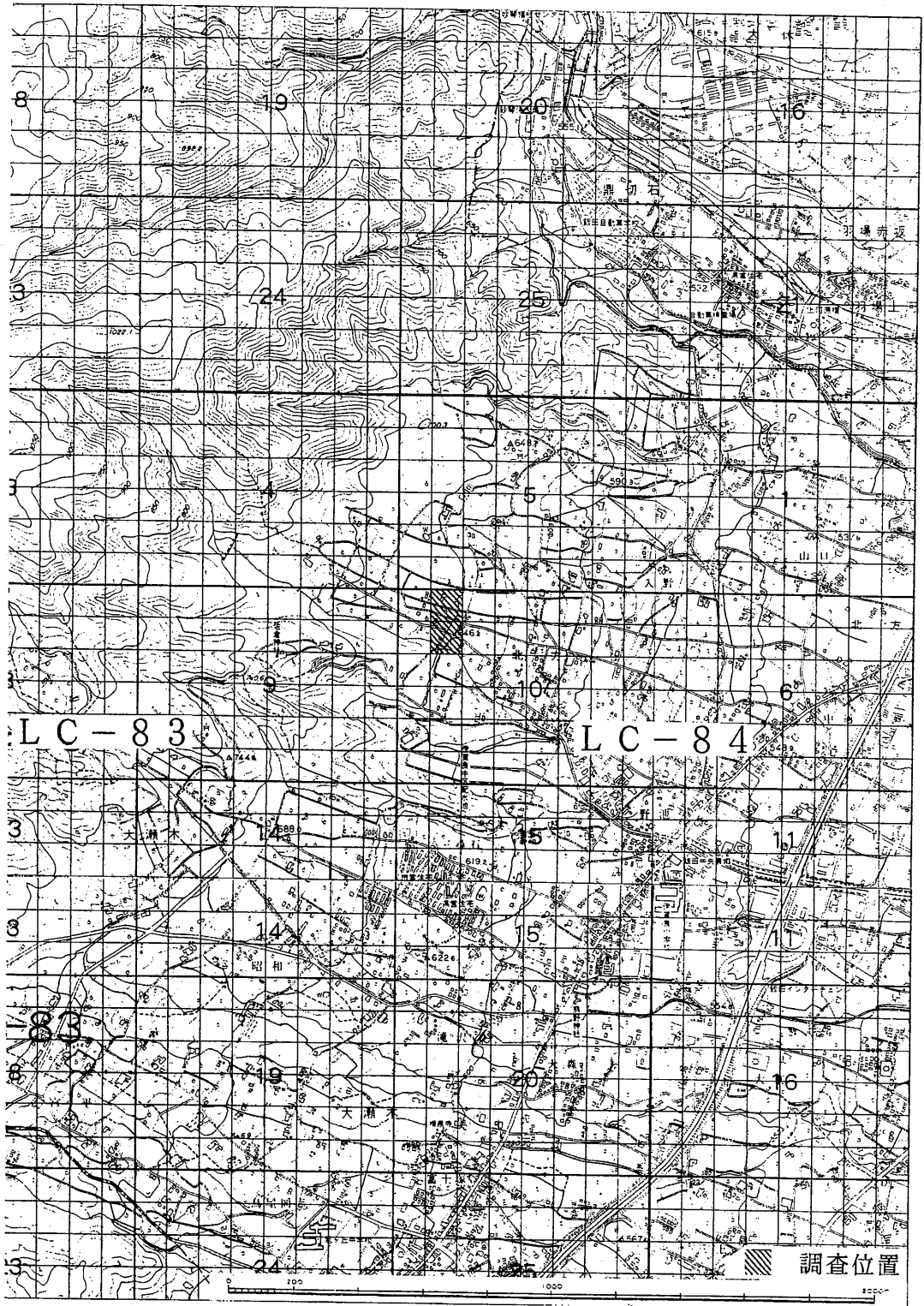
第1図 調査遺跡及び周辺遺跡位置図



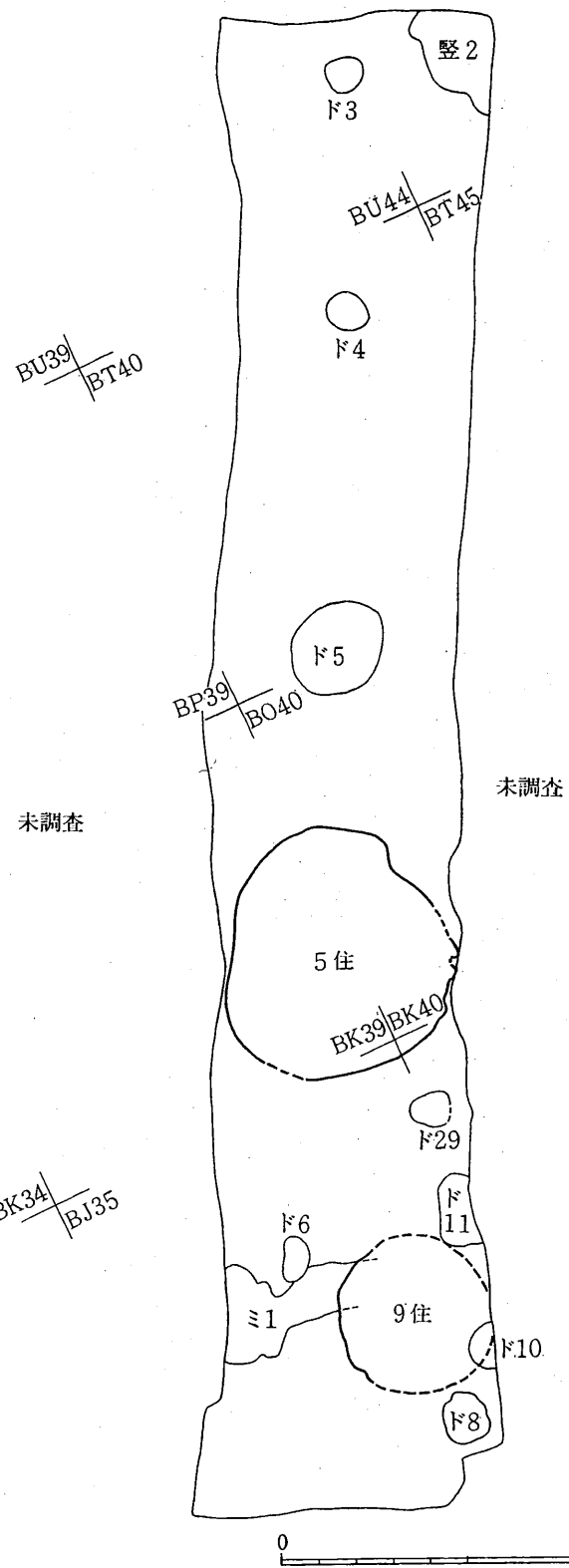
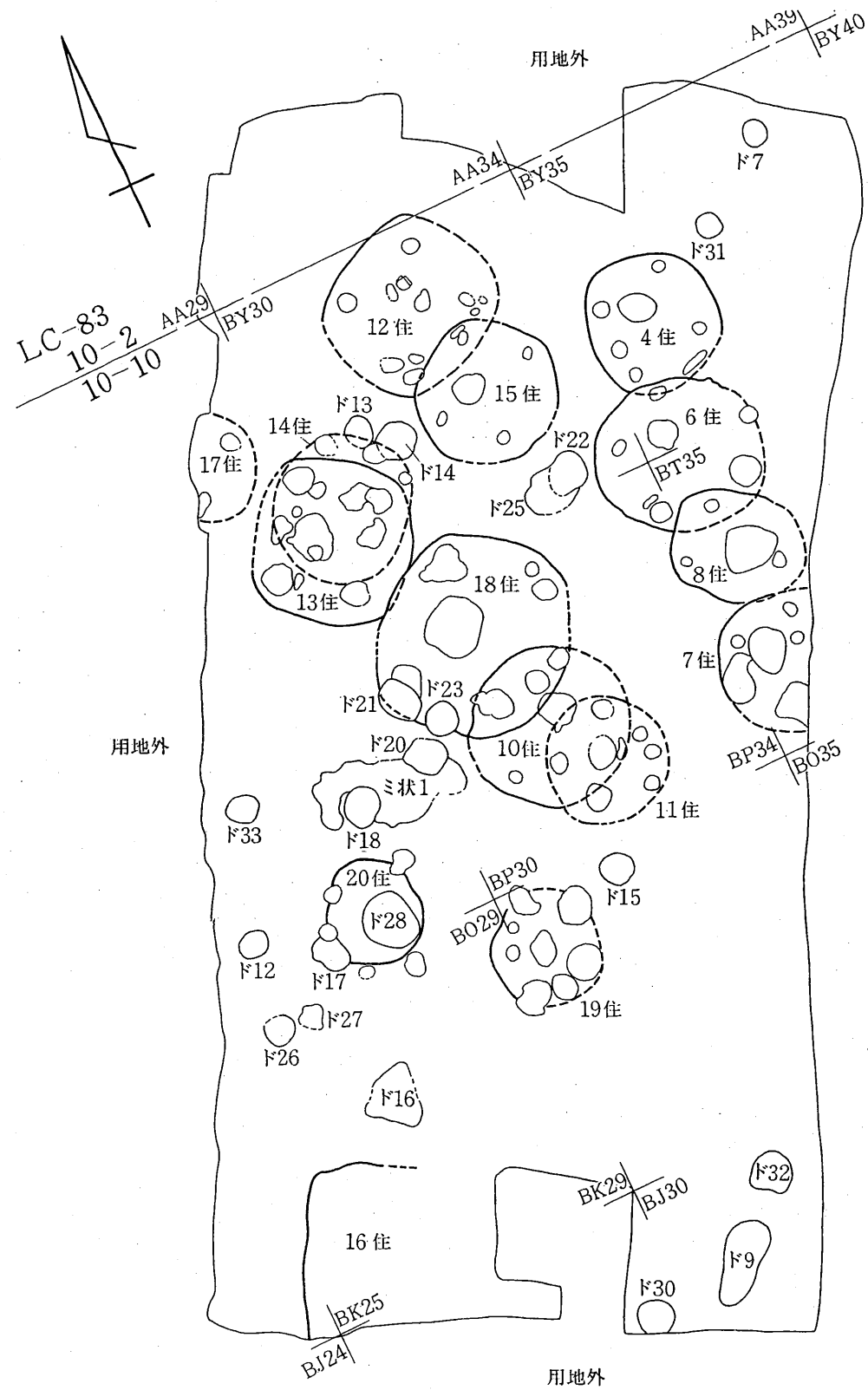
- | | | | | |
|----------|-----------|------------|---------|----------|
| 1 北方大原遺跡 | 2 北方北の原遺跡 | 3 立野遺跡 | 4 在京原遺跡 | 5 入野遺跡 |
| 6 桜山城跡 | 7 河原林遺跡 | 8 梅ヶ久保遺跡 | 9 三尋石遺跡 | 10 火振原遺跡 |
| 11 富の平遺跡 | 12 富士塚遺跡 | 13 増泉寺付近遺跡 | | |



第2図 調査位置図及び周辺地図



第3図 基準メッシュ図区画調査位置図



- 住 — 住居址
- ≡ — 溝址
- ≡状 — 溝状址
- F — 土坑

第4図 遺構全体図

2 歴史環境

伊賀良地区の遺跡を概観すると、山地を除いてほぼ全面的に包蔵地といって良く、100遺跡を数える。調査がなされた遺跡は、縄文時代から中世まで各期の好資料・遺構が発見され飯田下伊那地区を代表する埋蔵文化財包蔵地密集地域といえる。

中央自動車道に伴う各遺跡の調査では各期の住居址等の遺構が調査され、扇状地中央部分付近の遺跡の状況が明確にされた。

農業構造改善事業に伴う中島平遺跡では、縄文時代早・前期、弥生時代後期、古墳時代の遺構が調査され、扇状地端の小さな舌状台地の遺跡の在り方が注目された。

伊賀良地区内の古墳は、52基が数えられているが、現存するものは数基である。古墳分布は飯田松川に面する扇端部、新川両岸の台地端部などに並ぶ。その他散在する古墳がわずかに見られる。

奈良時代に入って律令制が整い、古代東山道の一路線がこの地区を通過していたとされる。「延喜式」には、美濃国坂本駅から神坂峠を越えて信濃国阿知駅・育良駅の名前が見え、育良＝伊賀良と考える説もある。育良駅は阿知駅と共に、その所在は確認されておらず、位置については諸説があり、ともに中央自動車道から、南東側の扇状地端部にかけて設定されている。(注1)

中世に入ると伊賀良庄の記録(注2)がある。鎌倉時代初期伊那郡伊賀良庄の地頭が北条時政で、江馬氏が司り北条氏滅亡後は、小笠原氏の所領となり小笠原氏繁栄の基盤の一つとなった地区である。また、当遺跡の西方約500mには、桜山城跡があり、戦国期においても何らかの意味を持った地としての位置付けもなされる。

この様に伊賀良地区を歴史的に概観したが、広大で肥沃な地であり、原始より古代そして現代まで大いに栄えた地といえることができる。

こうした歴史背景のある伊賀良地区内における北方大原遺跡は、それら伊賀良地区全域を見下ろす地にあり、地区内で展開された各時代の様々な人々の生活を見続けてきた場所である。

遺構の確認された、縄文時代から弥生時代において、かような高所まで居住域を求めた当時の生活や、当時の人々の旺盛な生き様が偲ばれる。

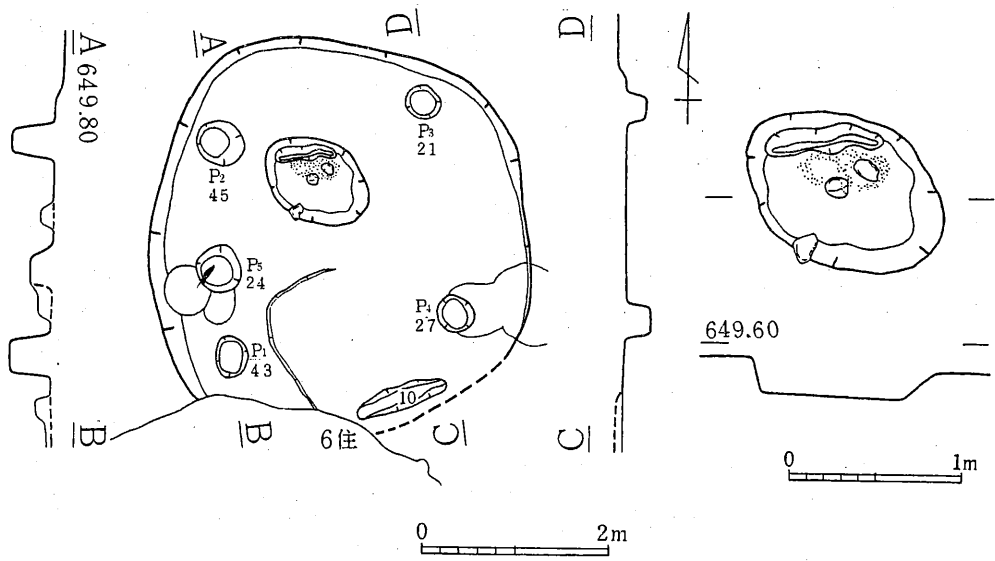
注1 市村 威人 1961 下伊那史第4巻 下伊那史編纂委員会

注2 宮下 操 1967 " 5巻 "

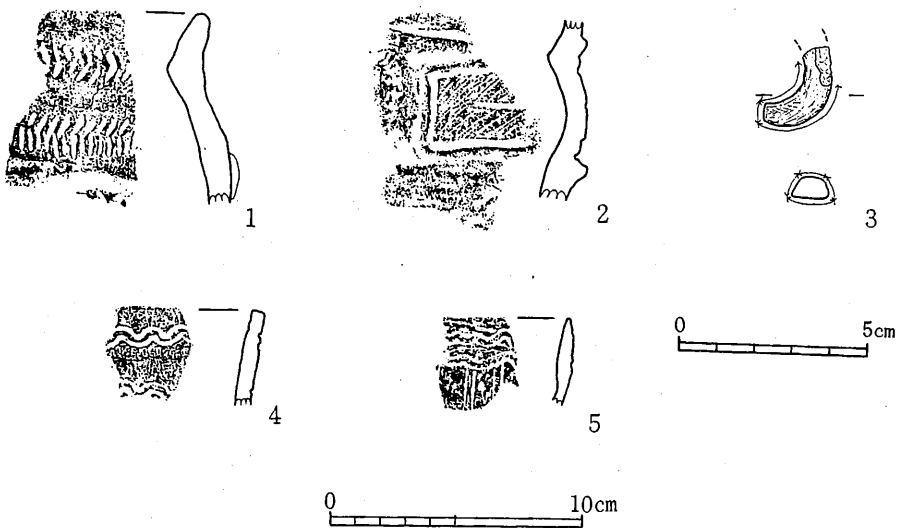
Ⅲ 調査結果

1. 縄文時代の竪穴住居址

(1) 4号住居址 (第5図・第1表・第6・7図)



第5図 4号住居址

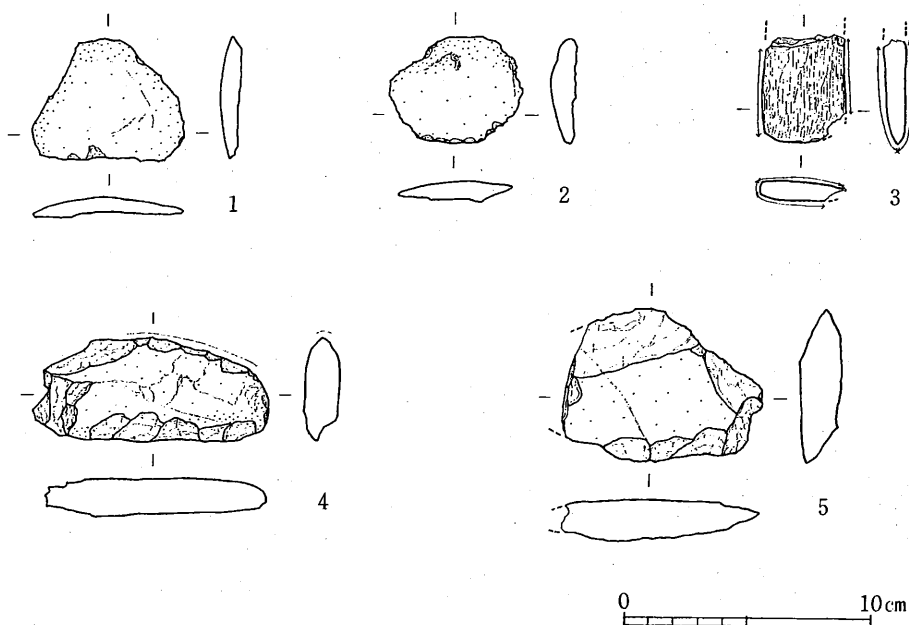


第6図 4号住居址出土遺物

遺構番号	4号住居址		時期	中期中葉末	検出位置	B T - 3 5	検出面	地山	
平面検出	結果	明確	根拠	土の差					
新旧関係	6号住居址に切られる				根拠	埋土の状況			
埋土	分層	単層		埋没過程	自然埋没		包含物		
平面プラン	不整円形			規模	(4.3)×4.0m		主軸	N 6° W	
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	なし	貼替え
床面焼土等	有無	無		状況					
壁	検出	地山を掘り込み明確					状態	ややなだらか	
柱穴	有無	有	内容	P 1 ~ P 4 支柱穴		遺物	なし	柱痕	なし
周溝	状態	南側にわずか			遺物	なし			
炉	明確で焼土が確認される。中央やや北側で確認され、抜石痕あり								
住居内施設	有無	無	内容			遺物			
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石	遺物				
増改築	有無	無	根拠						
床下遺構	有無	無			遺物				
その他	南側の壁は斜面の下側で検出できず、遺物の出土は少ない								

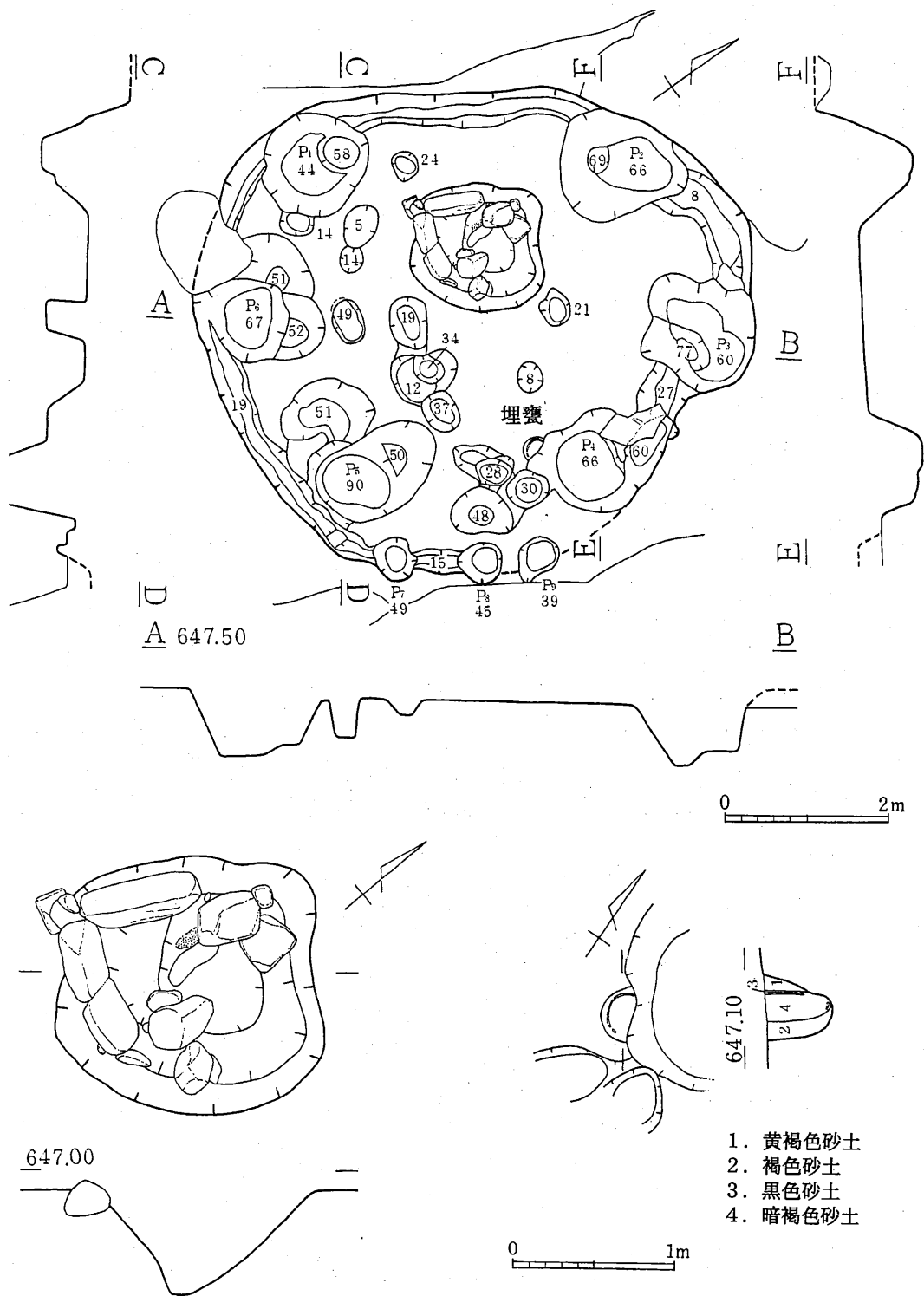
(福澤)

第1表 4号住居址



第7図 4号住居址出土遺物

(2) 5号住居址 (第8图·第2表·第9图~12图)

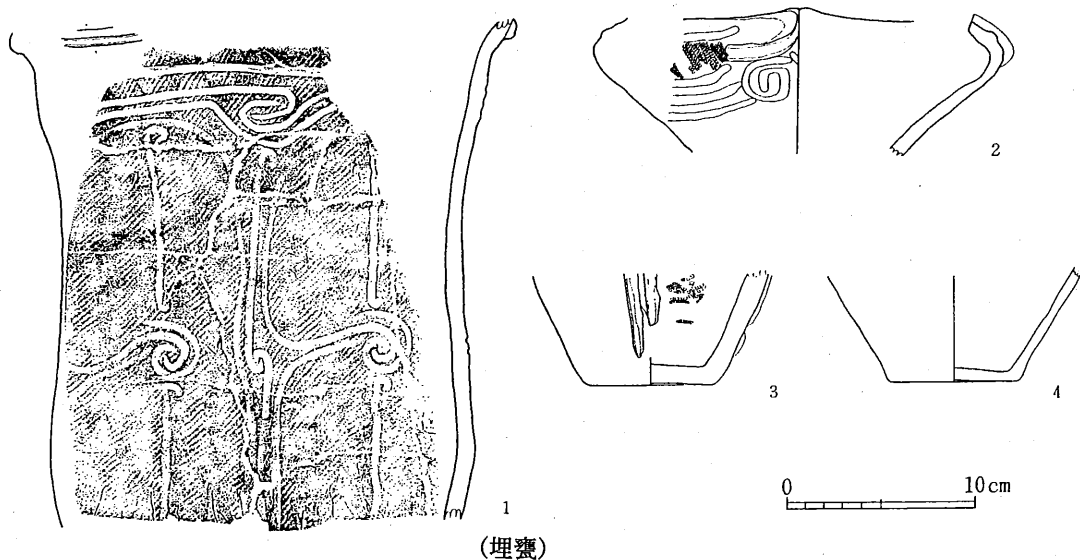


第8图 5号住居址

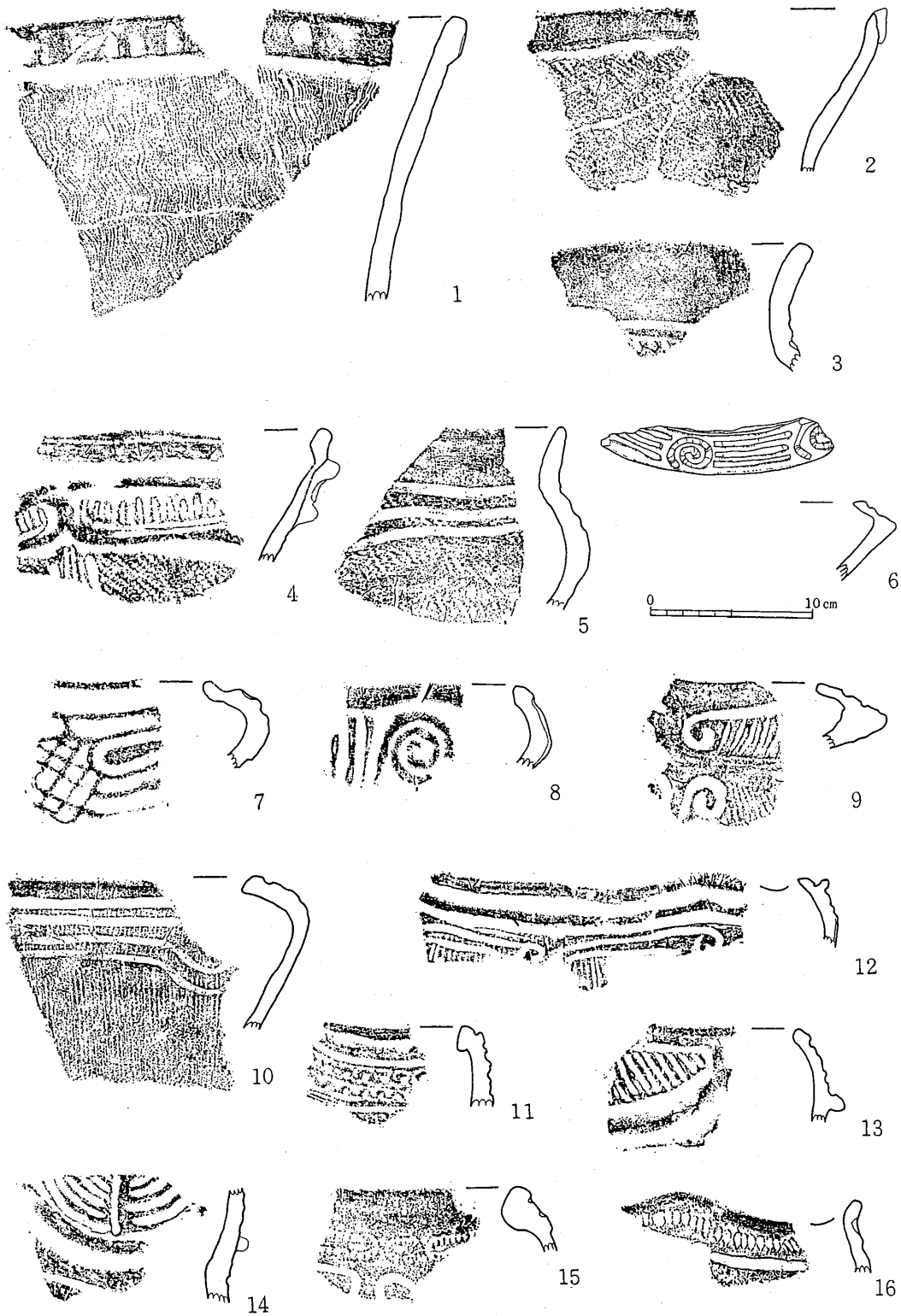
遺構番号	5号住居址		時期	中期後葉II期		検出位置	BL-39		検出面	地山		
平面検出	結果	明確	根拠	覆土の差								
新旧関係	なし					根拠						
埋土	分層	単層		埋没過程	自然埋没			包含物	なし			
平面プラン	不整円形			規模	590×680				主軸	N52°W		
床	検出	不明確	状態	軟弱	掘方	なし		貼床	なし		貼替え	なし
床面焼土等	有無	有		状況	炉周辺に焼土あり							
壁	検出	南東側は試掘時に掘り過ぎて不明瞭						状態	ややなだらか			
柱穴	有無	有	内容	P1~P6支柱穴		遺物	なし		柱痕	なし		
周溝	状態	壁際をほぼ全周				遺物	なし					
炉	石囲炉(抜石あり) (160×164m) 中央部よりやや北西側											
住居内施設	有無	有	内容	P7~P9入口施設か			遺物	なし				
埋甕・伏甕	有無	有	状態	正位	蓋石	なし		遺物	第9図1			
増改築	有無	無		根拠								
床下遺構	有無	無						遺物				
その他												

(吉川)

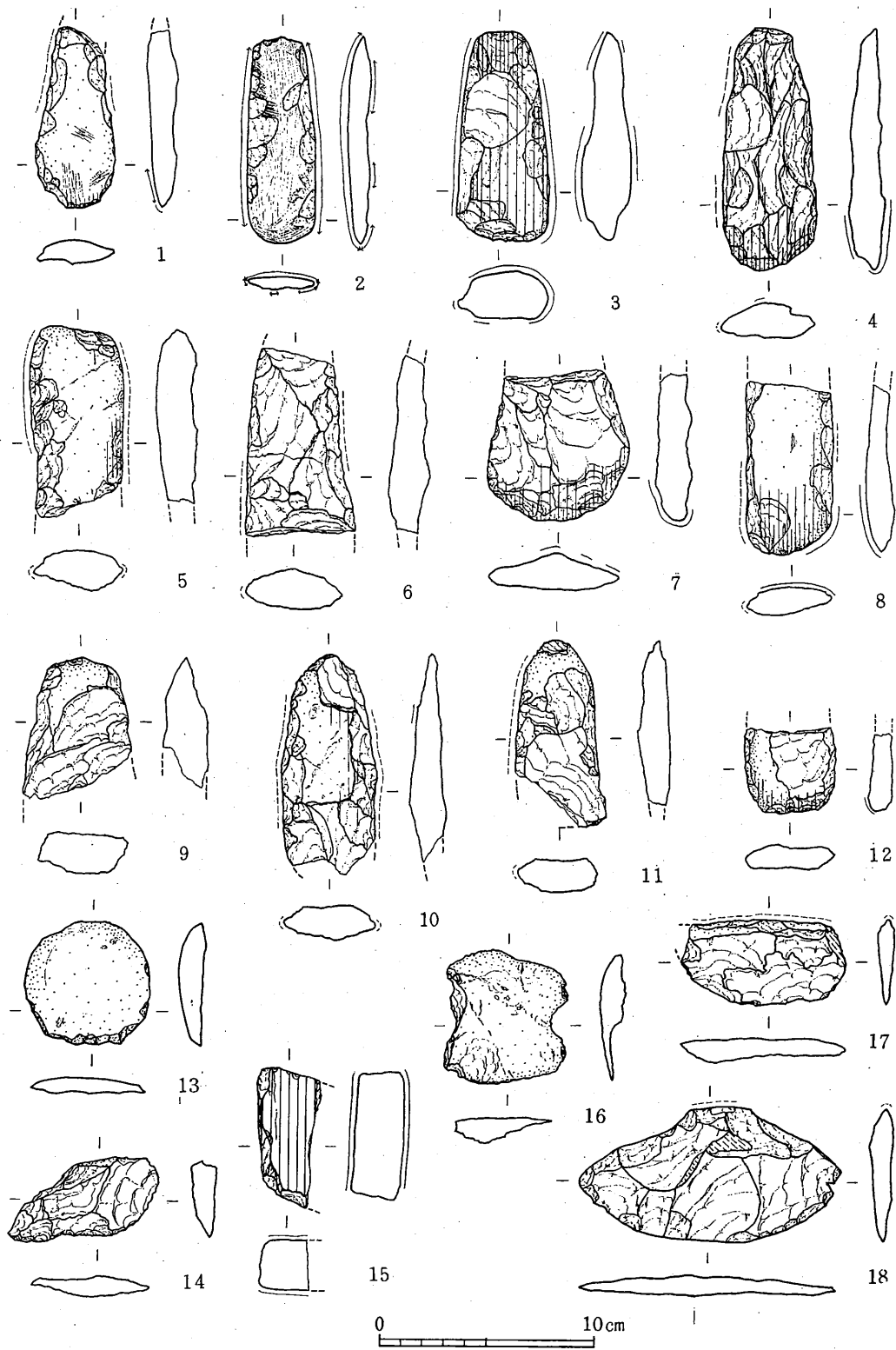
第2表 5号住居址



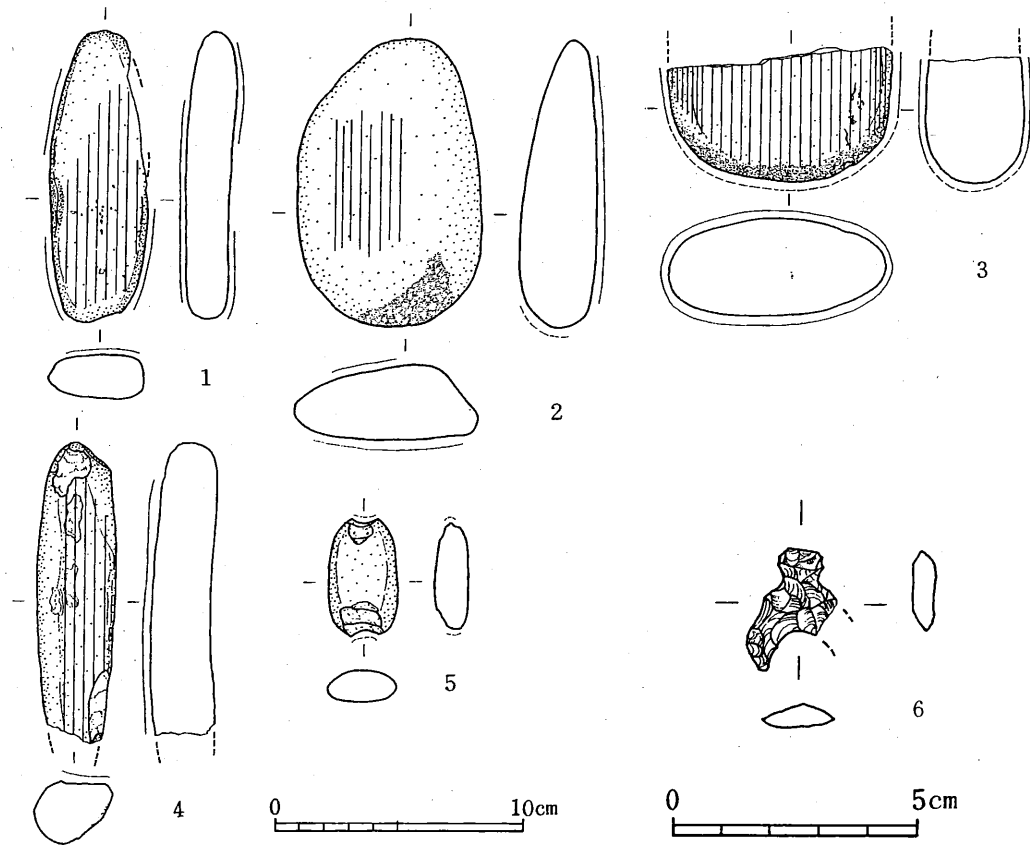
第9図 5号住居址出土遺物



第10图 5号住居址出土遺物

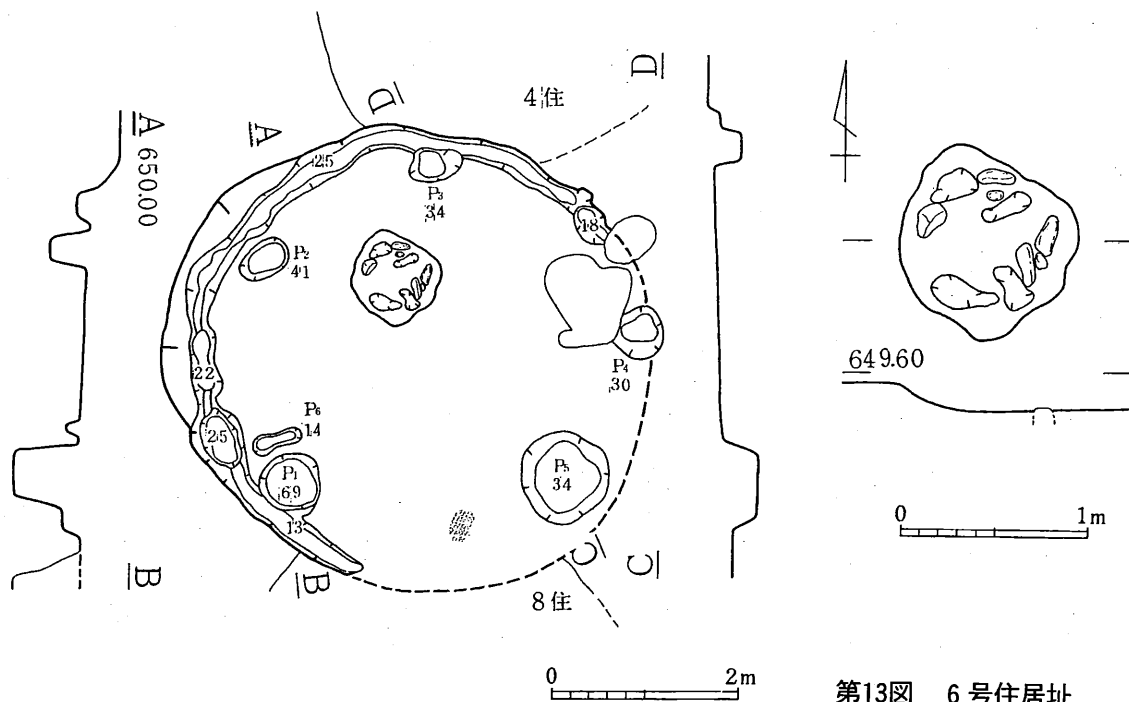


第11图 5号住居址出土遗物



第12图 5号住居址出土遺物

(3) 6号住居址 (第13图・第3表・第14图)



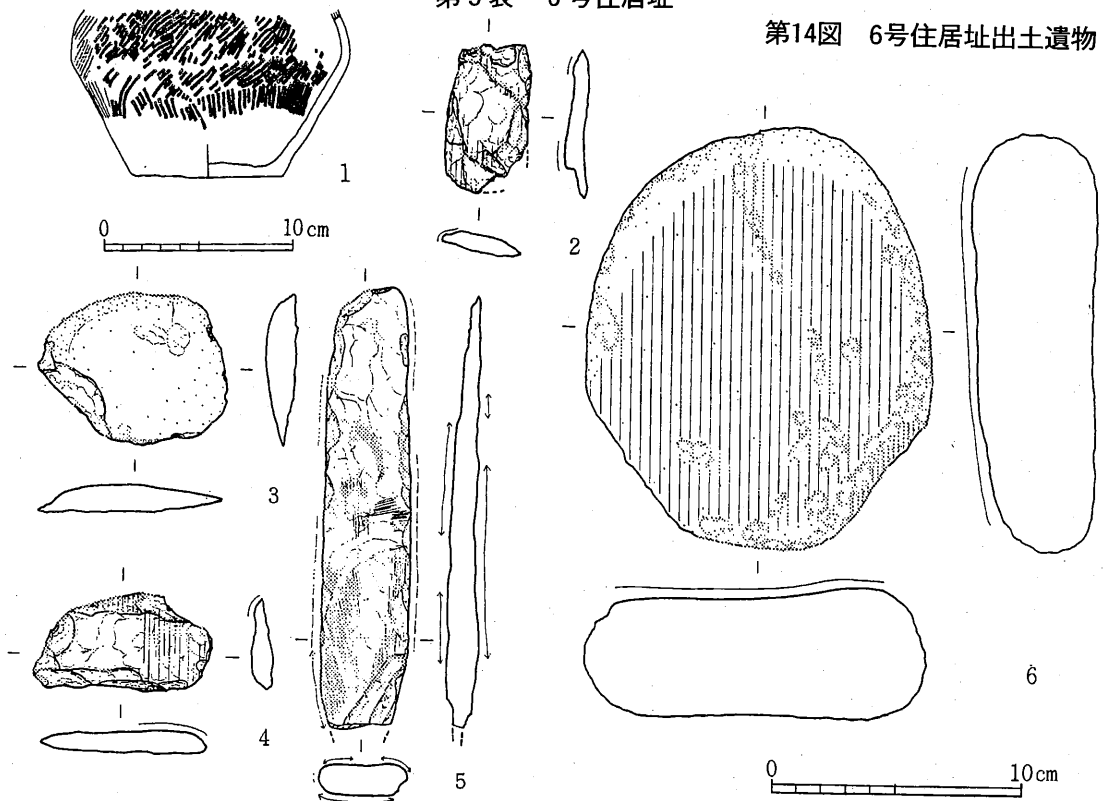
第13图 6号住居址

遺構番号	6号住居址	時期	中期後葉	検出位置	BT-35	検出面	地山		
平面検出	結果	明確	根拠	土の差及び遺物分布					
新旧関係	4号・8号住居址を切る			根拠	埋土の状況				
埋土	分層	単層		埋没過程	自然埋没		包含物		
平面プラン	円形		規模	(5.2)×5.0m		主軸	N20°W		
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	有	貼替え
床面焼土等	有無	無		状況					
壁	検出	地山を掘り込み明確				状態	ややなだらか		
柱穴	有無	有	内容	P1~P5主柱穴		遺物	なし	柱痕	なし
周溝	状態	西側半分			遺物	なし			
炉	石が入り、炉縁石が抜き取られた跡有り。中央やや北側で確認								
住居内施設	有無	無	内容			遺物			
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石	遺物				
増改築	有無	無	根拠						
床下遺構	有無	無			遺物				
その他	・東側は斜面・下部で検出できず								

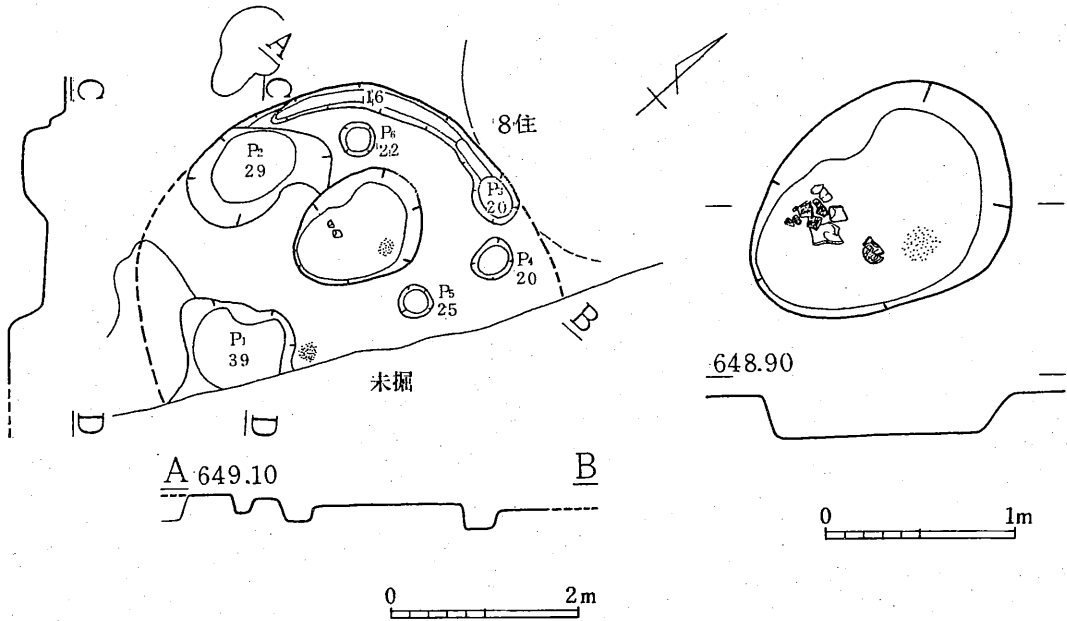
(福澤)

第3表 6号住居址

第14図 6号住居址出土遺物



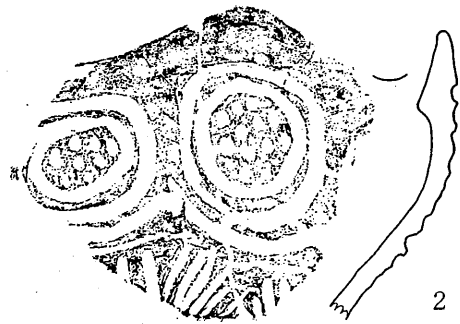
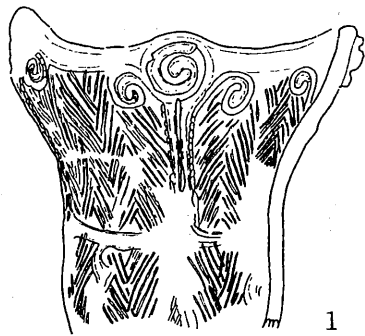
(4) 7号住居址 (第15図・第4表・第16図)



第15図 7号住居址

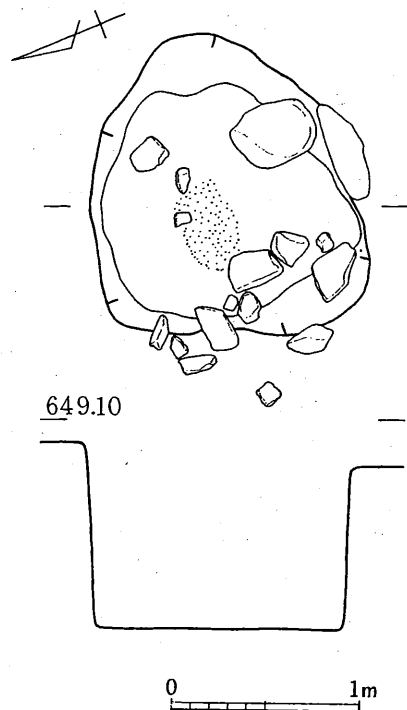
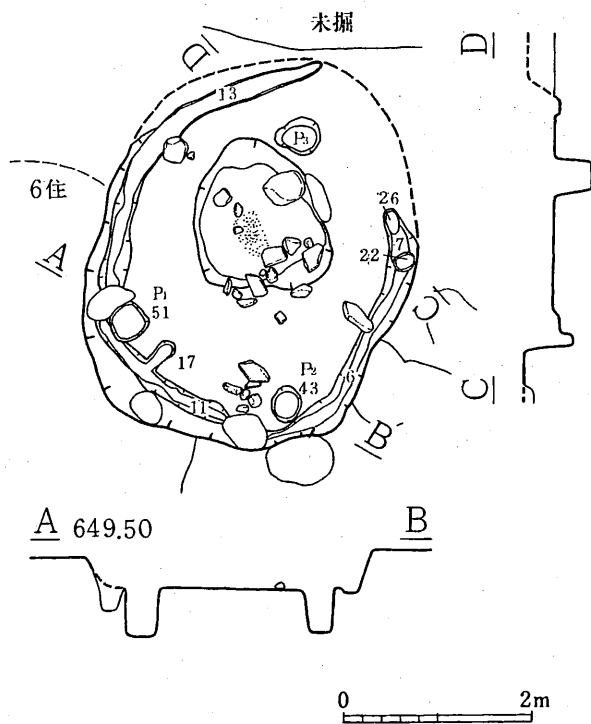
遺構番号	7号住居址	時期	中期後葉III b	検出位置	BQ-35	検出面	地山		
平面検出	結果	明確	根拠	土の差及び遺物分布					
新旧関係	8号住居址を切る			根拠	出土土器				
埋土	分層	単層		埋没過程	自然埋没		包含物		
平面プラン	不整円形		規模	(4.7) × (4.2)m		主軸	N 43° W		
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	有	貼替え
床面焼土等	有無	有	状況	ほぼ中央にわずかに確認					
壁	検出	地山を掘り込み明確				状態	ややなだらか		
柱穴	有無	有	内容	P1~P3主柱穴		遺物	なし	柱痕	なし
周溝	状態	北側で一部			遺物	なし			
炉	中央やや北西側で確認、焼けている								
住居内施設	有無	無	内容				遺物		
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石				遺物	
増改築	有無	無	根拠						
床下遺構	有無	無				遺物			
その他	・東側は調査区外にかかる ・南側の差は斜面下部で検出できず						(福澤)		

第4表 7号住居址



第16図 7号住居址出土遺物

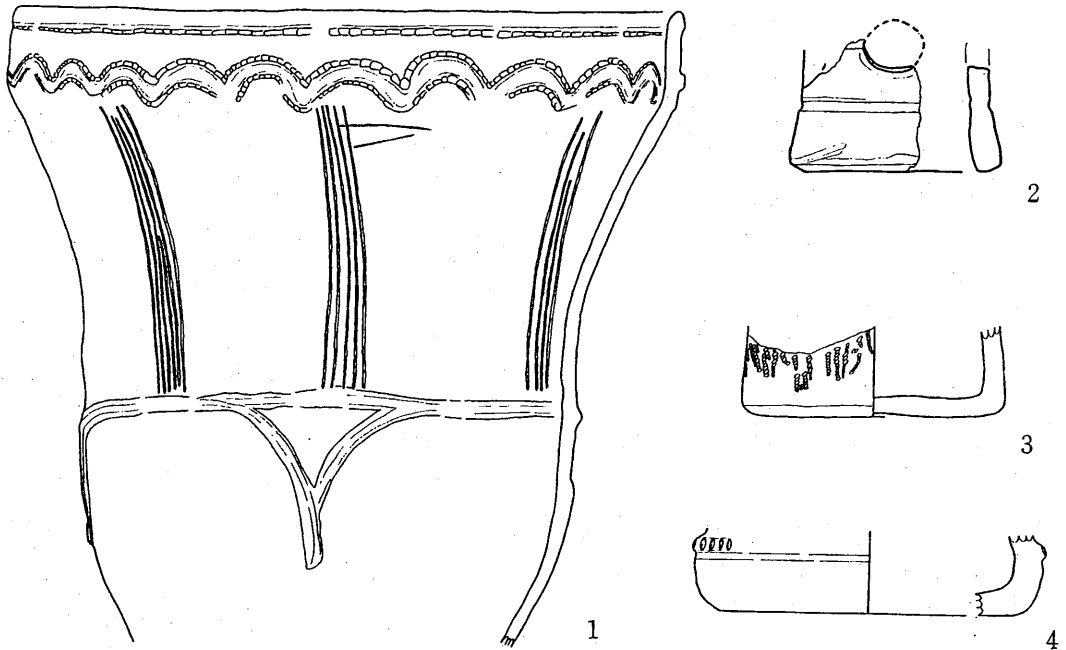
(5) 8号住居址 (第17図・第5表・第18図~第20図)



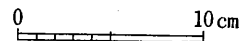
第17図 8号住居址

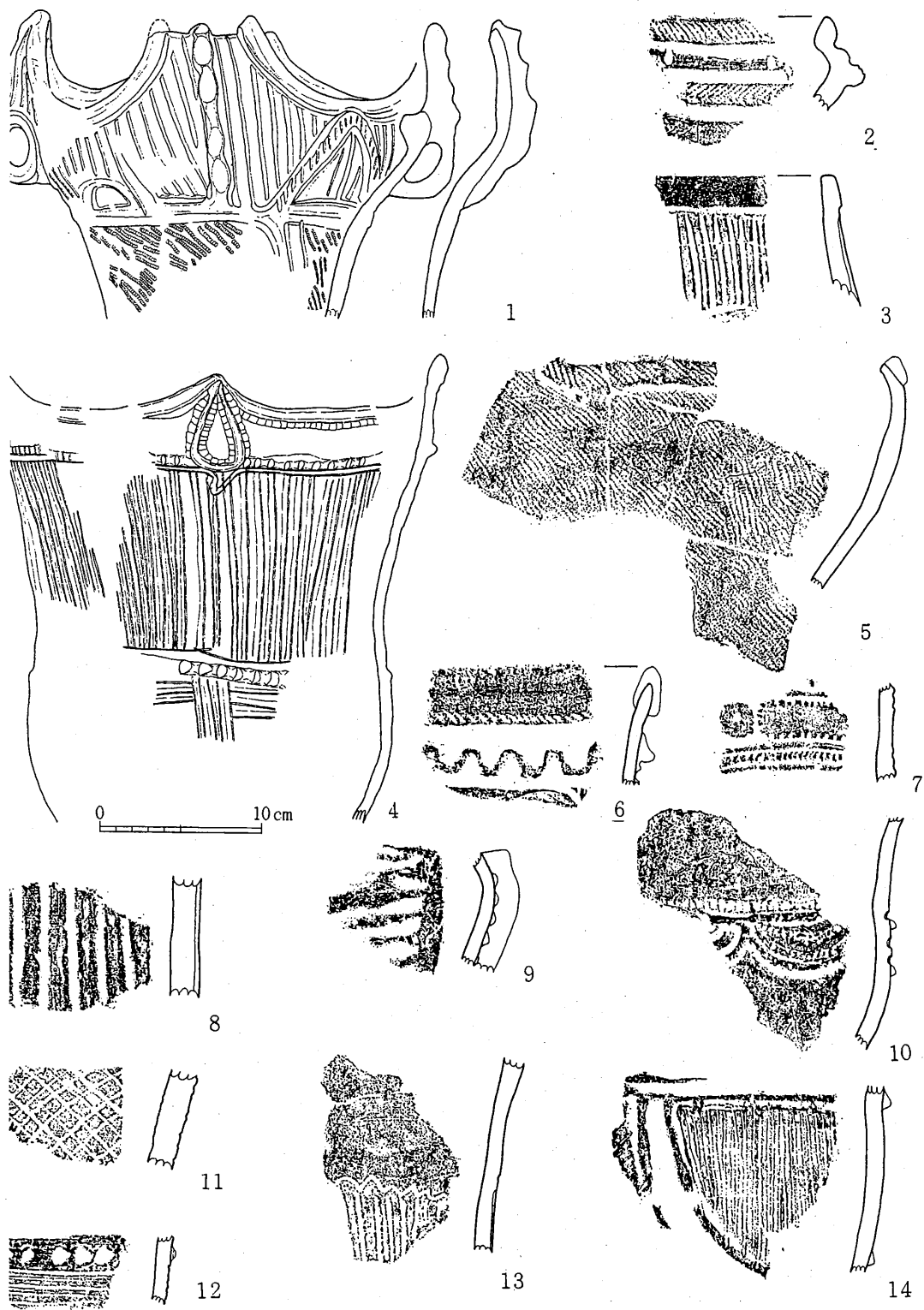
遺構番号	8号住居址	時期	中期中葉末	検出位置	BS-35	検出面	地山			
平面検出	結果	明確	根拠	土の差						
新旧関係	6号・7号住居址に切られる			根拠	出土土器					
埋土	分層	単層	埋没過程	自然埋没		包含物				
平面プラン	不整円形		規模	(4.2)×3.3m		主軸	N133°E			
床	検出	明確	状態	軟弱	掘方	なし	貼床	有	貼替え	
床面焼土等	有無	無	状況							
壁	検出	地山を掘り込み明確				状態	ややなだらか			
柱穴	有無	有	内容	P1~P3主柱穴		遺物	なし	柱痕	なし	
周溝	状態	ほぼ全周で確認、幅約20m			遺物	なし				
炉	中央で確認、埋土に石が入る									
住居内施設	有無	無	内容				遺物			
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石				遺物		
増改築	有無	無	根拠							
床下遺構	有無	無				遺物				
その他	・東側の壁は斜面下部で検出できず							(福澤)		

第5表 8号住居址



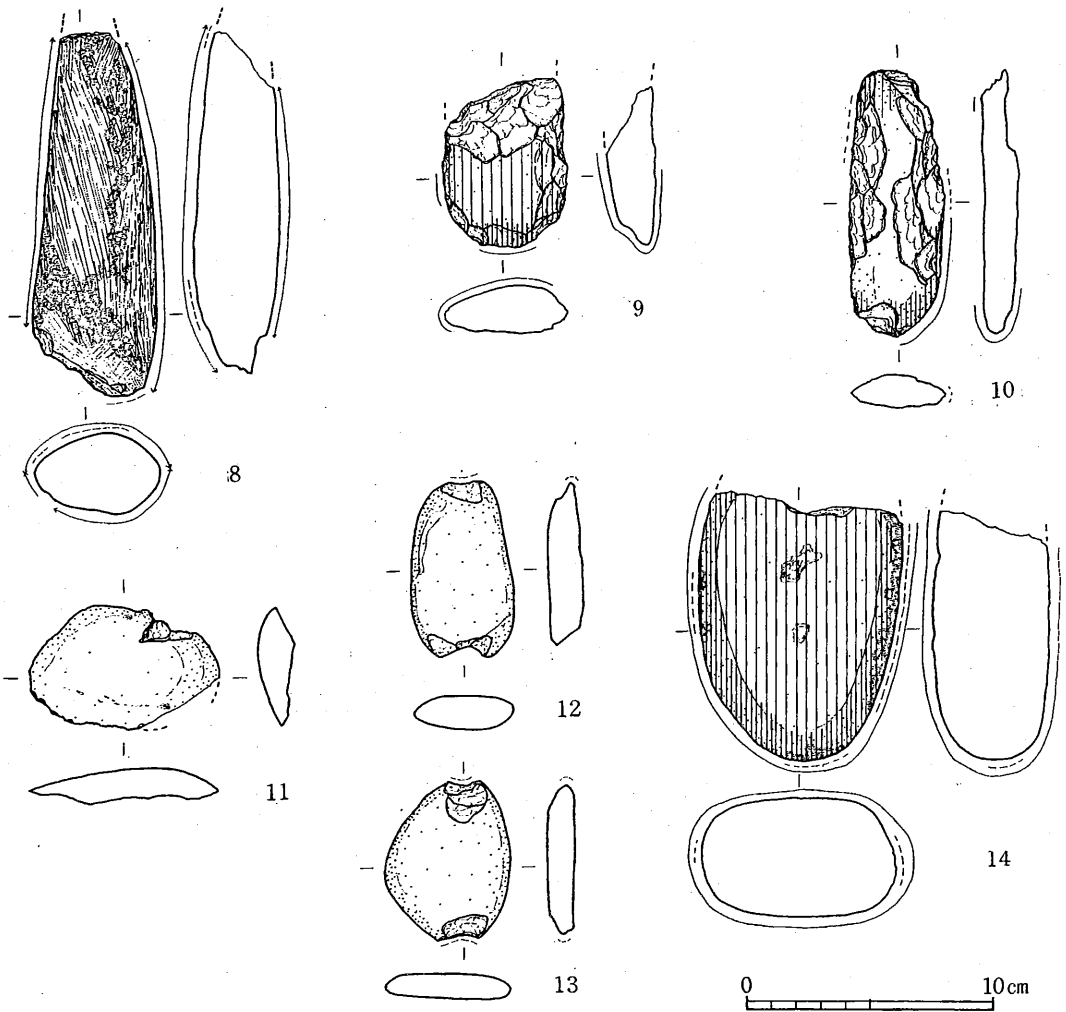
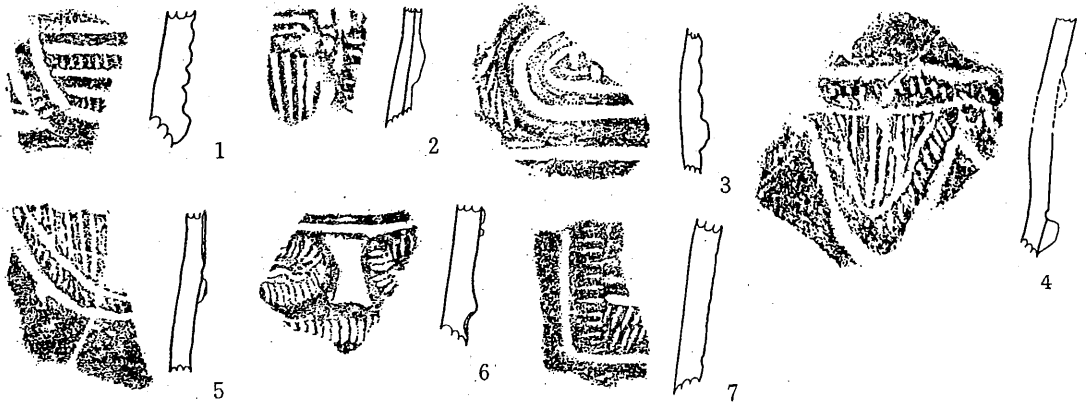
第18図 8号住居址出土遺物





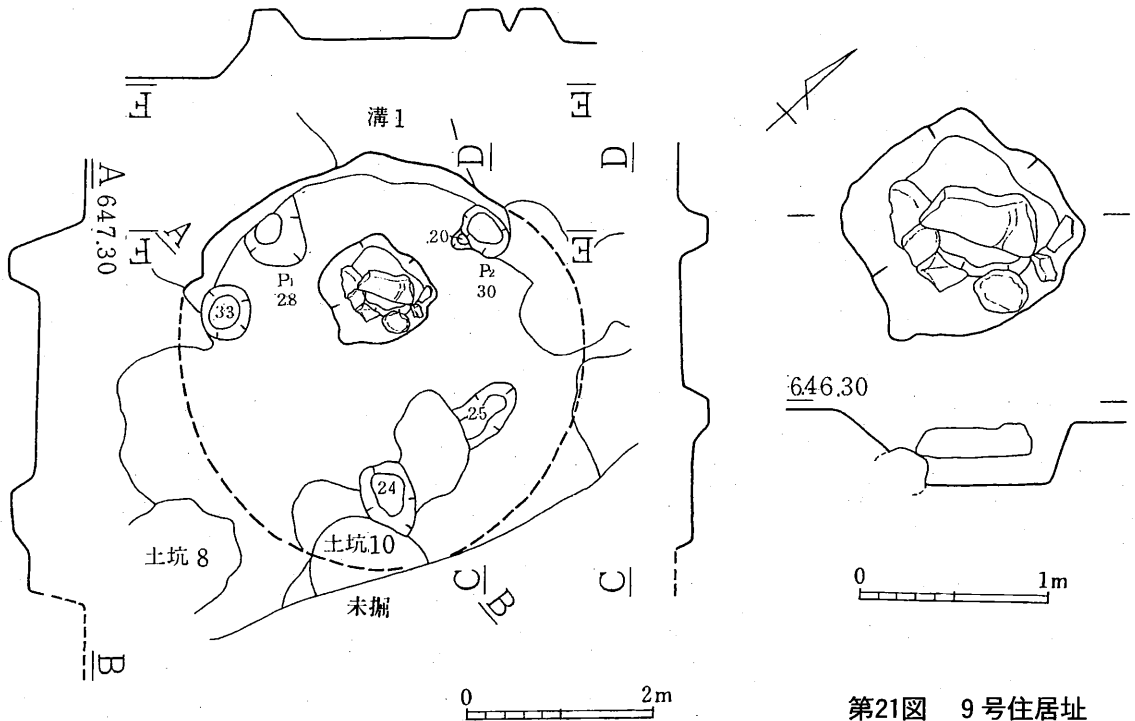
第19图 8号住居址出土遺物

0 10cm



第20图 8号住居址出土遗物

(6) 9号住居址 (第21図・第6表)

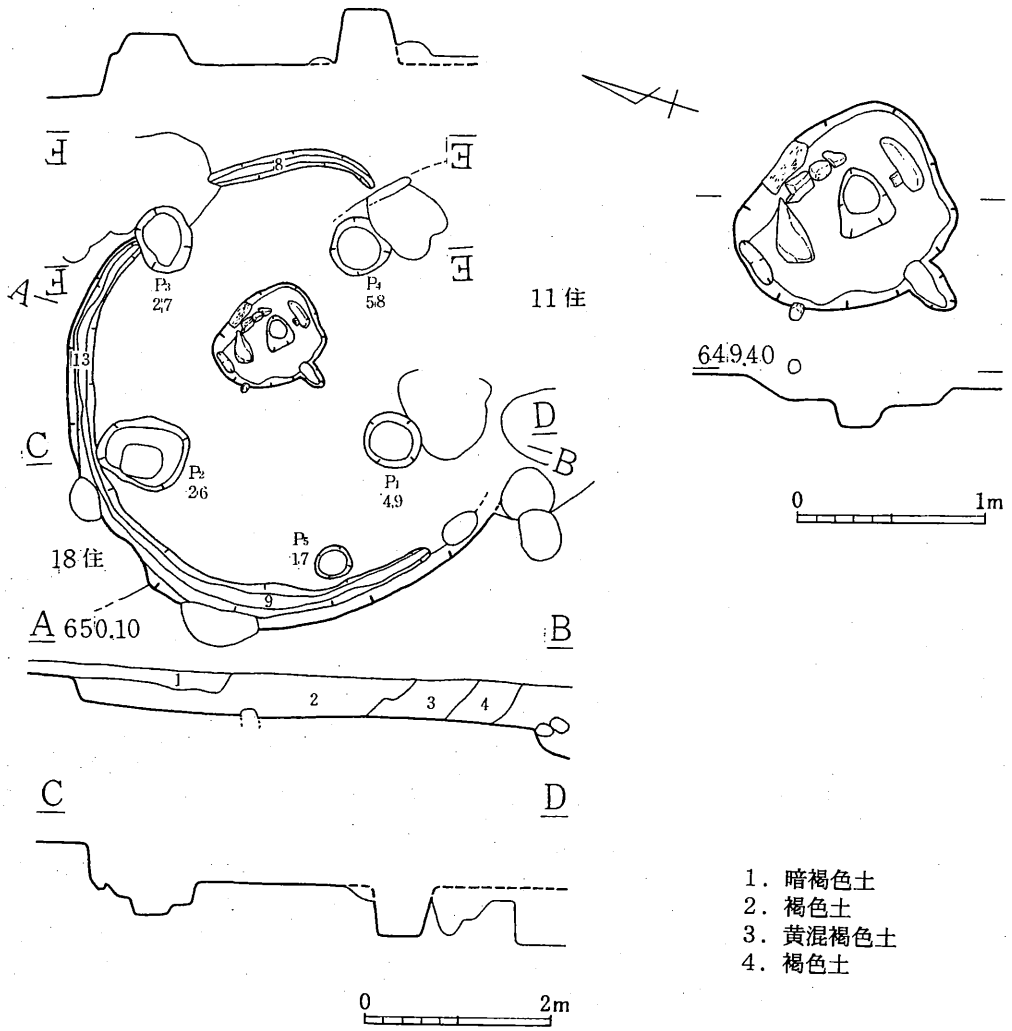


第21図 9号住居址

遺構番号	9号住居址			時期	中期中葉末		検出位置	BL-40	検出面	地山	
平面検出	結果	不明瞭		根拠	炉の存在						
新旧関係	溝1・土坑10に切られる						根拠	覆土の差			
埋土	分層	単層			埋没過程	自然埋没			包含物	なし	
平面プラン	円形			規模	(440)×(430)m			主軸	N51°W		
床	検出	不明確	状態	軟弱		掘方	なし	貼床	なし	貼替え	なし
床面焼土等	有無	無			状況						
壁	検出	不明瞭							状態	ややなだらか	
柱穴	有無	有	内容	P1・P2主柱穴		遺物	なし		柱痕	なし	
周溝	状態	なし					遺物				
炉	石囲炉(抜石あり) (115×120m) 中央部よりやや北西側										
住居内施設	有無	無	内容						遺物		
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石		遺物					
増改築	有無	無	根拠								
床下遺構	有無	無			遺物						
その他	・遺物は少ない ・炉址状態・周辺遺物分布より縄文中期中葉末 (吉川)										

第6表 9号住居址

(7) 10号住居址 (第22图·第7表·第23~27图)

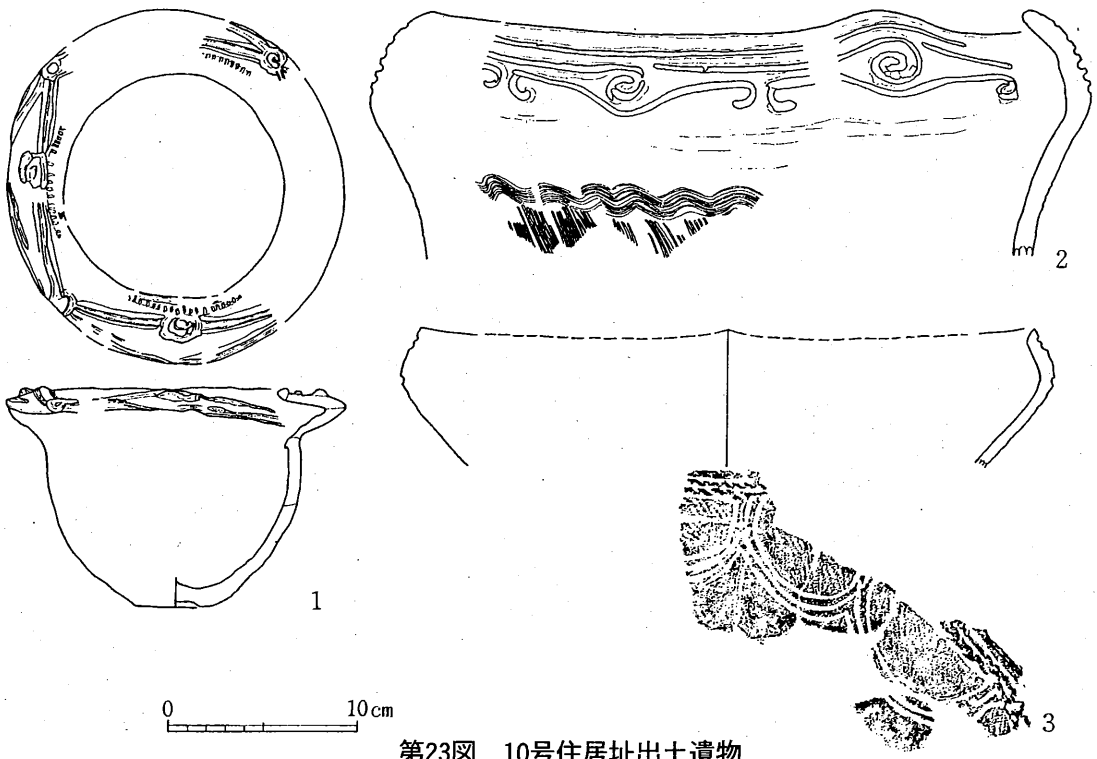


第22图 10号住居址

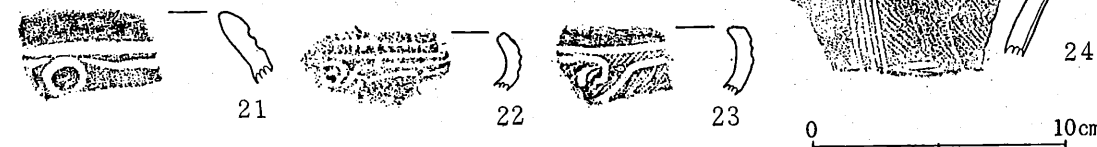
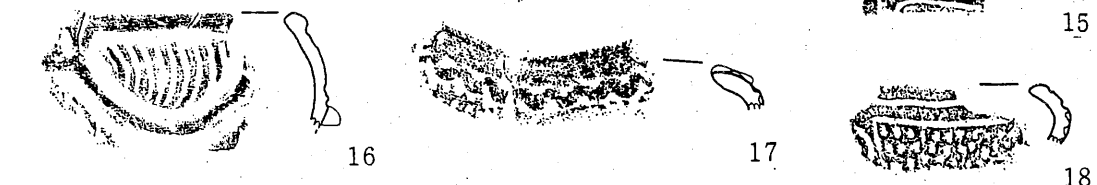
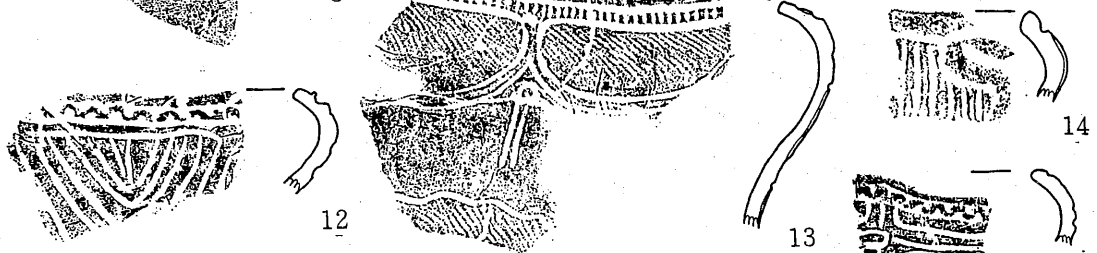
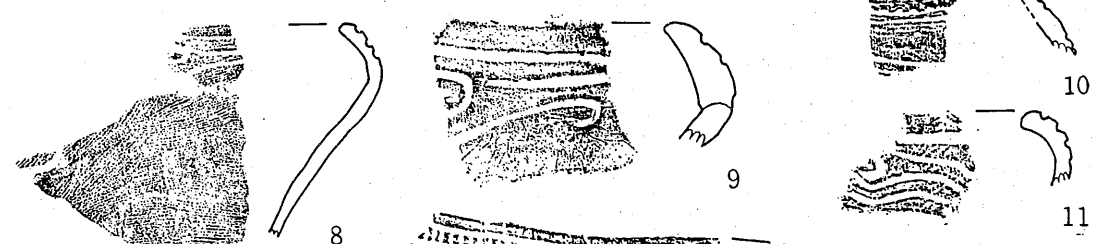
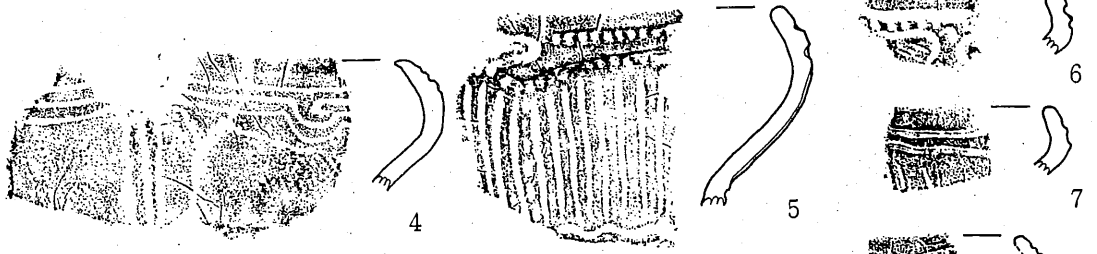
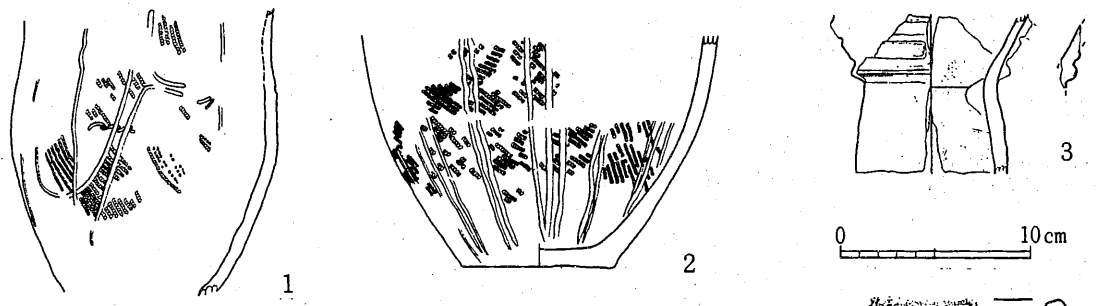
遺構番号	10号住居址	時期	中期後葉II期	検出位置	BR-31	検出面	地山		
平面検出	結果	明確	根拠	土の差					
新旧関係	11住居址を切り、18号住居址に切られる			根拠	出土土器				
埋土	分層	3層		埋没過程	自然埋没		包含物		
平面プラン	円形		規模	5.0×(4.9)m		主軸	N75°E		
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	なし	貼替え
床面焼土等	有無	無		状況					
壁	検出	地山を掘り込み明確				状態	ややなだらか		
柱穴	有無	有	内容	P1~P4主柱穴		遺物	わずか	柱痕	なし
周溝	状態	南側以外全周で確認			遺物	なし			
炉	中央で確認、炉縁石があり焼けている								
住居内施設	有無	無	内容			遺物			
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石			遺物		
増改築	有無	無	根拠						
床下遺構	有無	無			遺物				
その他									

(福澤)

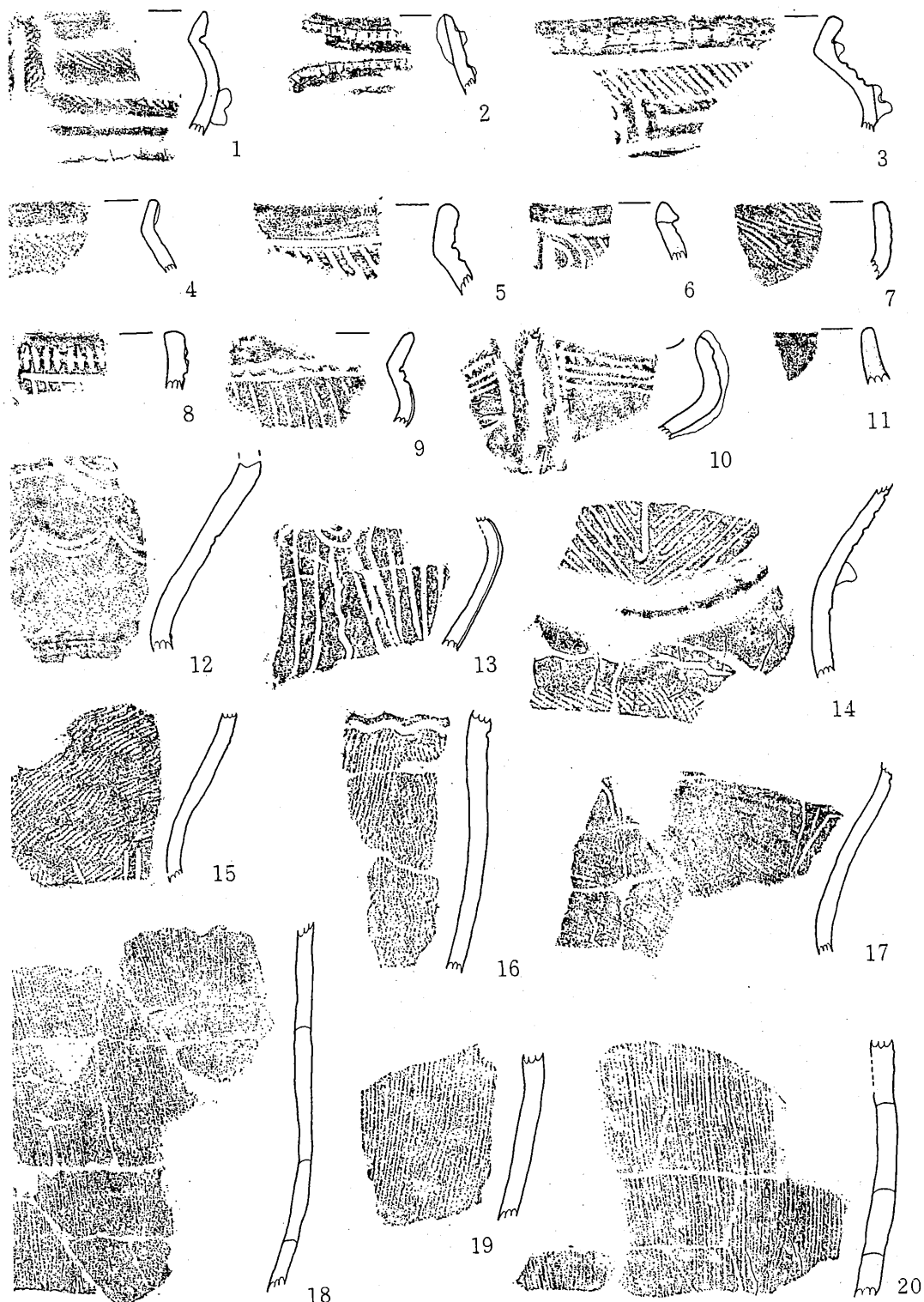
第7表 10号住居址



第23図 10号住居址出土遺物

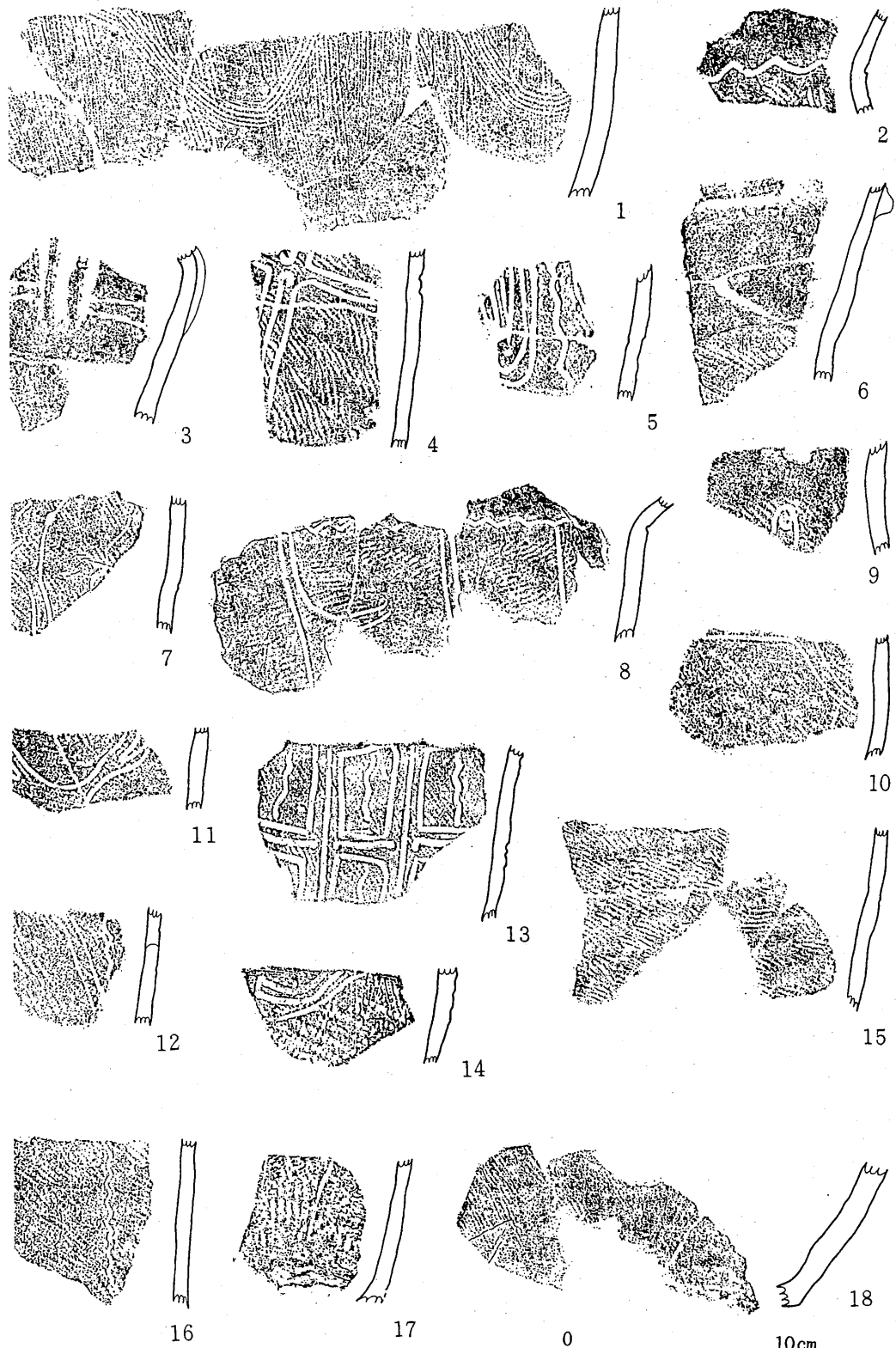


第24号 10号住居址出土遺物

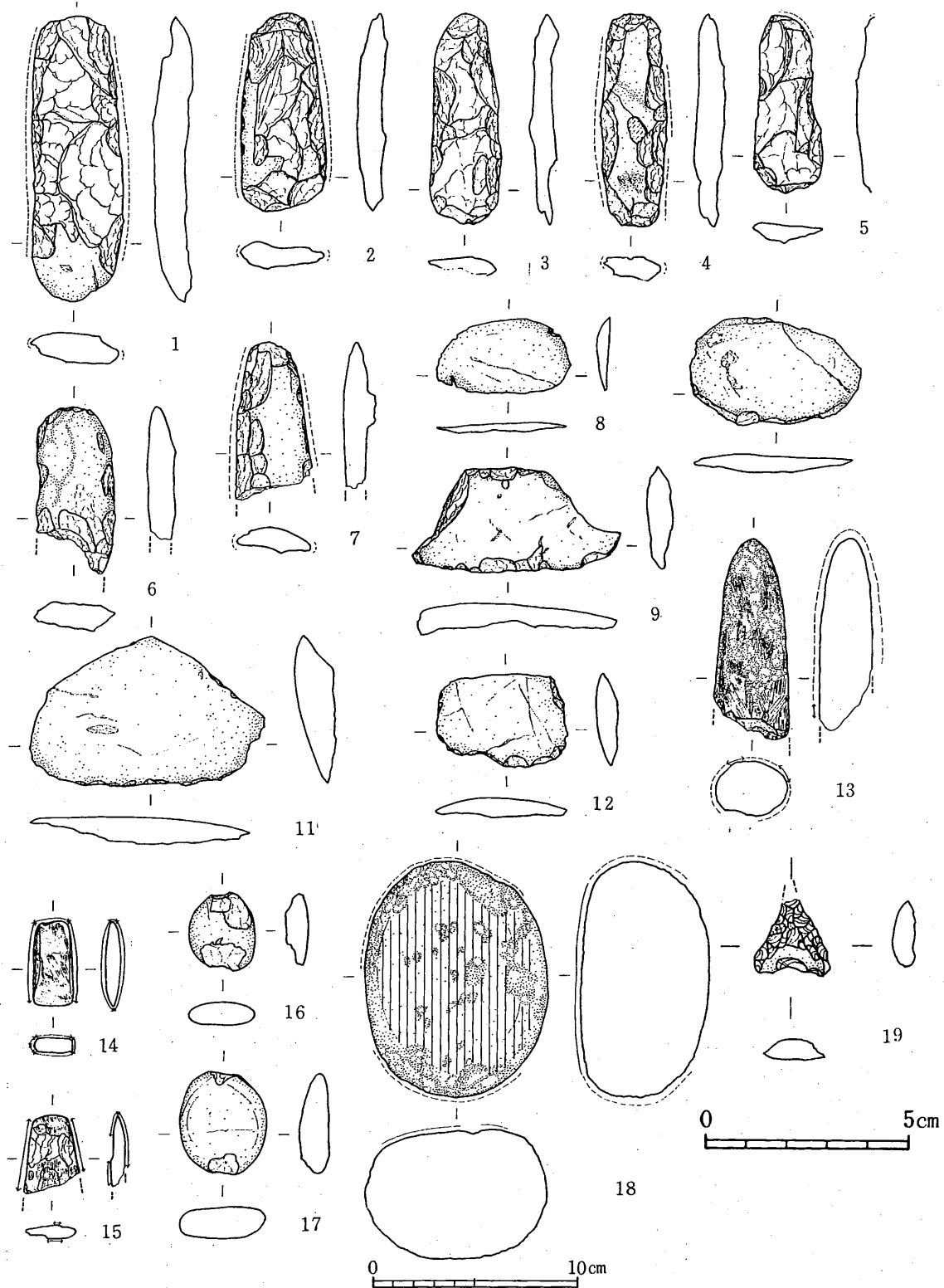


第25图 10号住居址出土遺物

0 10cm

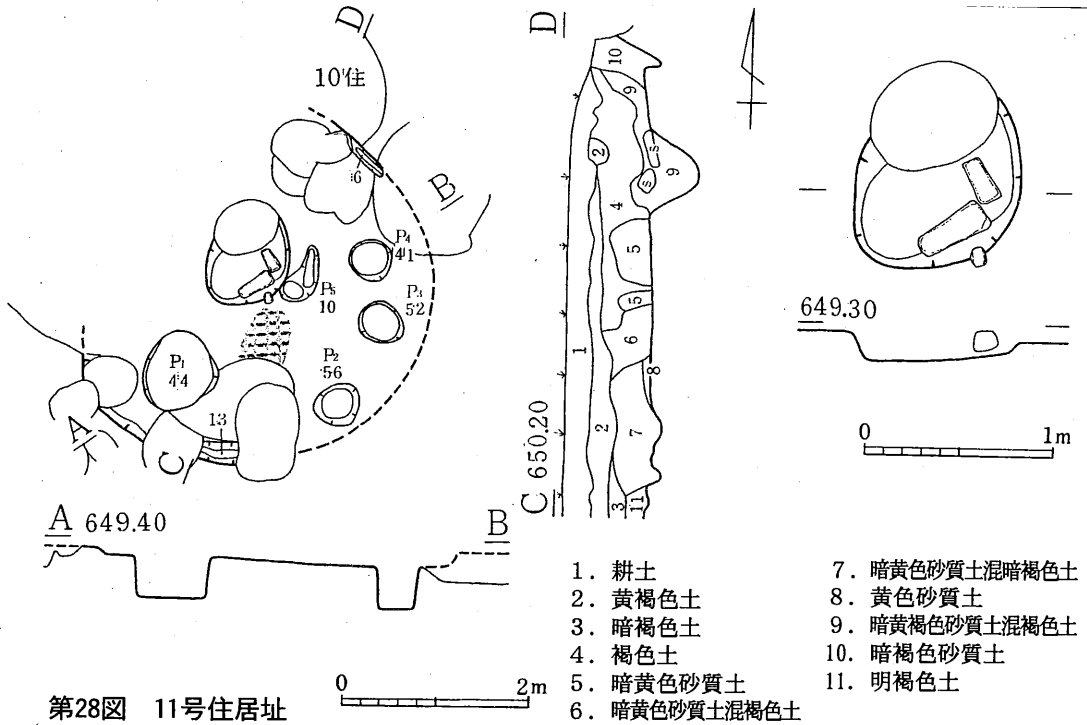


第26图 10号住居址出土遗物



第27图 10号住居址出土遺物

(8) 11号住居址 (第28図・第8表)



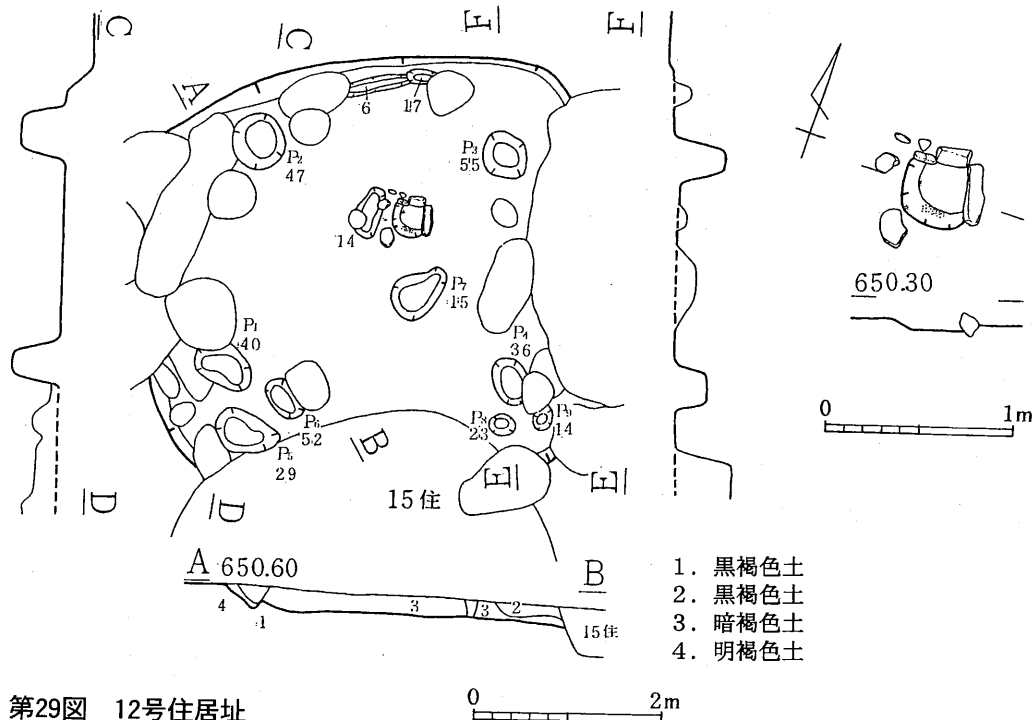
第28図 11号住居址

遺構番号	11号住居址	時期	中期後葉	検出位置	BQ-32	検出面	地山
平面検出	結果 不明確	根拠	重機により削平され、断面で確認				
新旧関係	10号住居址に切られる			根拠 断面より			
埋土	分層 2層	埋没過程		自然埋没		包含物	
平面プラン	不整形円形		規模		(3.8)×(2.6)m		主軸 N
床	検出 明確	状態 堅固	掘方 なし	貼床 なし	貼替え		
床面焼土等	有無 無	状況					
壁	検出 一部で確認					状態 なだらか	
柱穴	有無 有	内容 P1・2・4	主柱穴	遺物 なし	柱痕 なし		
周溝	状態 一部で確認			遺物 なし			
炉	中央で確認。炉縁石が残り、石囲炉である						
住居内施設	有無 無	内容			遺物		
埋甕・伏甕	有無 無	状態	蓋石	遺物			
増改築	有無 無	根拠					
床下遺構	有無 無			遺物			
その他	・遺物はほとんどなし						

(福澤)

第8表 11号住居址

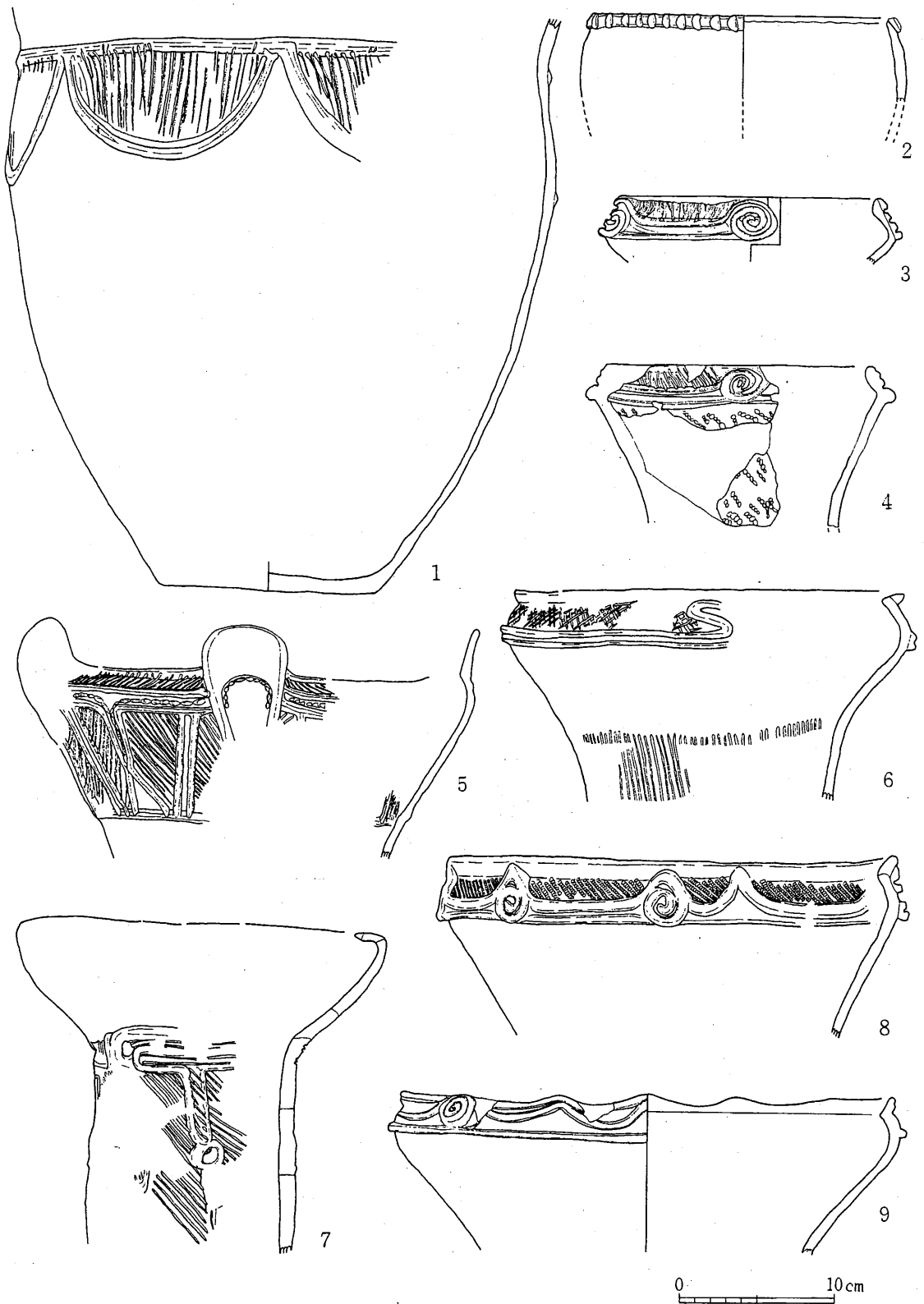
(9) 12号住居址 (第29図・第9表・第30~37図)



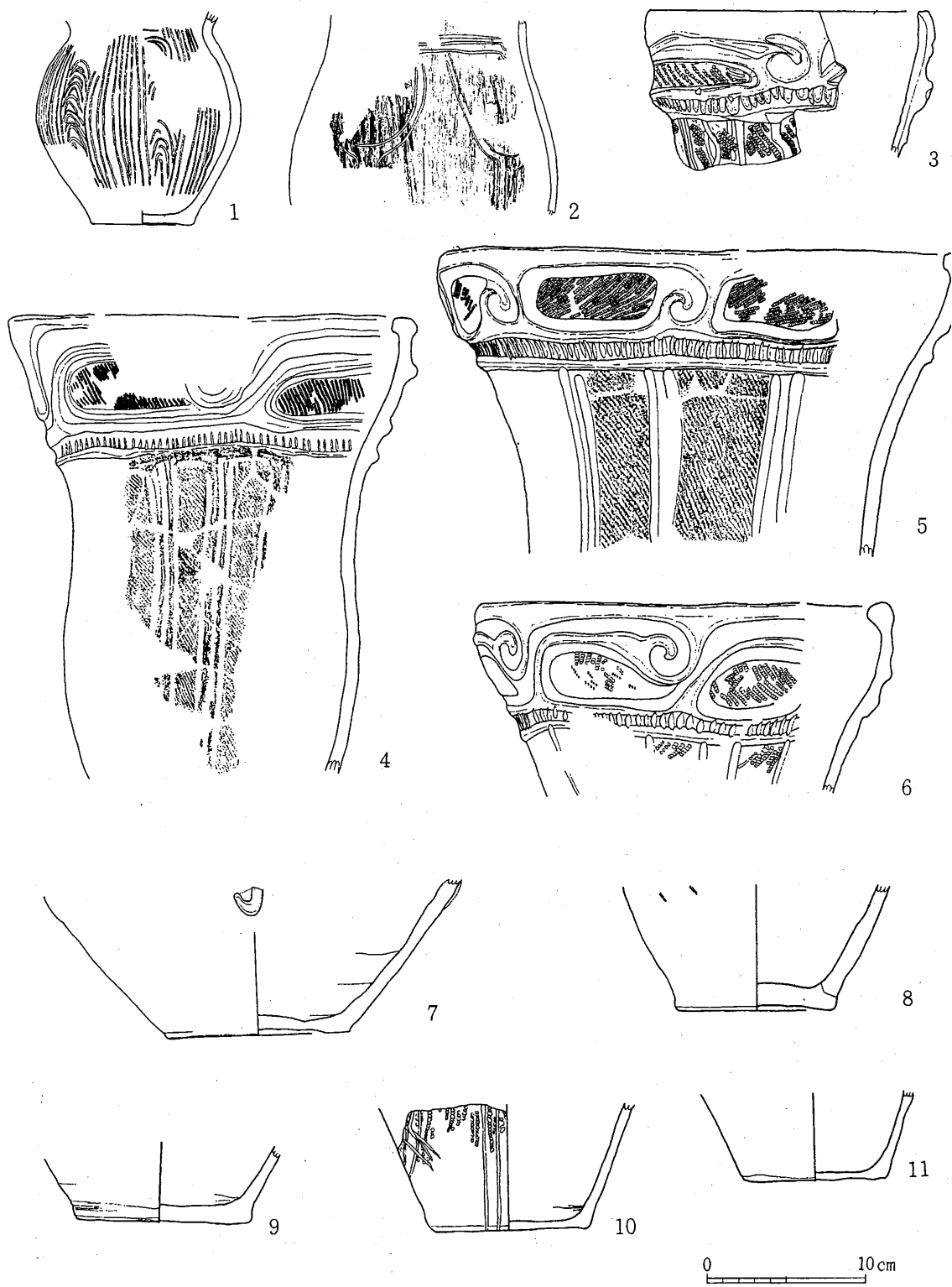
第29図 12号住居址

遺構番号	12号住居址	時期	中期後葉I期	検出位置	BV-30	検出面	地山		
平面検出	結果	明確	根拠	土の差					
新旧関係	15号住居址に切られる			根拠	セクションから				
埋土	分層	2層		埋没過程	自然埋没		包含物	炭化物	
平面プラン	楕円形		規模	(4.8)×(5.4)m		主軸	N30°W		
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	なし	貼替え
床面焼土等	有無	有		状況	炉付近でわずか				
壁	検出	地山を掘り込み明確				状態	ややなだらか		
柱穴	有無	有	内容	P1~P4主柱穴		遺物	わずか	柱痕	なし
周溝	状態	北側で一部確認			遺物	なし			
炉	中心やや北側で確認。炉縁石があり焼けている								
住居内施設	有無	無	内容				遺物		
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石				遺物	
増改築	有無	無	根拠						
床下遺構	有無	無				遺物			
その他	・埋土中からは中期中葉と中期後葉の二時期の土器が出土する ・住居址が2軒あったと思われる (福澤)								

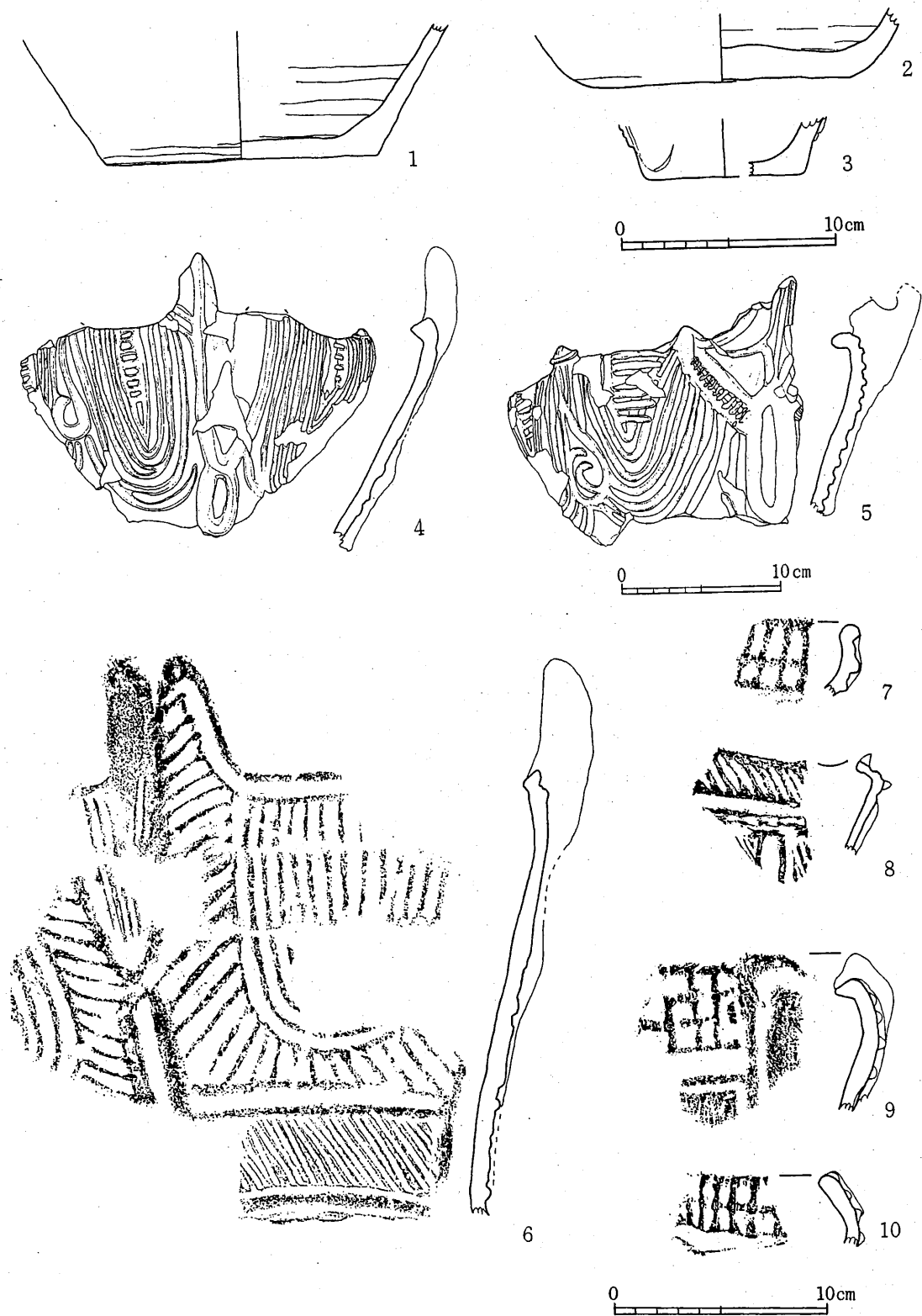
第9表 12号住居址



第30图 12号住居址出土遗物



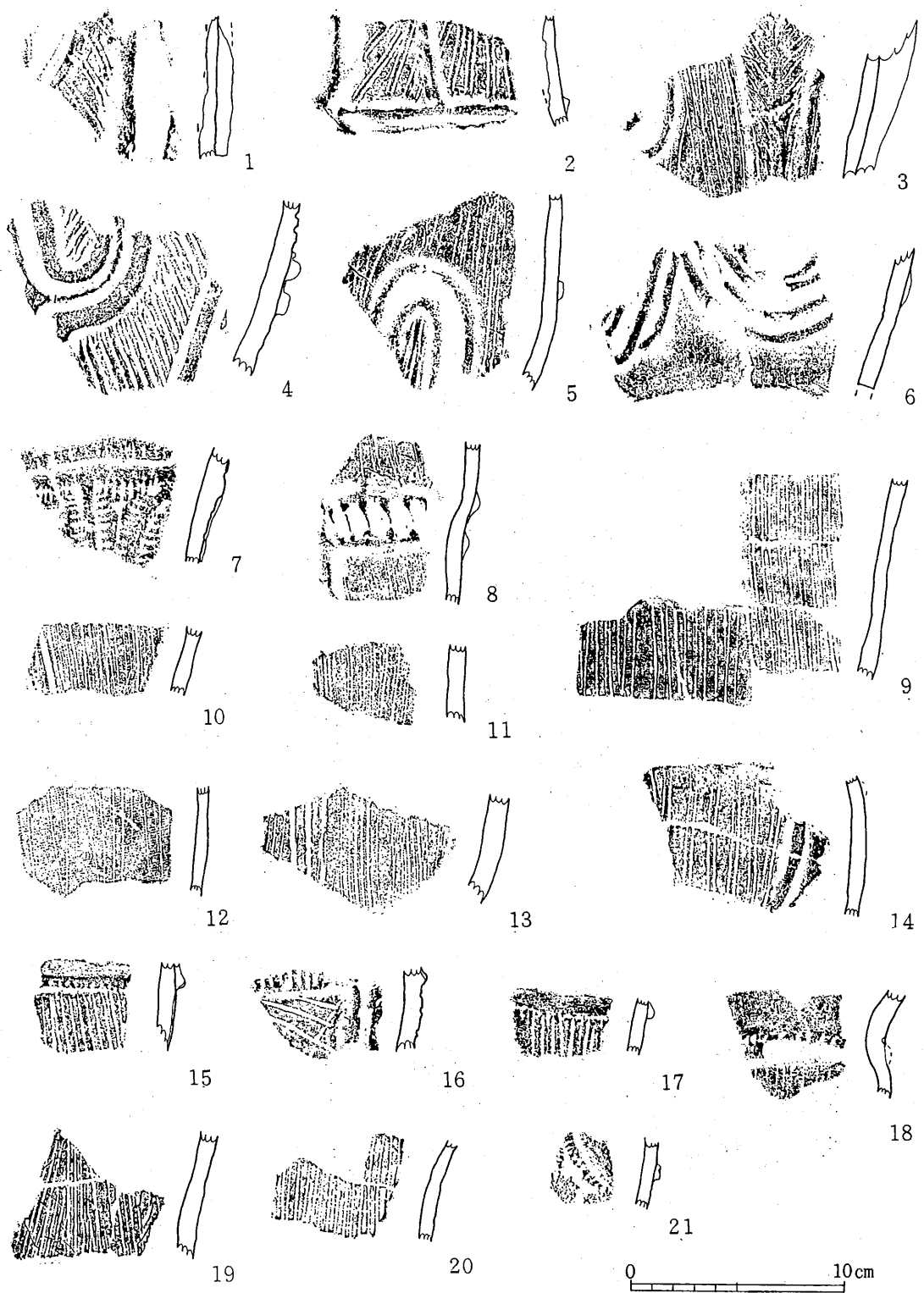
第31图 12号住居址出土遗物



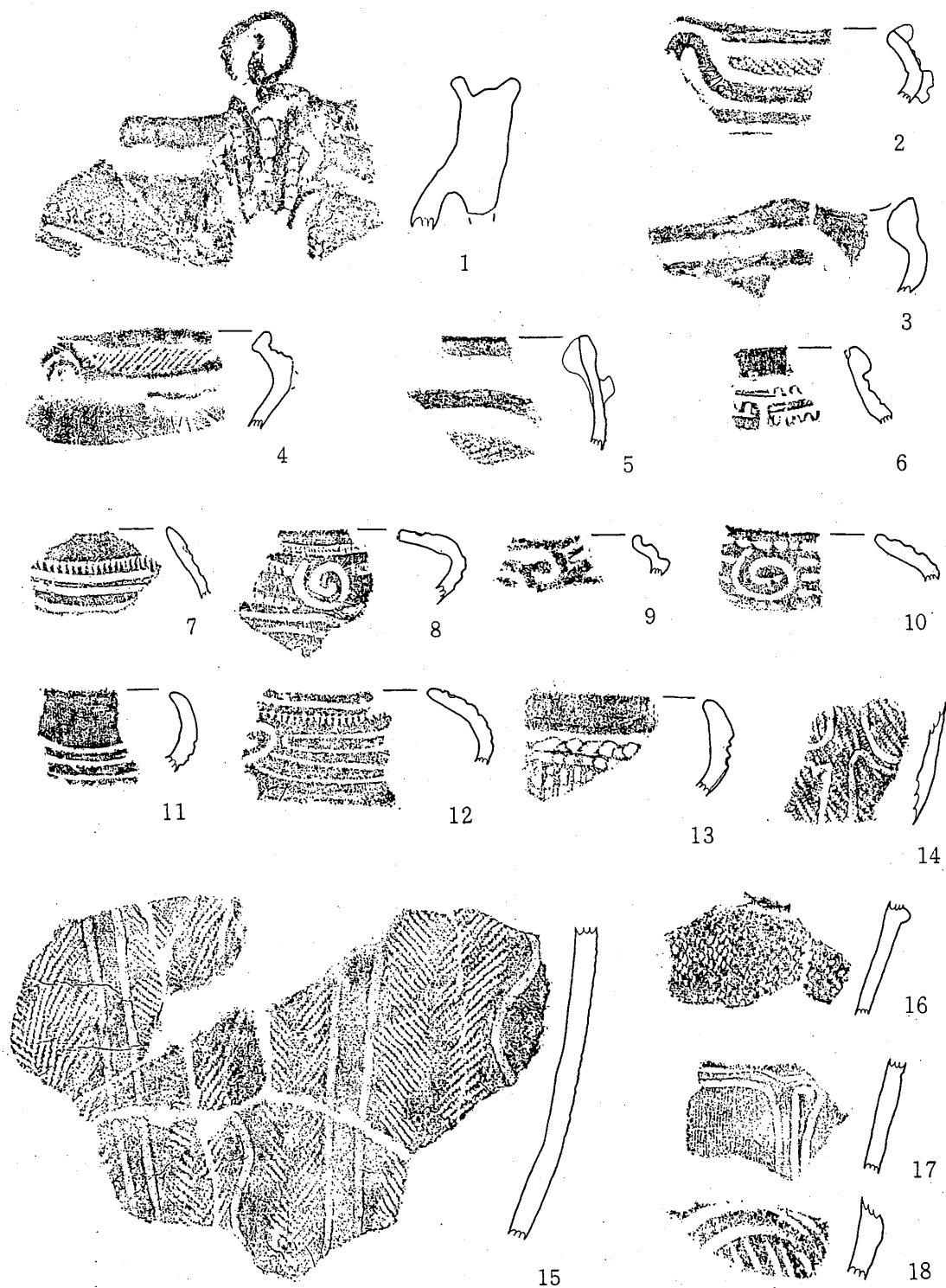
第32图 12号住居址出土遗物



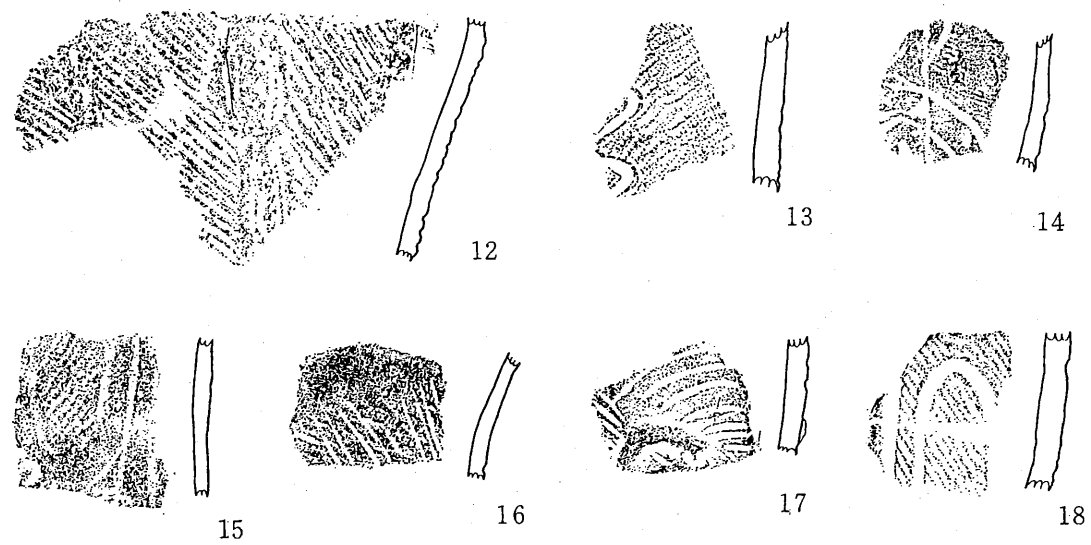
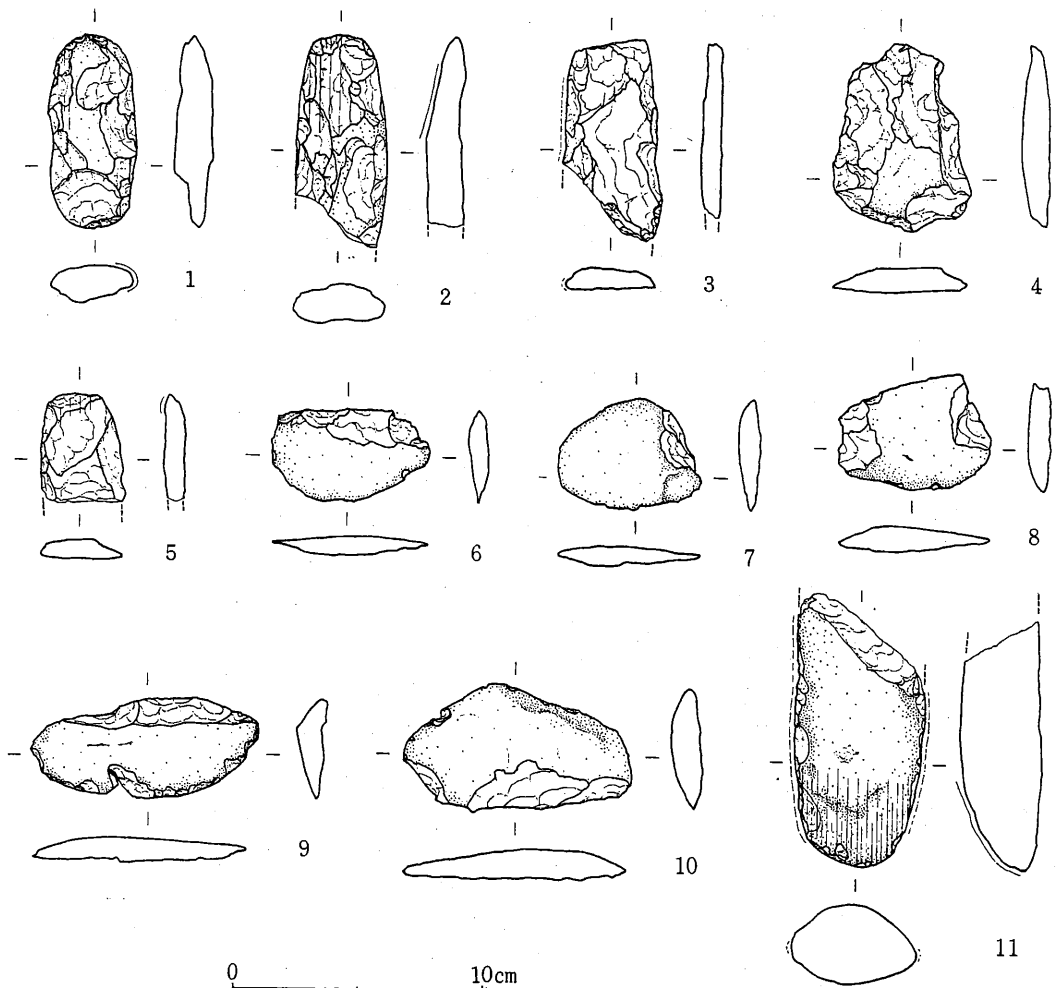
第33图 12号住居址出土遺物



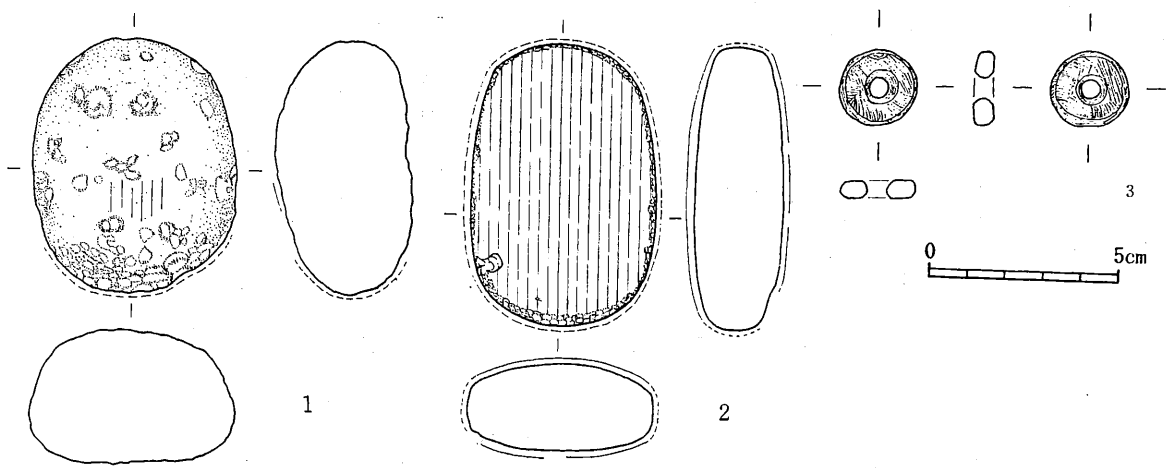
第34图 12号住居址出土遺物



第35图 12号住居址出土遺物



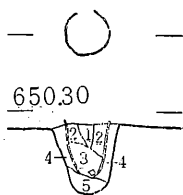
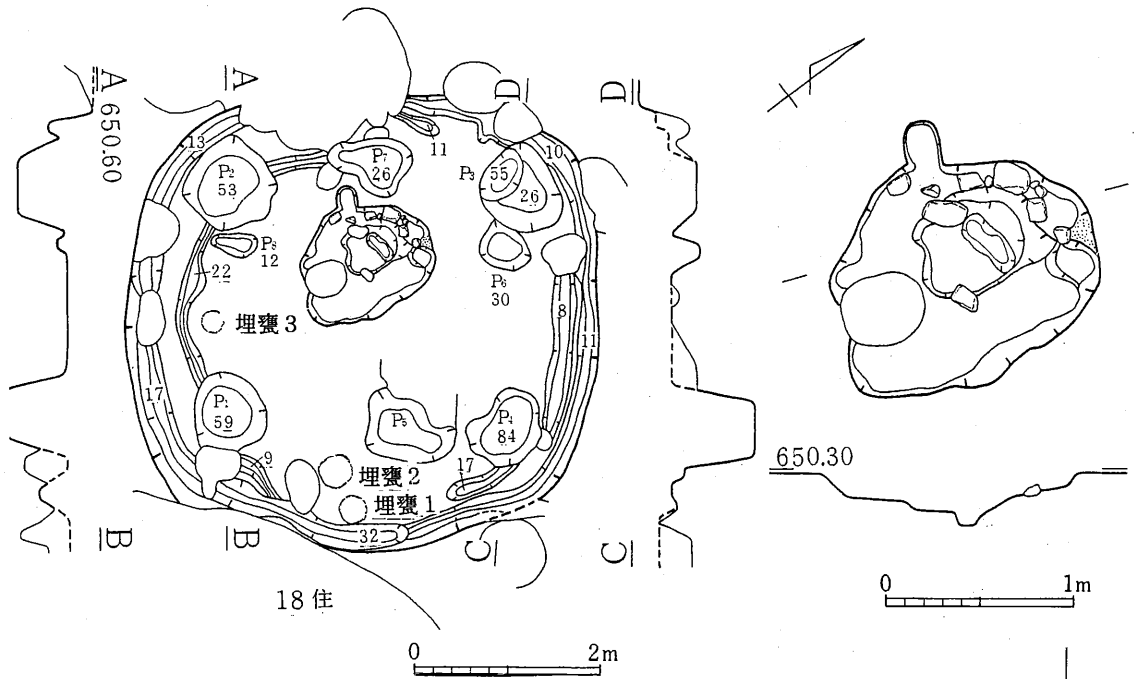
第36图 12号住居址出土遺物



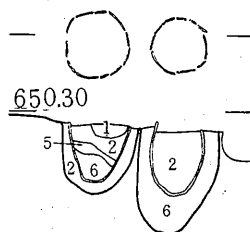
第37图 12号住居址出土遺物

0 10cm

(10) 13号住居址(第38图·第10表·第39图~41图)



埋葬 3



埋葬 1・2

1. 黄色粘質土
2. 暗褐色土
3. 明褐色土
4. 黄色土混暗褐色土
5. 黄褐色土
6. 褐色土

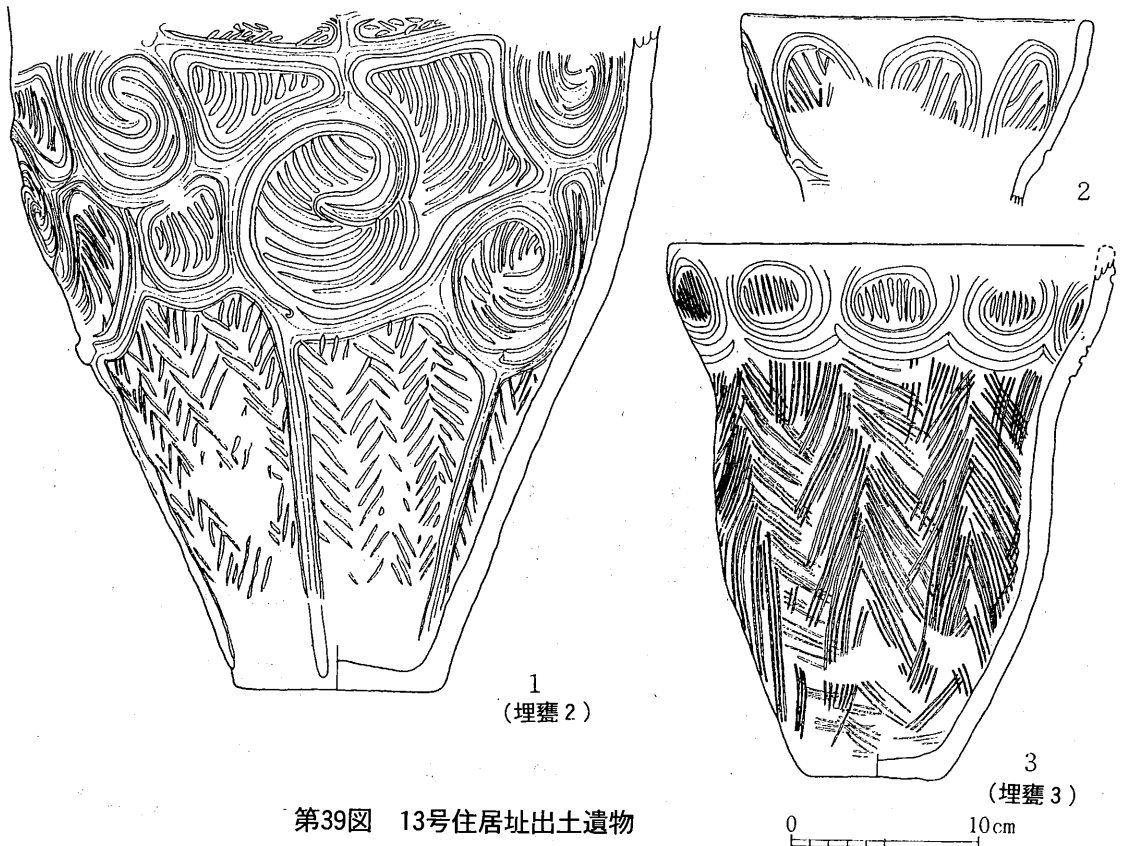
0 1m

第38图 13号住居址

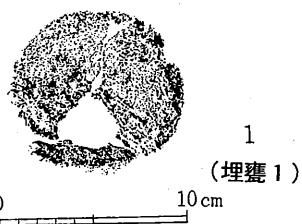
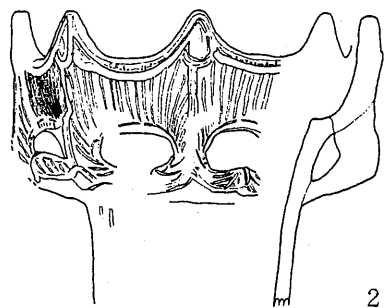
遺構番号	13号住居址	時期	中期後葉III b	検出位置	BV-30	検出面	地山			
平面検出	結果	明確	根拠	土の差及び遺物の分布						
新旧関係	14号住居址を切る				根拠	14号住居址の床の状況				
埋土	分層	単層		埋没過程	自然埋没		包含物	炭化物		
平面プラン	不整円形		規模	4.7×5.0m		主軸	N51°W			
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	あり	貼替え	
床面焼土等	有無	無		状況						
壁	検出	地山を掘り込み明確				状態	ややなだらか			
柱穴	有無	有	内容	P1~P4支柱穴		遺物	多い		柱痕	なし
周溝	状態	全周で確認 幅25cm程			遺物	わずかに確認				
炉	中央やや西側で確認。炉縁石の一部が残り、抜き取った跡、焼土も確認されている									
住居内施設	有無	無	内容				遺物			
埋甕・伏甕	有無	有	状態	正位	蓋石	なし	遺物	3ヶ所3個体が確認できる		
増改築	有無	有	根拠	周溝が二重になるため						
床下遺構	有無	無			遺物					
その他										

(福澤)

第10表 13号住居址

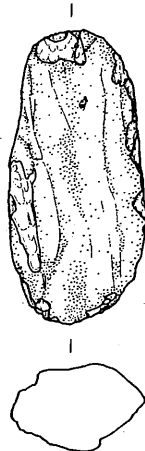
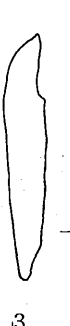
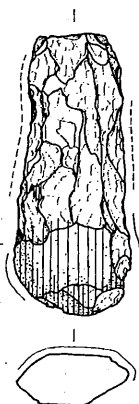


第39図 13号住居址出土遺物



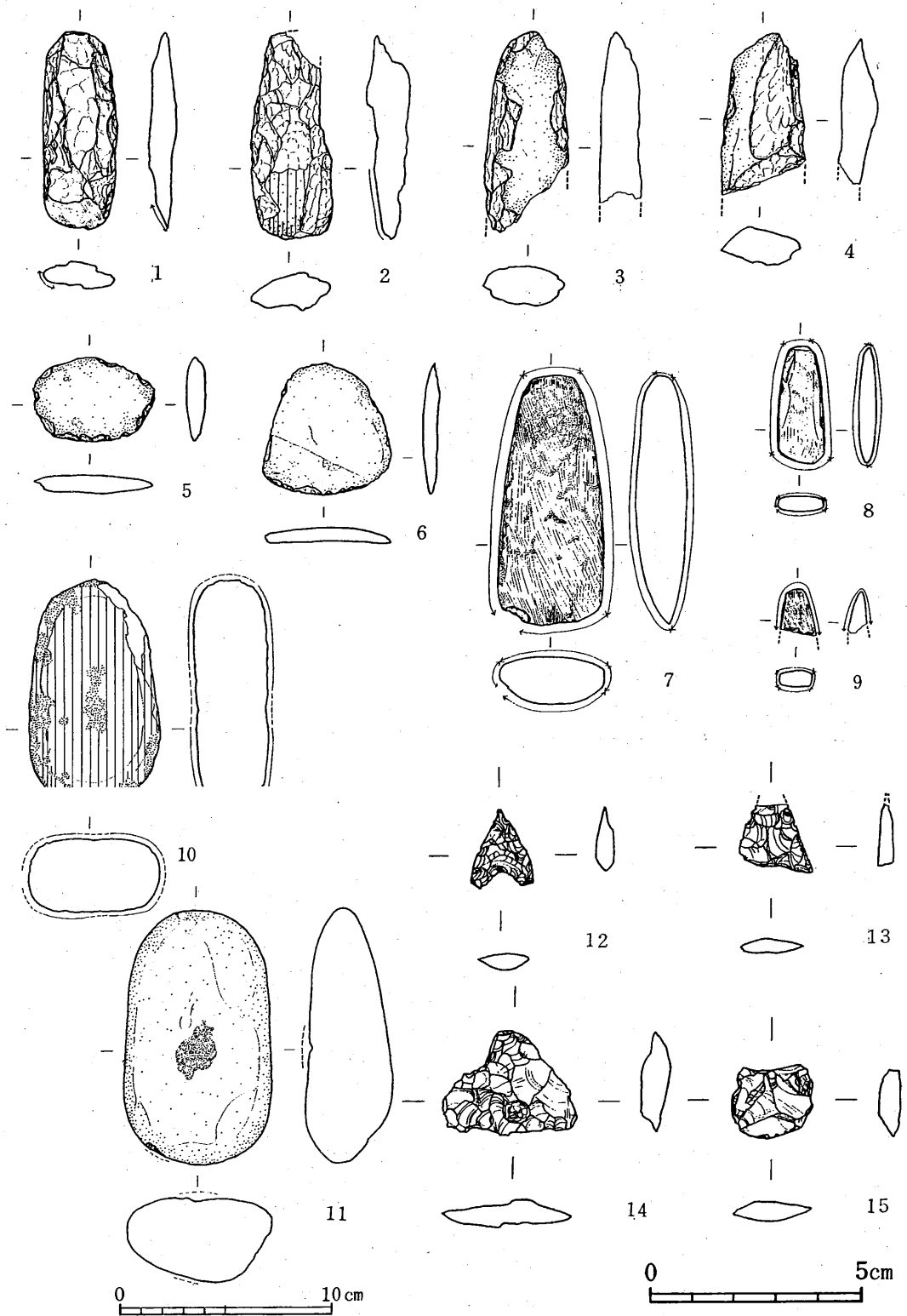
0 10 cm

0 10 cm



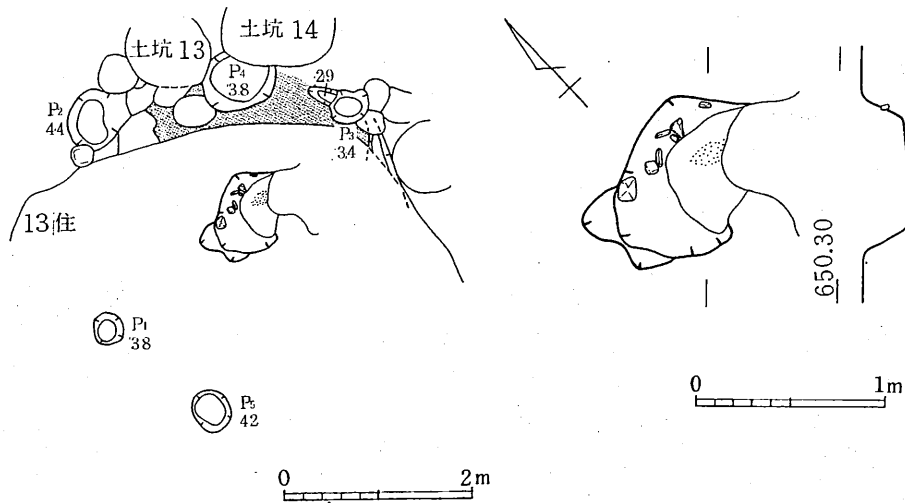
第40图 13号住居址出土遺物

0 10 cm



第41图 13号住居址出土遺物

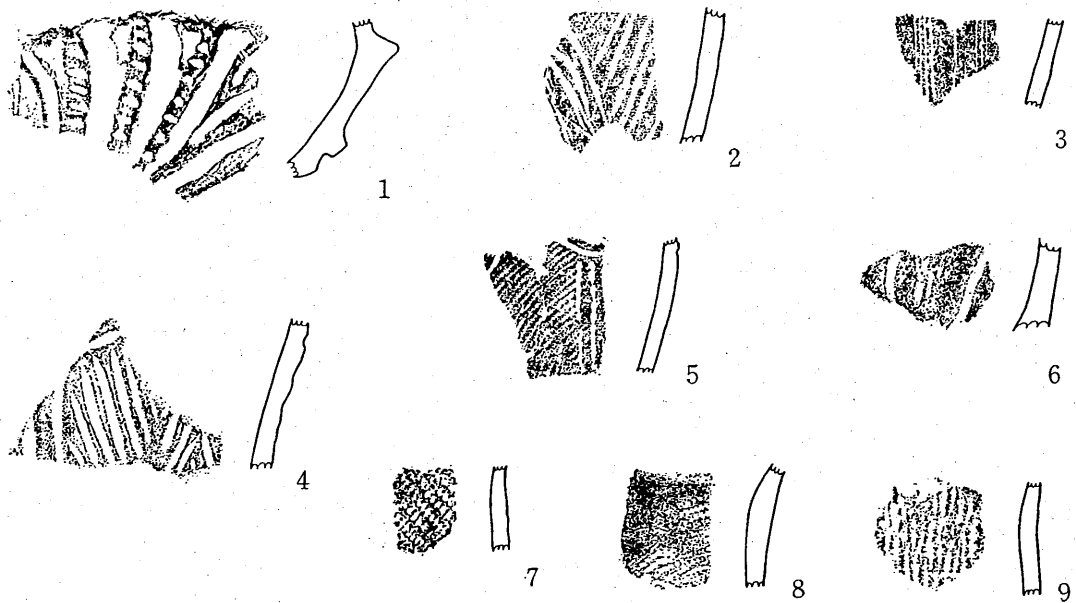
(11) 14号住居址 (第42図・第11表・第43図)



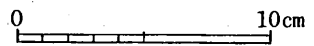
第42図 14号住居址

遺構番号	14号住居址		時期	中期	検出位置	BW-31	検出面	地山	
平面検出	結果	床面のみ	根拠	堅い床面がある					
新旧関係	13号住居址・土坑13・14に切られる				根拠	床面がきられるため			
埋土	分層				埋没過程				
平面プラン					規模				
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	あり	
床面焼土等	有無	無			状況				
壁	検出						状態		
柱穴	有無	有	内容	P1~P5支柱穴		遺物	なし	柱痕	なし
周溝	状態	南側で一部			遺物	なし			
炉	13号住居址のピットに切られる。床面で焼土がみられるがあまり顕著な焼けはない								
住居内施設	有無	無	内容			遺物			
埋甕・伏甕	有無	無	状態		蓋石	遺物			
増改築	有無	無	根拠						
床下遺構	有無	無			遺物				
その他	・出土遺物がほとんどなく、詳しい時期は特定できないが炉の形態より、中期と考えられる							(福澤)	

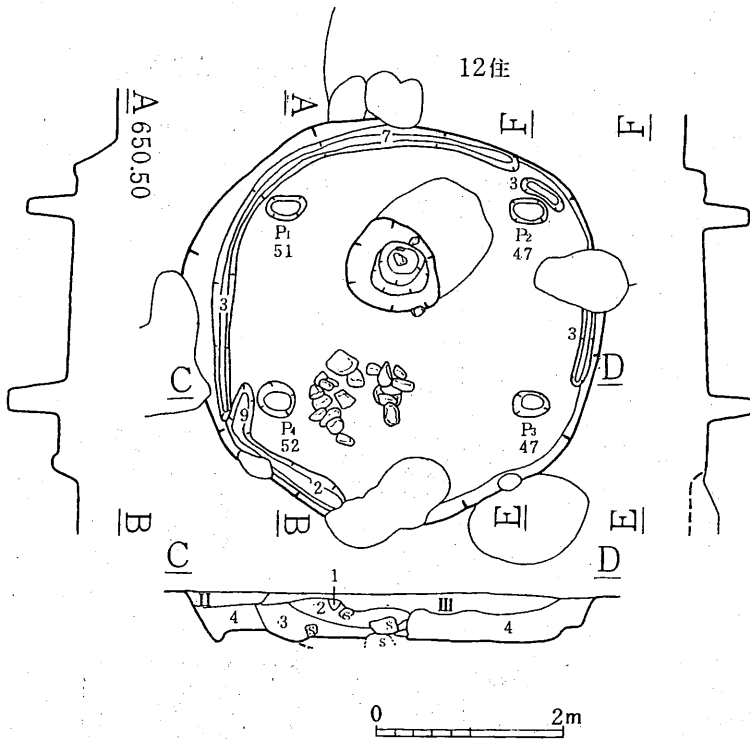
第11表 14号住居址



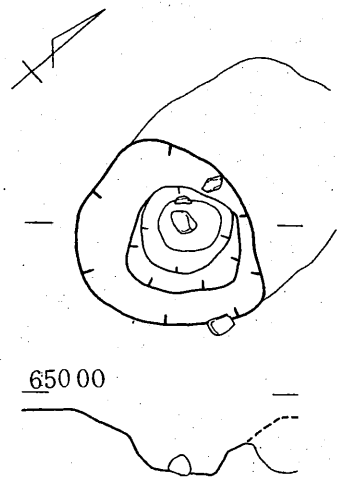
第43图 14号住居址出土遺物



(12) 15号住居址 (第44图·第12表 第45~47图)



第44图 15号住居址

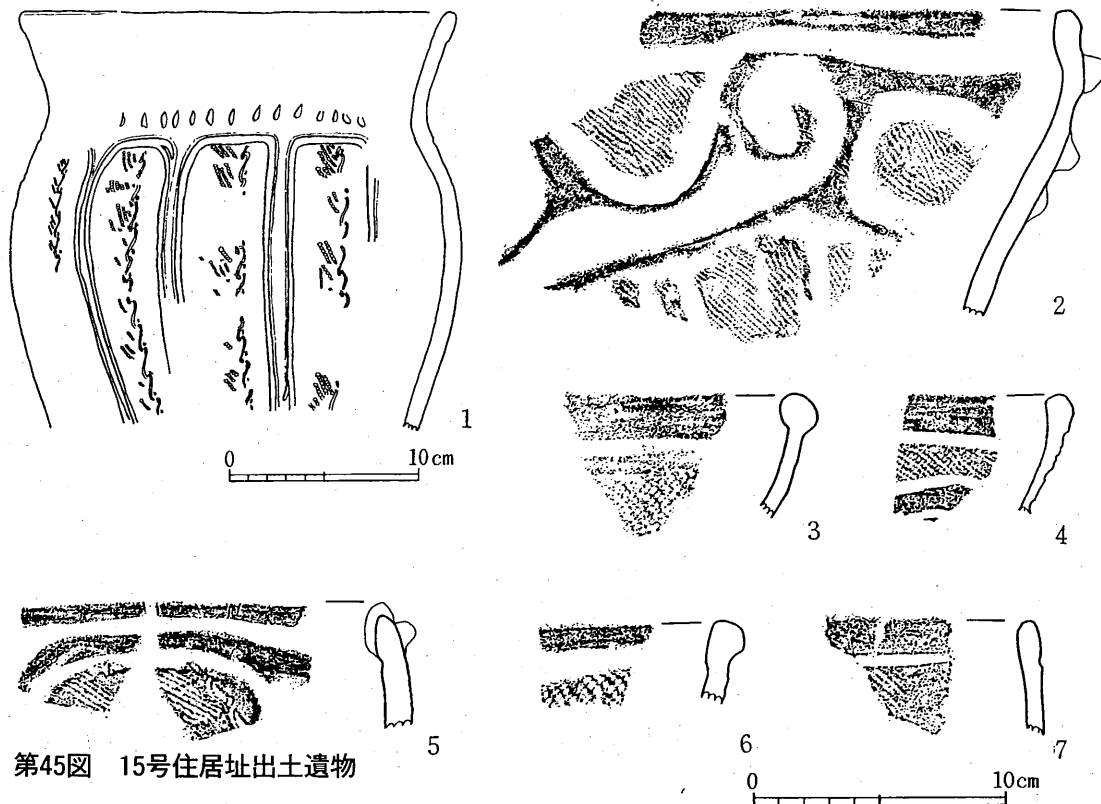


- II 褐色土
- III 黑色土
- 1. 烧土
- 2. 明褐色土
- 3. 暗褐色土
- 4. 黑褐色土

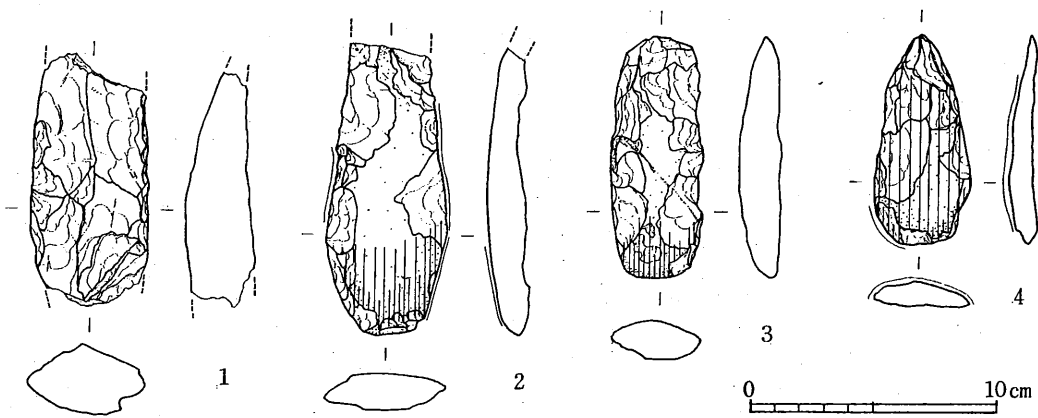
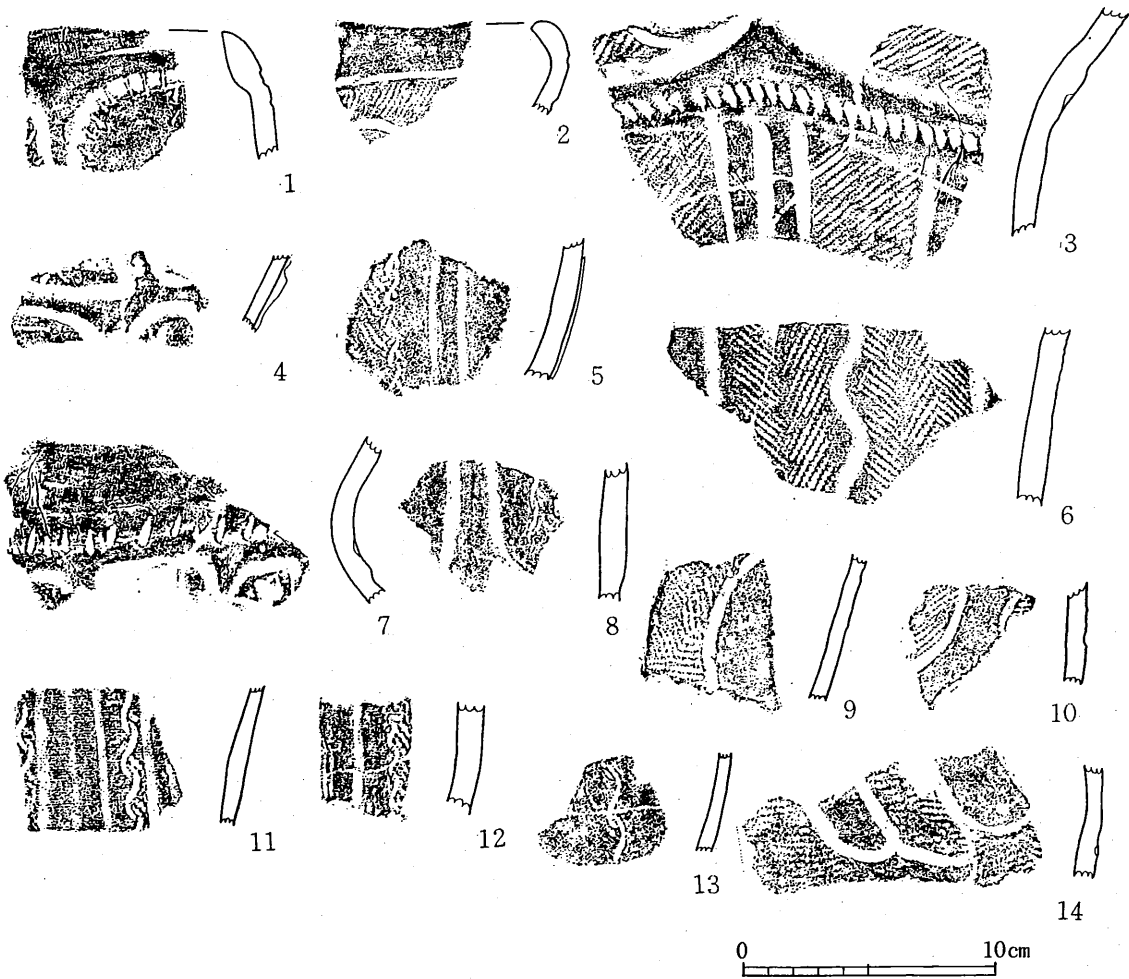
遺構番号	15号住居址		時期	中期後葉IIIc	検出位置	BW-33	検出面	地山
平面検出	結果	明確	根拠	土の差及び遺物分布				
新旧関係	12号住居址を切る				根拠	セクションより		
埋土	分層	三層		埋没過程	自然埋没		包含物	炭化物・炭
平面プラン	不整円形			規模	4.3×4.5m		主軸	N43°W
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	一部あり 貼替え
床面焼土等	有無	無		状況				
壁	検出	地山を掘り込み明確					状態	ややなだらか
柱穴	有無	無	内容	P1~P4 主柱穴	遺物	わずか	柱痕	なし
周溝	状態	東側以外はほぼ全周			遺物	なし		
炉	中央やや北面側で確認							
住居内施設	有無	有	内容	床面に石が積まれる		遺物		
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石	遺物			
増改築	有無	無	根拠					
床下遺構	有無	無				遺物		
その他								

(福澤)

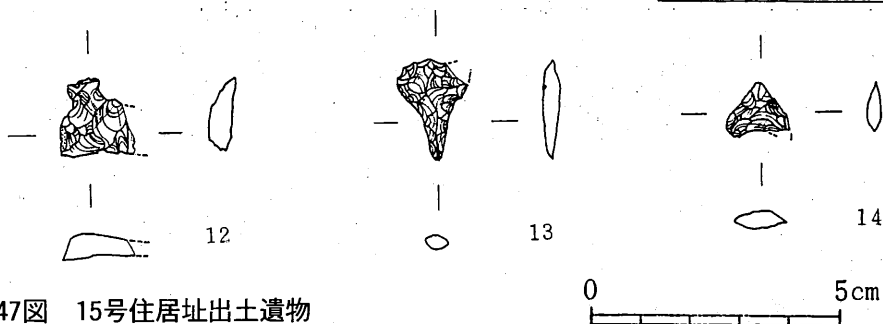
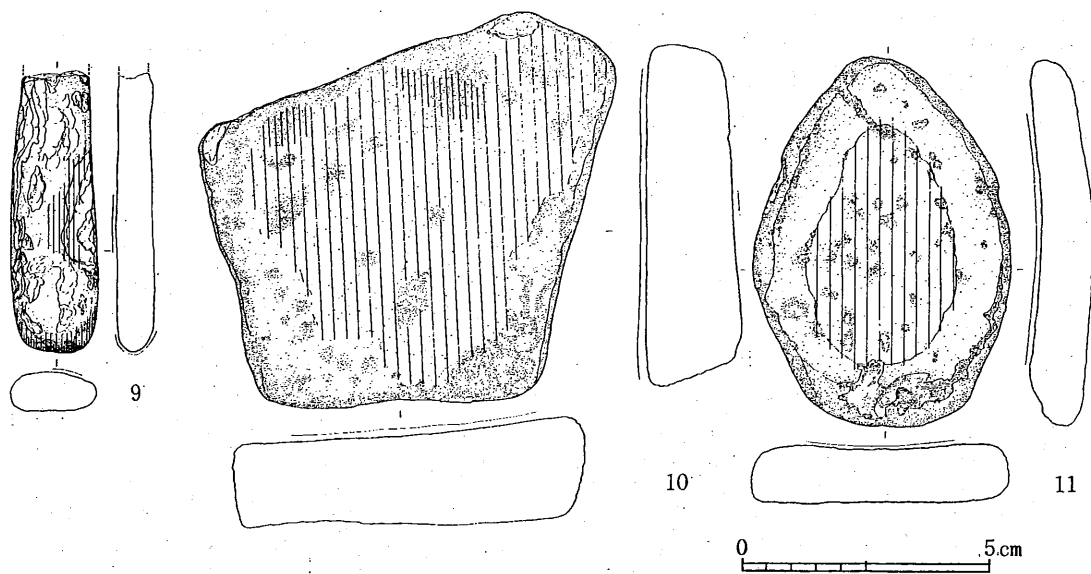
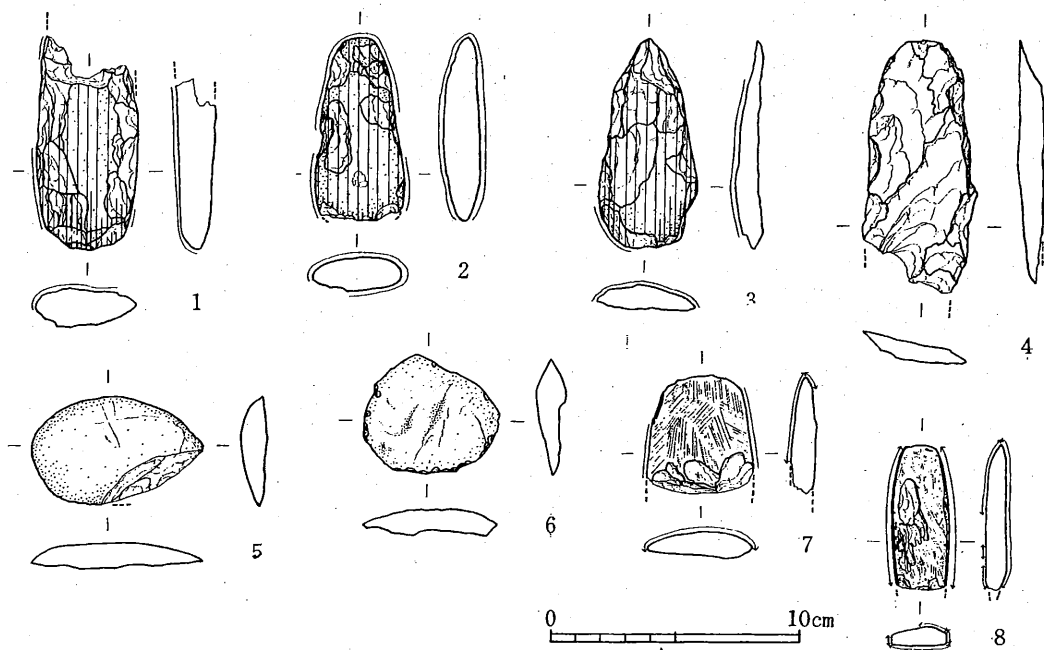
第12表 15号住居址



第45図 15号住居址出土遺物

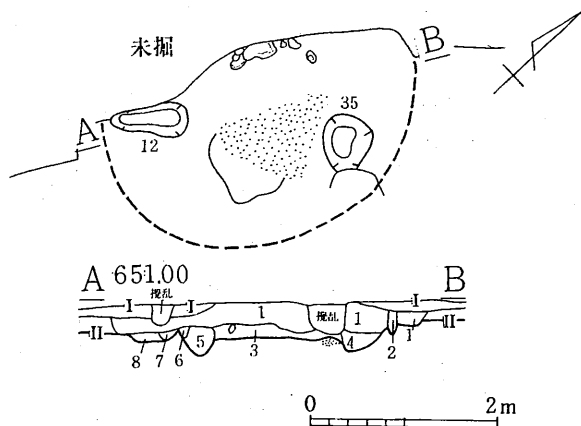


第46图 15号住居址出土遺物



第47图 15号住居址出土遺物

(13) 17号住居址 (第48図・第13表・第49図)

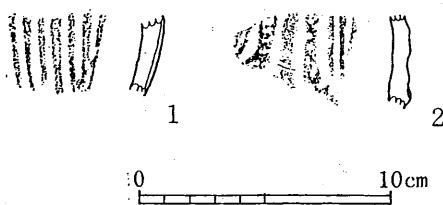


- I 耕土
- II 明褐色土
- 1. 暗褐色土
- 2. 黄混褐色土
- 3. 黒褐色土
- 4. 褐色土
- 5. 褐色土
- 6. 明褐色土

第48図 17号住居址

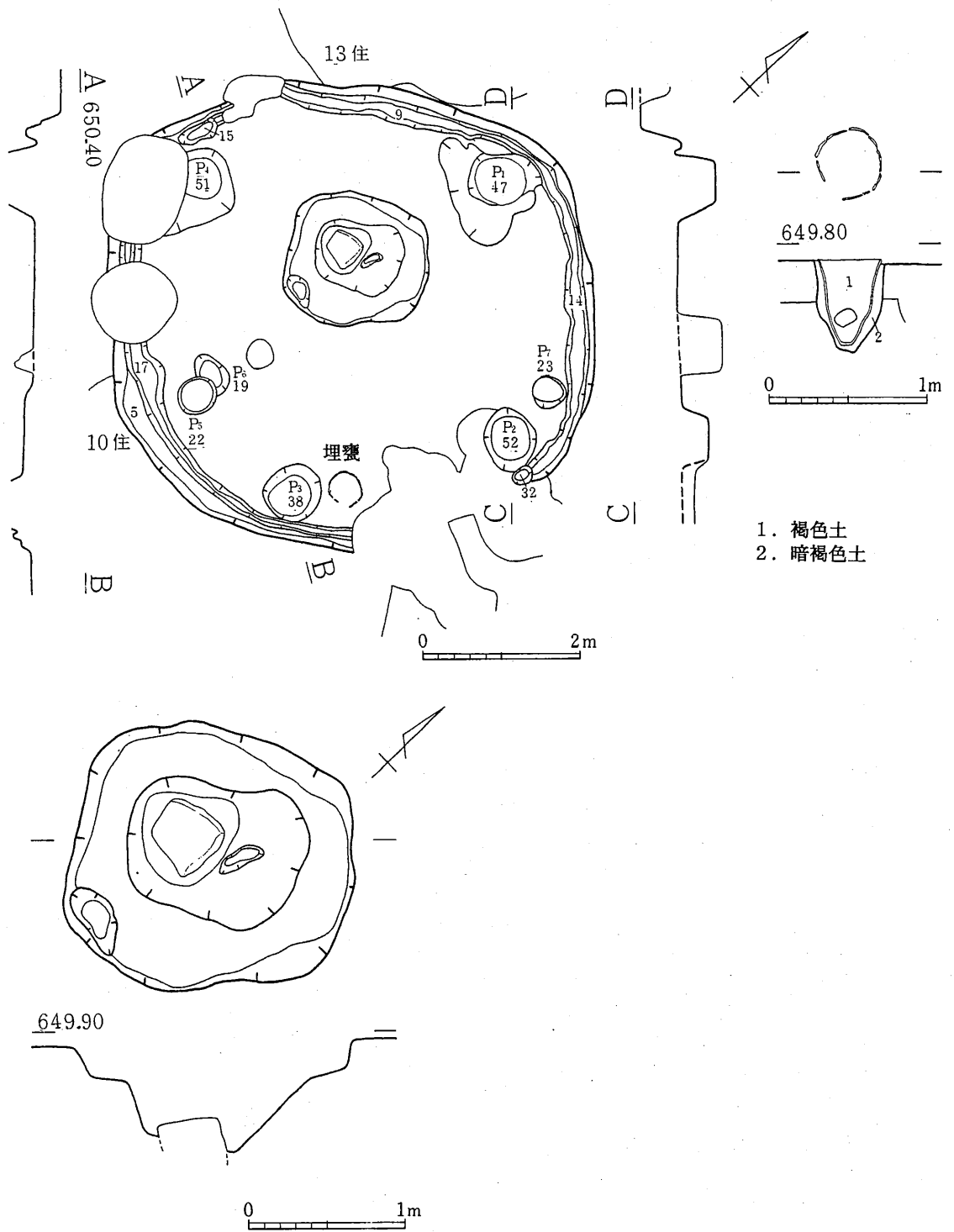
遺構番号	17号住居址		時期	中 期	検出位置	B X-29	検出面	地山
平面検出	結果	床面のみ	根拠	床面及び焼土が確認				
新旧関係						根拠		
埋 土	分層				埋没過程			
平面プラン					規模			
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	あり
床面焼土等	有無	一部にあり		状況	広く厚くある			
壁	検出						状態	
柱 穴	有無	有	内容	P1主柱穴	遺物	なし	柱痕	なし
周 溝	状態	無			遺物			
炉	用地端で炉縁石と思われる石を確認							
住居内施設	有無	無	内容				遺物	
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石				遺物
増改築	有無	無	根拠					
床下遺構	有無	有				遺物		
その他	・遺物は床面上・ピットにはほとんどなく、周囲の状況より縄文中期と思われるが詳細は不明							(福澤)

第13表 17号住居址



第49図 17号住居址出土遺物

(14) 18号住居址 (第50图・第14表・第51~52图)

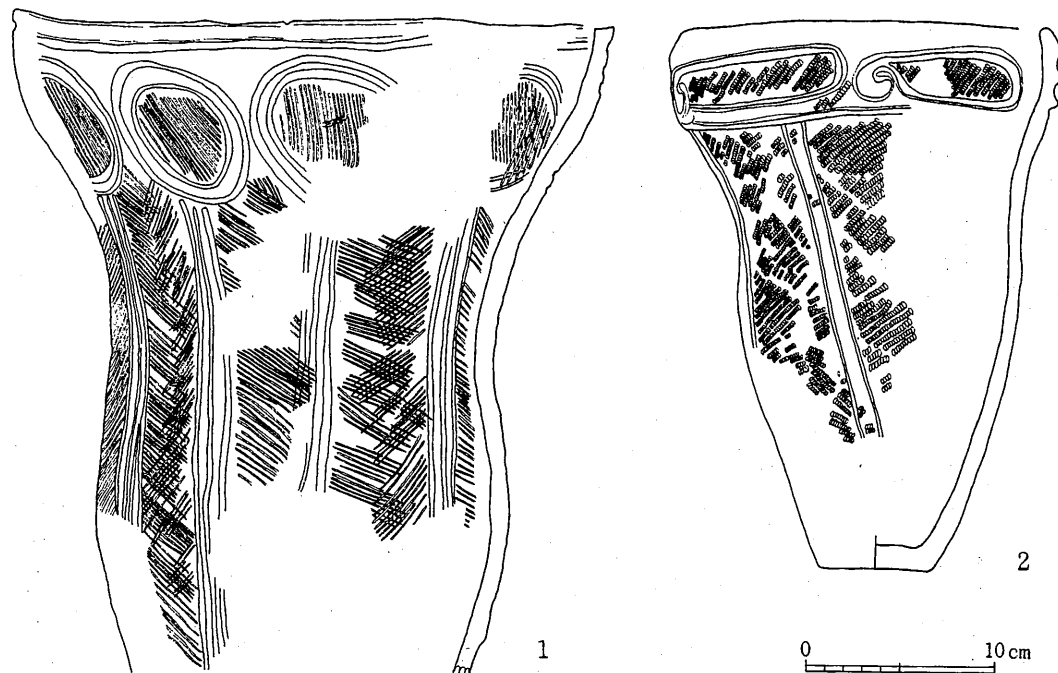


第50图 18号住居址

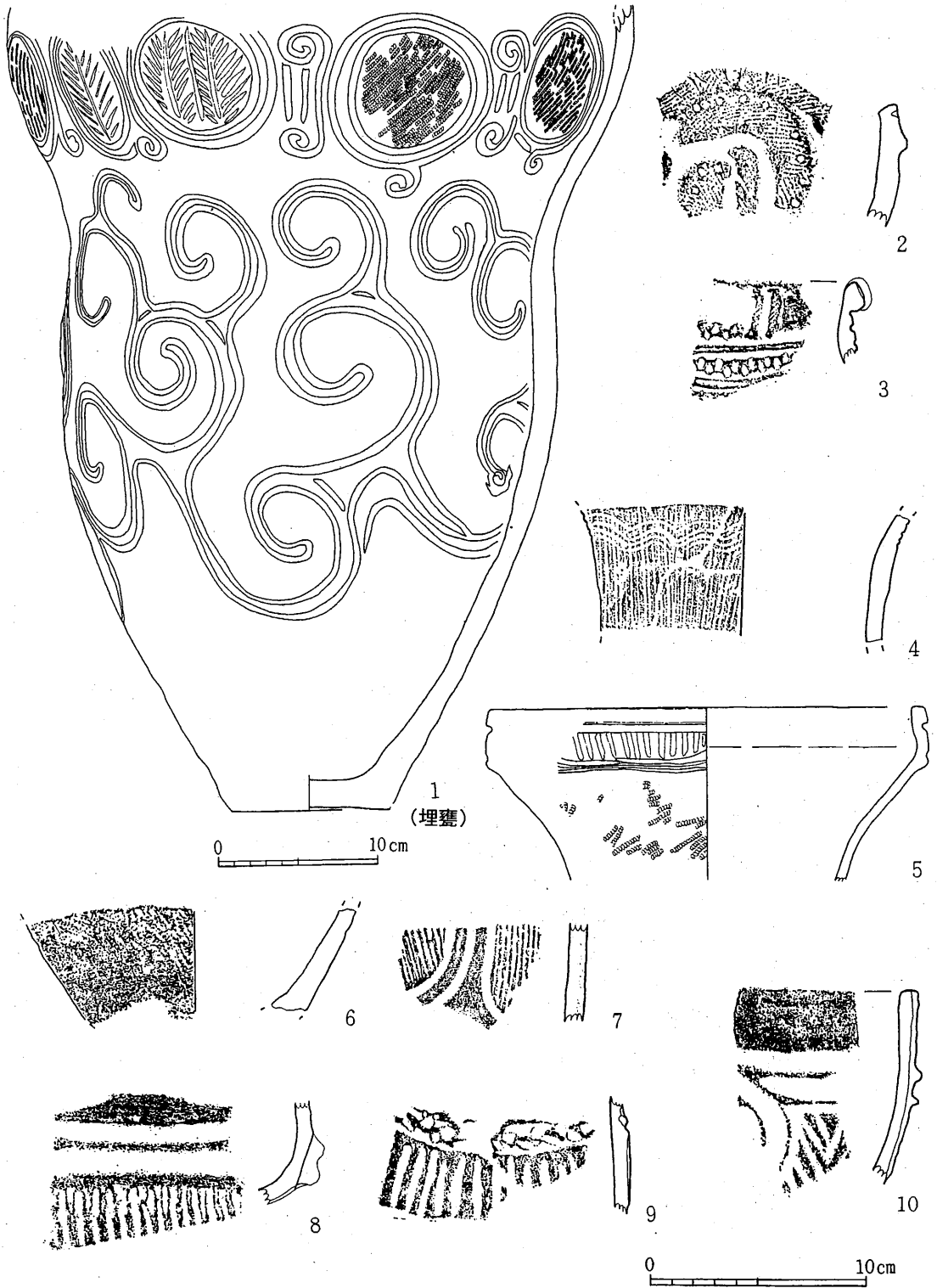
遺構番号	18号住居址		時期	中期後葉Ⅲc	検出位置	BT-31	検出面	地山	
平面検出	結果	明確	根拠	土の差及び遺物分布					
新旧関係	10・13号住居址を切る。土坑21・23に切られる				根拠	床面の状況及び出土遺物			
埋土	分層	3層		埋没過程	自然埋没		包含物	炭・焼土	
平面プラン	不整円形			規模	5.9×6.0m		主軸	N45°W	
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	なし	貼床	一部あり	
貼替え	なし		状況						
壁	検出	地山を掘り込み明確					状態	ややなだらか	
柱穴	有無	有	内容	P1.2.4.5支柱穴		遺物	中期後葉土器多い	柱痕	なし
周溝	状態	全周で確認			遺物	中期後葉の土器・打斧等の石器			
炉	中央やや北側で確認。底部に平らな石が入るが焼けは見られない								
住居内施設	有無	有	内容	P3は入口施設か		遺物	なし		
埋甕・伏甕	有無	有	状態	正位	蓋石	なし	遺物	埋土に石が入る	
増改築	有無	無	根拠						
床下遺構	有無	無			遺物				
その他									

(福澤)

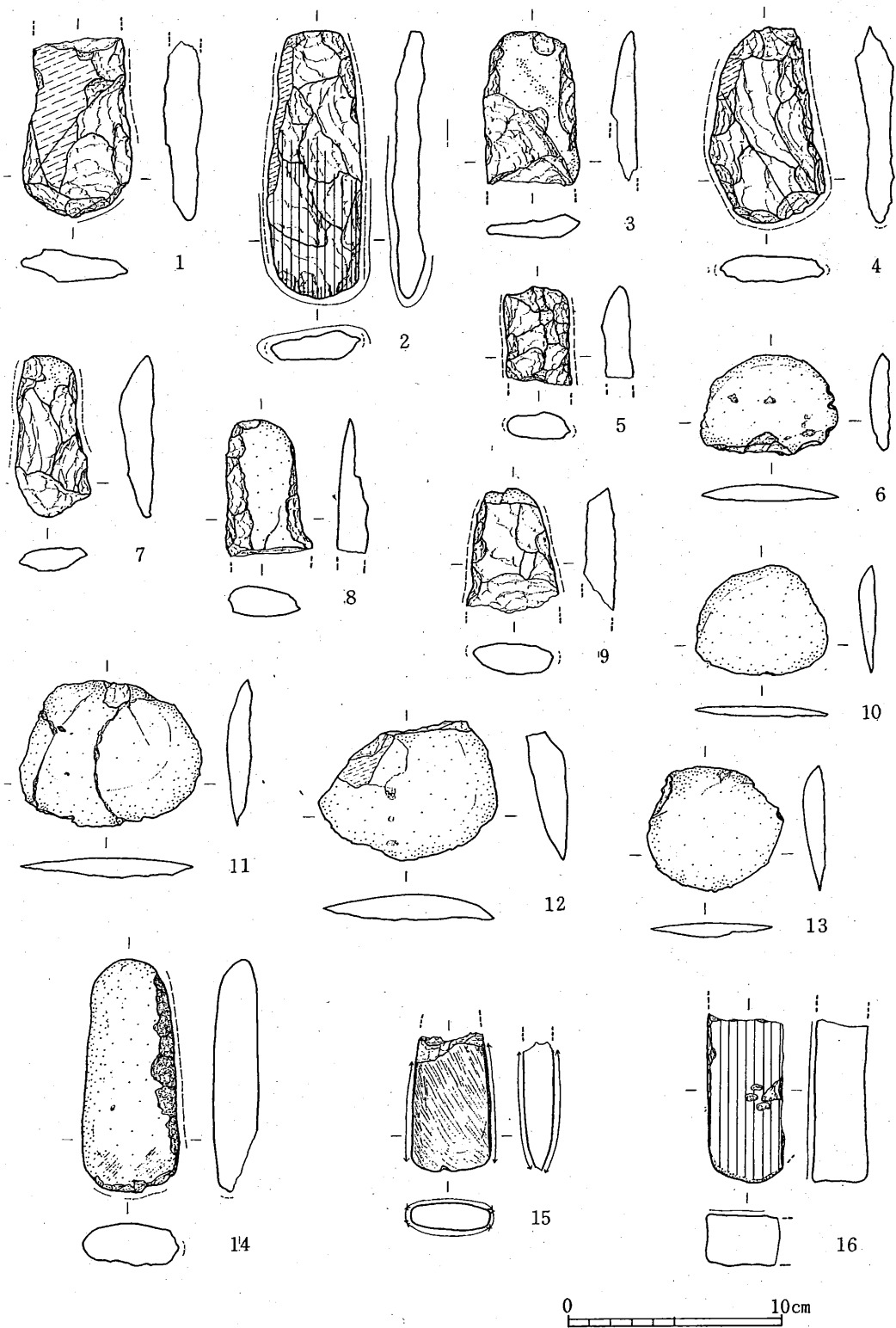
第14表 18号住居址



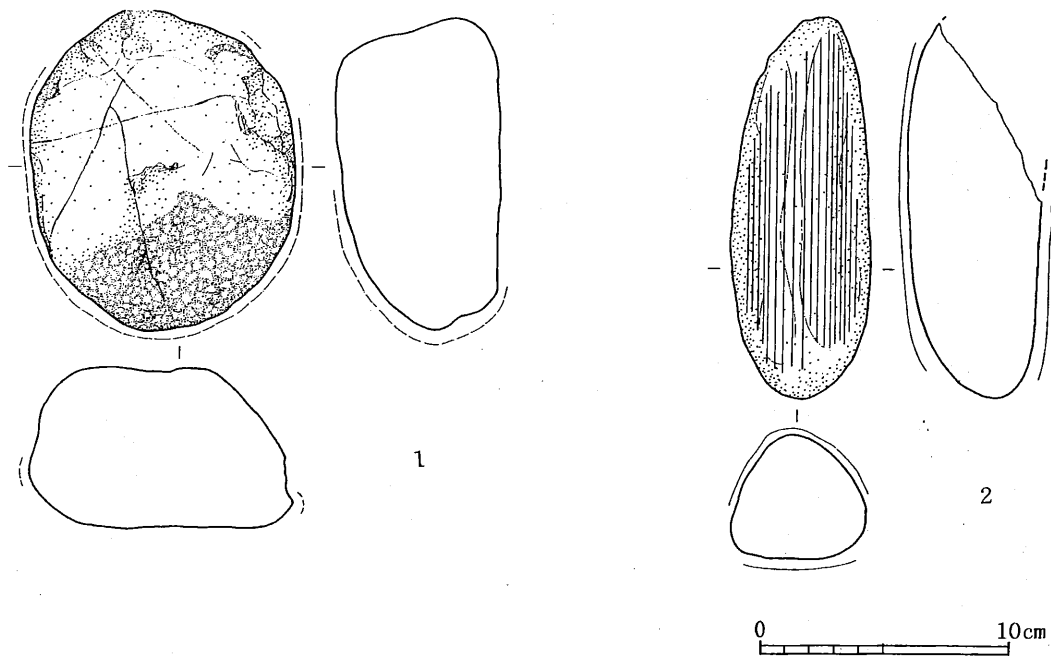
第51図 18号住居址出土遺物



第52图 18号住居址出土遺物

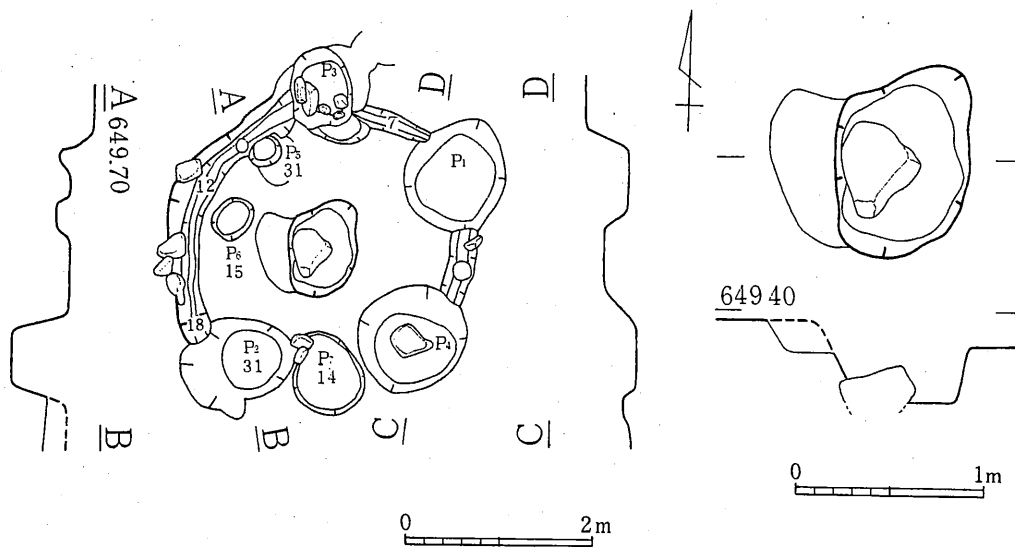


第53图 18号住居址出土遗物



第54图 18号住居址出土遺物

(15) 19号住居址 (第55图・第15表・第56图)

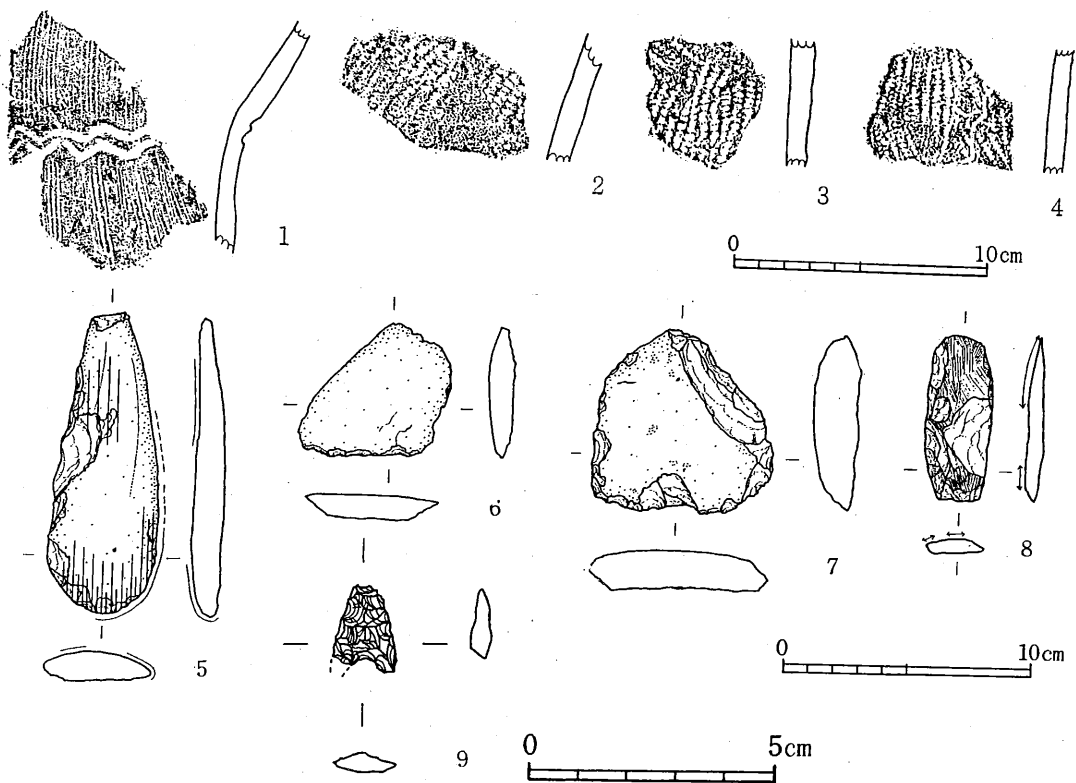


第55图 19号住居址出土遺物

遺構番号	19号住居址	時期	中期後葉II期	検出位置	BO-30	検出面	地山
平面検出	結果	不明確	根拠	床面及び周溝が確認されたため			
新旧関係	なし					根拠	
埋土	分層	単層	埋没過程	自然埋没		包含物	炭化物
平面プラン	不整形円形		規模	(3.6)×(3.3)m		主軸	
床	検出		状態	一部堅固	掘方	貼床	あり
						貼替え	
床面焼土等	有無	有	状況	全体にまばらにあり			
壁	検出	北側から西側で一部検出				状態	ややなだらか
柱穴	有無	有	内容	P1~P7支柱穴	遺物	中期中葉・後葉柱痕	なし
周溝	状態	ほぼ全周で支柱穴に切られる			遺物	なし	
炉	中央で確認。底部に地山の石があるが焼けてない						
住居内施設	有無	無	内容		遺物		
埋甕・伏甕	有無	無	状態	蓋石	遺物		
増改築	有無	無	根拠				
床下遺構	有無	無		遺物			
その他	・東側の壁は斜面下部で、検出できず。遺物の出土は少ない						

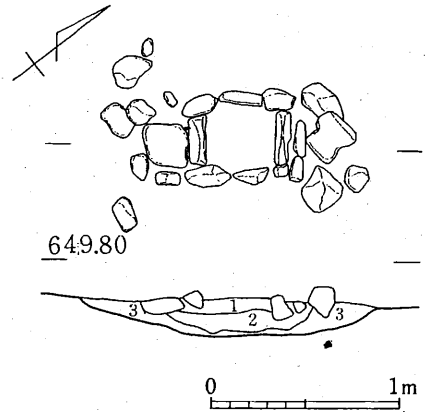
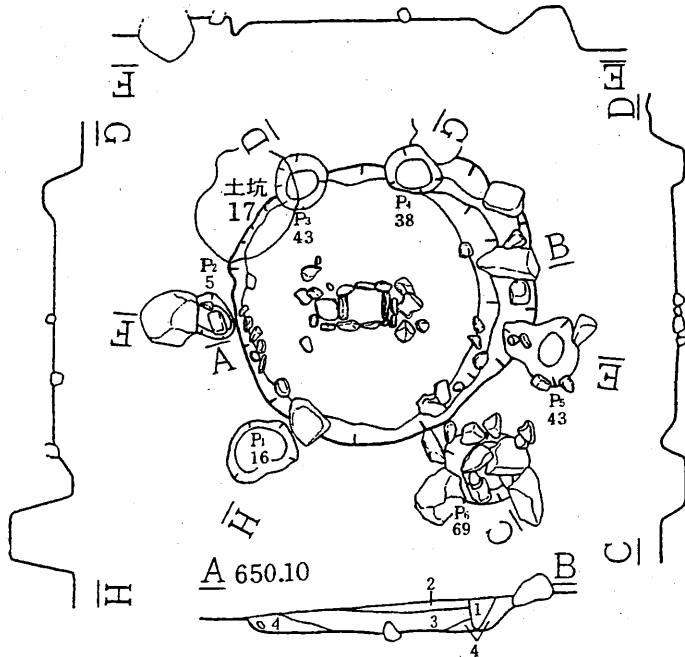
(福澤)

第15表 19号住居址



第56図 19号住居址出土遺物

(16) 20号住居址 (第57図・第16表・第58表~60図)



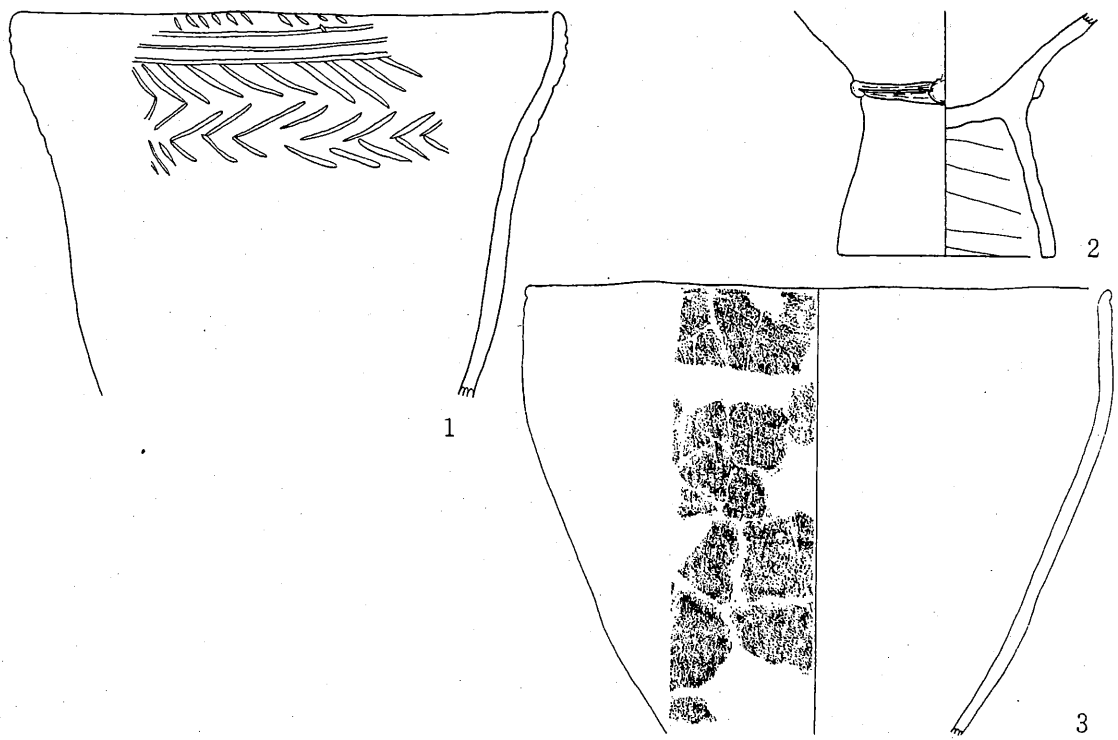
- 1. 黒褐色土
- 2. 焼土混褐色土
- 3. 暗褐色土

- 1. 黄褐色土
- 2. 黒褐色土
- 3. 炭混漆黒土
- 4. 明褐色土

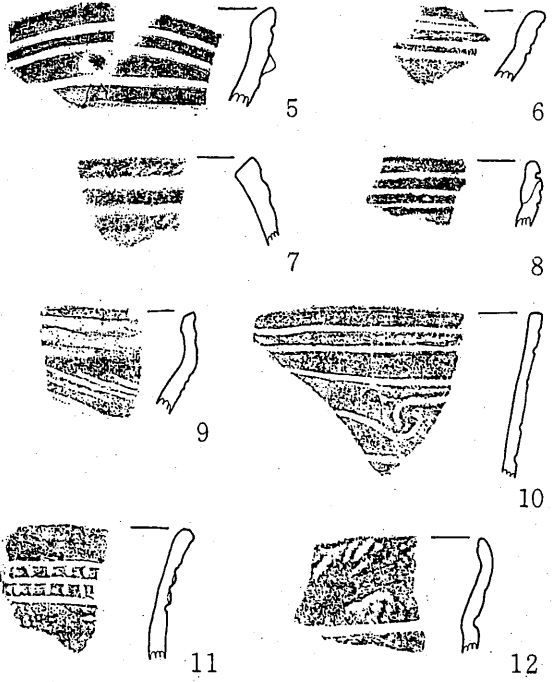
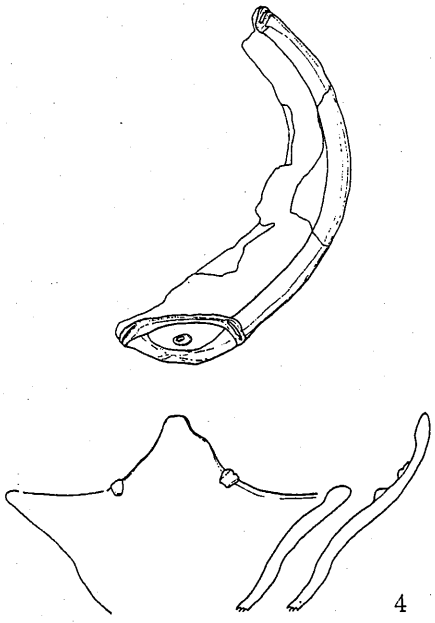
第57図 20号住居址

遺構番号	20号住居址			時期	後期後葉		検出位置	BP-28		検出面	地山	
平面検出	結果	明確		根拠	土の差							
新旧関係								根拠				
埋土	分層	3層		埋没過程	自然埋没			包含物	炭化物			
平面プラン	不整形円形			規模	3.0×3.3m			主軸	N51°W			
床	検出	不明確	状態	軟弱		掘方	あり		貼床	なし	貼替え	
床面焼土等	有無	有		状況	炉の周囲に平らな石あり							
壁	検出	地山を掘り込み明確。北側で段がある					状態	なだらかで軟弱				
柱穴	有無	有	内容	P1~P6支柱穴		遺物	なし		柱痕	なし		
周溝	状態	なし					遺物					
炉	石囲炉で2.9×1.1mの方形。中央部分で確認											
住居内施設	有無	無		内容				遺物				
埋甕・伏甕	有無	無		状態	蓋石		遺物					
増改築	有無	無		根拠								
床下遺構	有無	有		土坑	28		遺物	中期				
その他	・炉周囲で人為的に敷かれたと思われる平らな石がある (床図) ・埋土には多数の礫が入る										(福澤)	

第16表 20号住居址

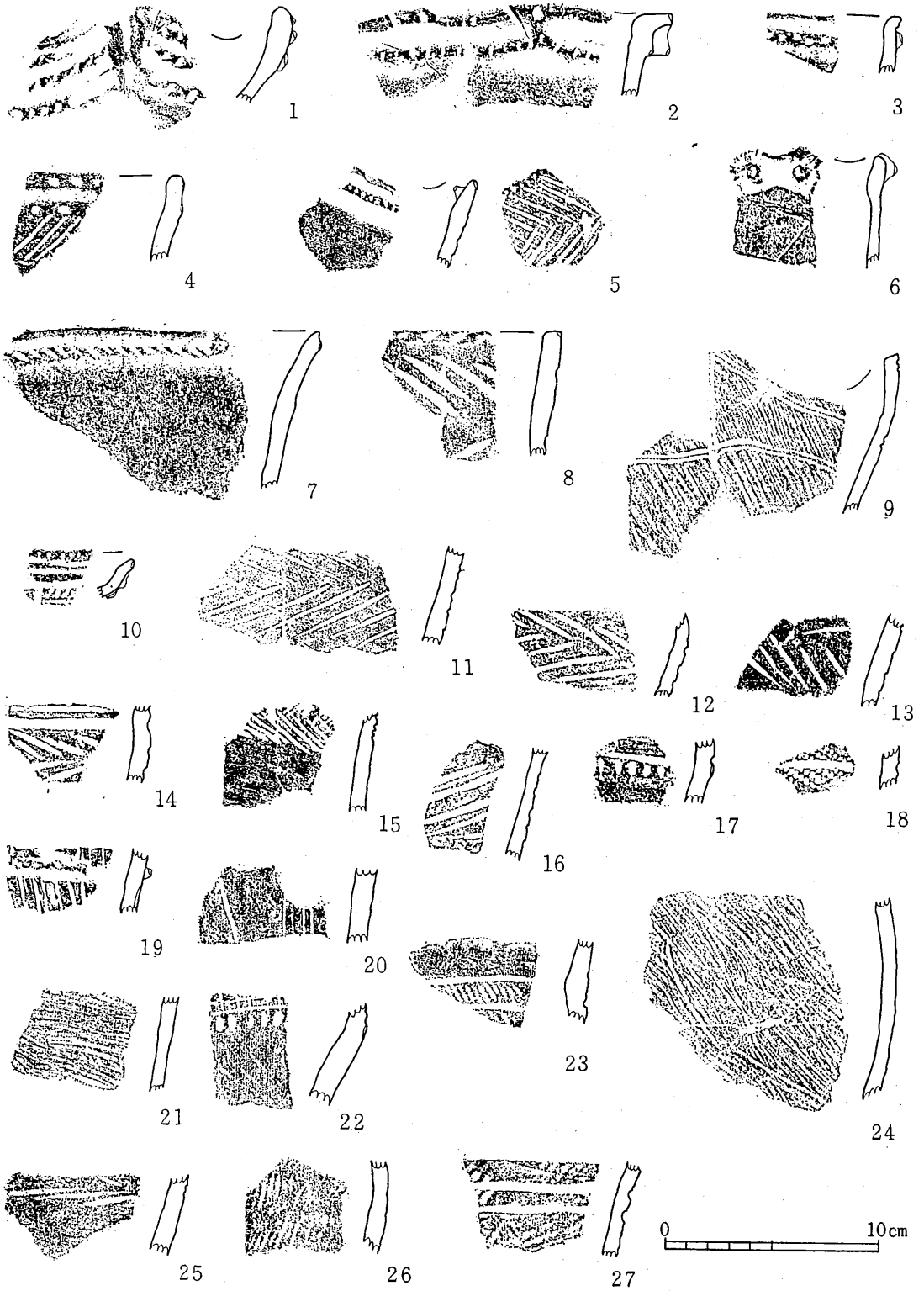


0 10cm

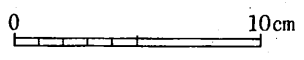
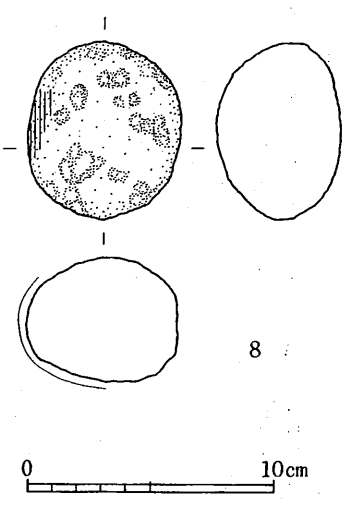
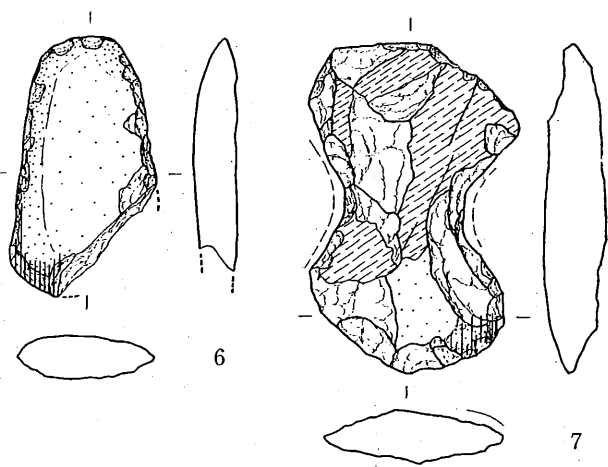
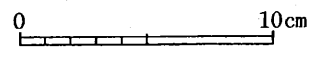
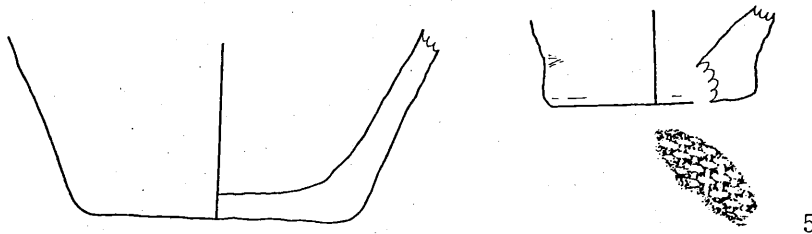


0 10cm

第58图 20号住居址出土遗物



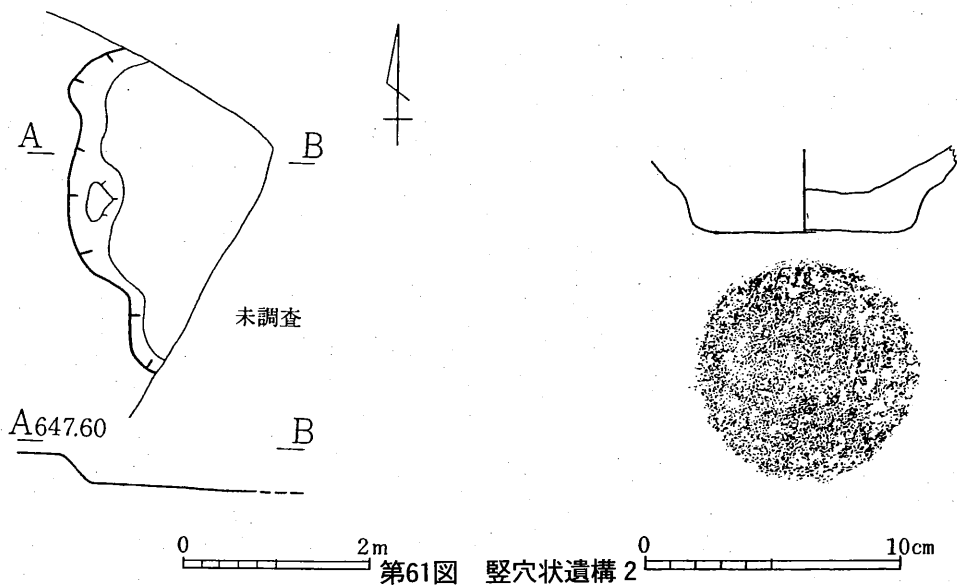
第59图 20号住居址出土遗物



第60图 20号住居址出土遺物

2 縄文時代の竪穴状遺構

(1) 竪穴状遺構 2 (第61図・第17表)



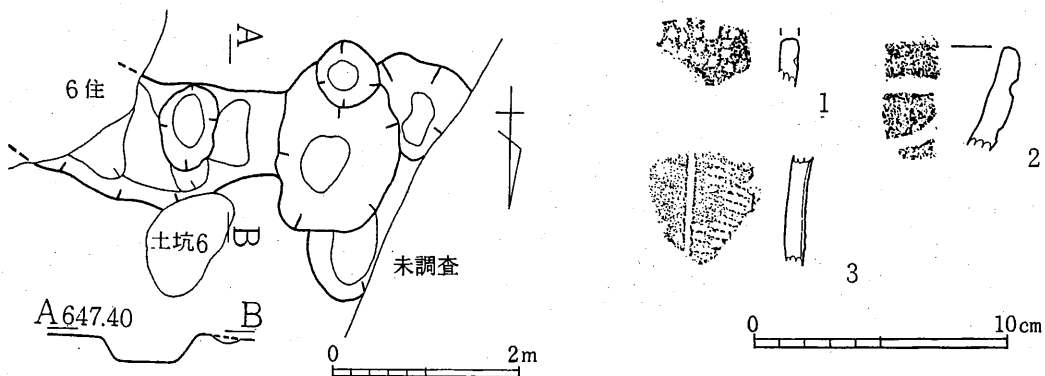
竪穴状NO	図NO	規模 (長×幅×深) cm	形態	埋土	時期	備考
2	61	- × - × 28	不整	褐色	不明	

第17表 竪穴状遺構 2

(吉川)

3 縄文時代の溝址

(1) 溝址 1 (第62図・第18表)



第62図 溝址 1 同址出土遺物

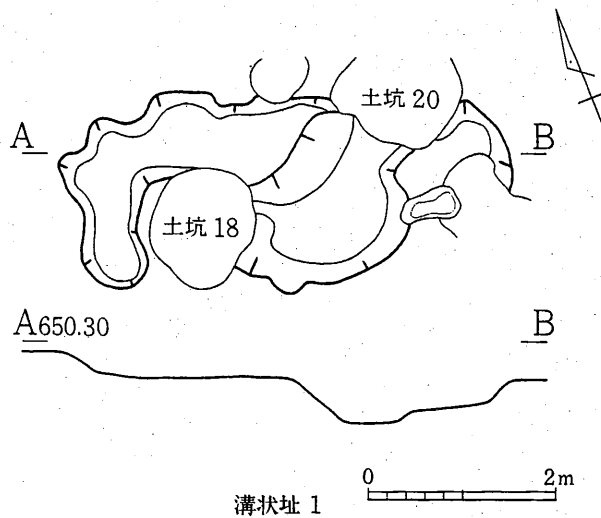
溝址NO	図NO	規 模 (cm)	形態	埋 土	時 期	備 考
1	62	幅 90~130 深さ 30~66	不整	黒砂質	後 期	西端はPに切られ、9住を切る

(福澤)

第18表 溝址

4 縄文時代の溝状址

(1) 溝状址1 (第63図・第19表)



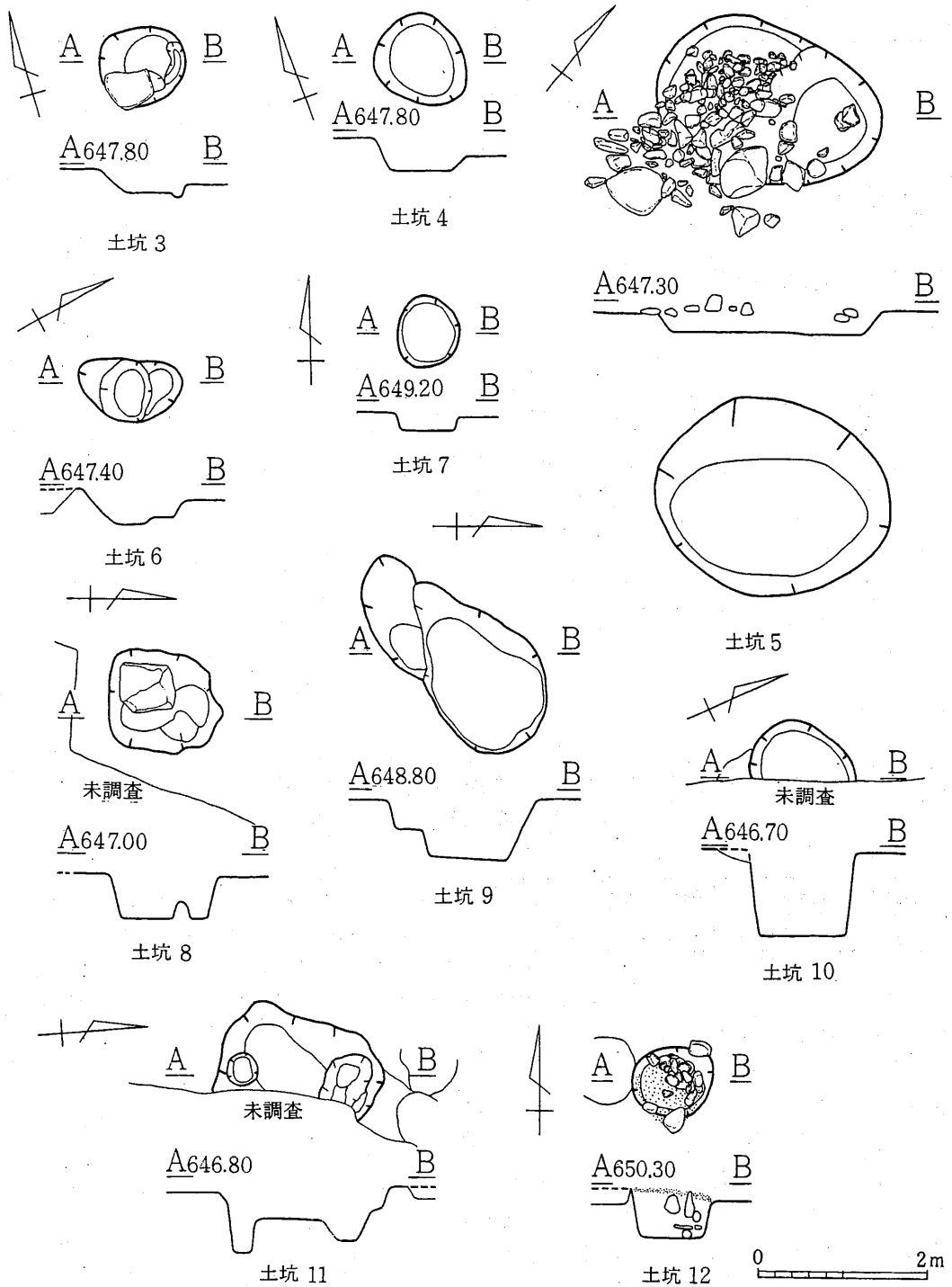
第63図 溝状址1

溝址NO	図NO	規模 (長×幅×深) cm	形態	埋 土	時 期	備 考
1	63	476~204×76	不整	明褐色	不 明	ト18・20切合不明

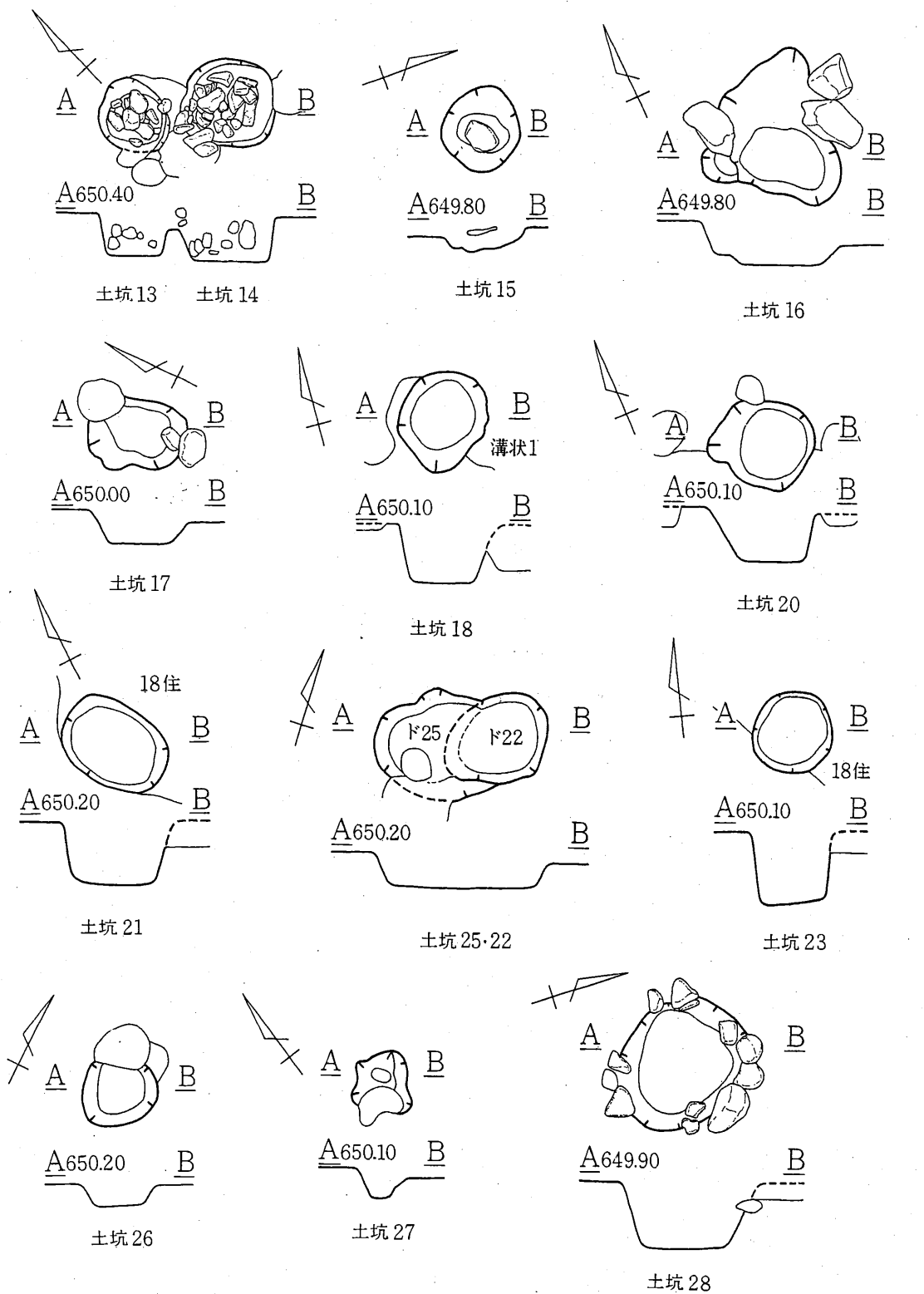
(福澤)

第19表 溝状址1

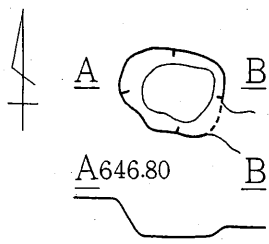
5 縄文時代の土坑 (64~66図・第20表 第67~70図)



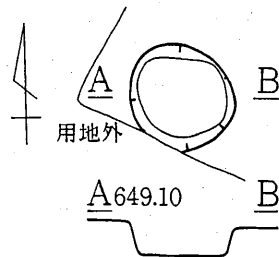
第64図 土坑 3~12



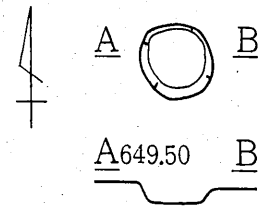
第65圖 土坑13~28



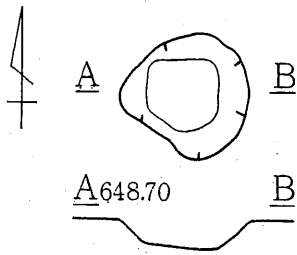
土坑 29



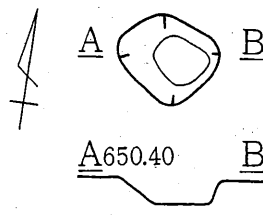
土坑 30



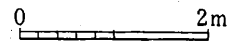
土坑 31



土坑 32



土坑 33

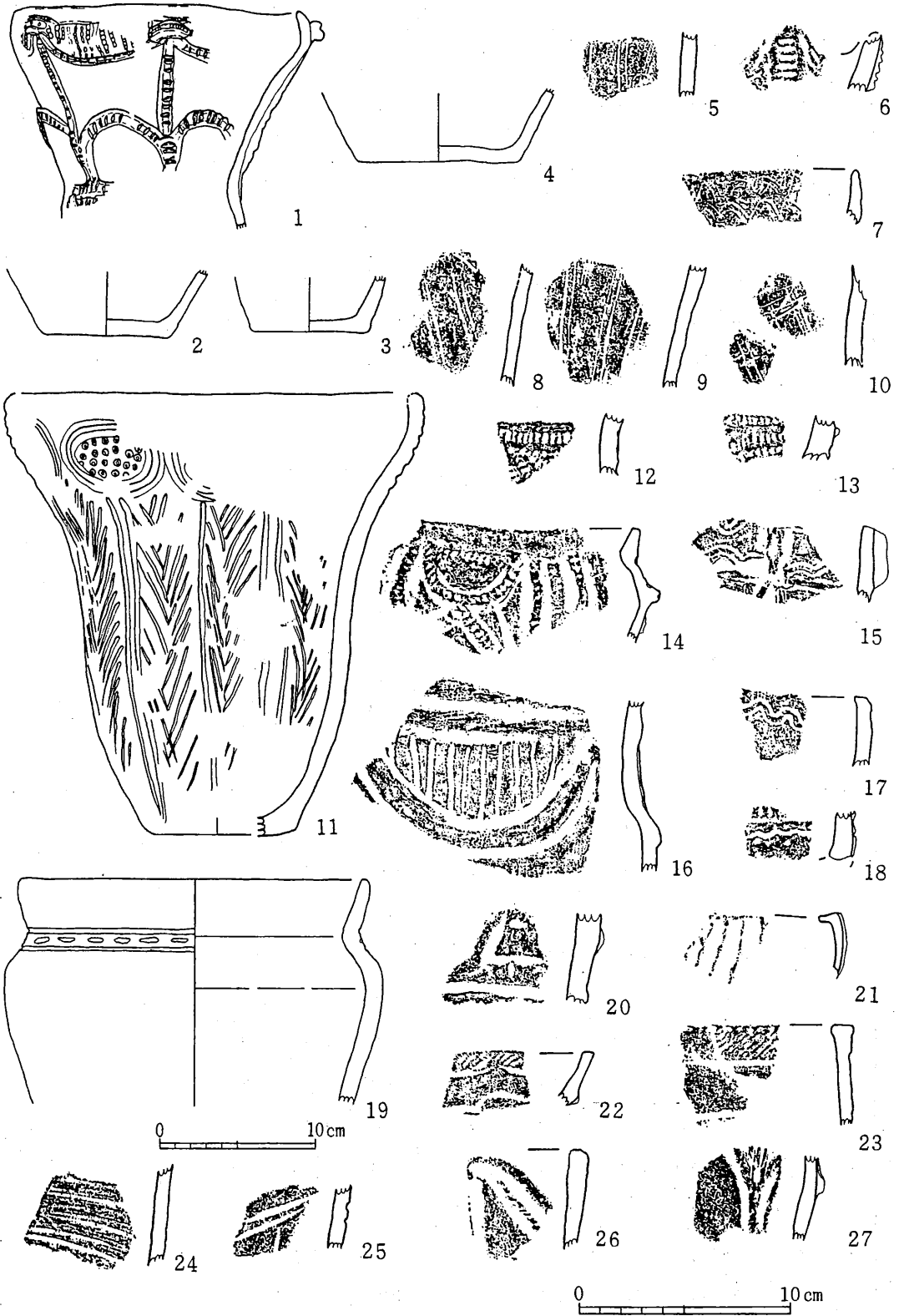


第66图 土坑29~33

土坑NO	図NO	規模(長×短×深さ)cm	形態	埋土	時期	備考
3	第64図	100 × 88 × 28	楕円	褐	中期中葉末	
4	第64図	112 × 96 × 40	楕円	暗褐	中期中葉末	
5	第64図	280 × 232 × 28	楕円	黒	中期後葉III b	埋土に礫
6	第64図	120 × 72 × 42	不正	褐	不明	
7	第64図	84 × 72 × 22	円	暗褐	中期中葉末	
8	第64図	136 × 120 × 43	不正	黒	不明	埋土に人頭大礫
9	第64図	276 × 136 × 74	不正	黒	不明	
10	第64図	120 × (72) × 102	楕円	黒褐	後期	
11	第64図	192 × (88) × 32	不正	黒褐	不明	
12	第64図	96 × 80 × 59	円	明褐	後期後～晩	埋土に礫・焼土
13	第65図	(96) × 88 × 56	円	褐	不明	埋土に礫14住切
14	第65図	120 × 112 × 57	円	褐	後期前半	埋土に礫14住切
15	第65図	108 × 100 × 31	円	褐	後期	検出面に礫
16	第65図	184 × 168 × 56	不正	褐	後期	礫群より検出
17	第65図	124 × 80 × 44	不正	暗褐	早期後半	壁が軟弱
18	第65図	128 × 112 × 75	楕円	黒	不明	溝状1切分不明
20	第65図	136 × 112 × 69	不正	黒	後期	溝状1切分不明
21	第65図	140 × 104 × 82	楕円	黒褐	後期前半	18住を切る
22	第65図	(144) × 112 × 44	楕円	黒褐	後期	ド25と切合不明
23	第65図	104 × 100 × 92	円	暗褐	後期	18住を切る
25	第65図	(84) × (144) × 44	不正	黒褐	不明	ド22と切合不明
26	第65図	(72) × 96 × 28	楕円	暗褐	不明	
27	第65図	(40) × 64 × 37	不正	褐	不明	
28	第65図	176 × 152 × 86	楕円	黒褐	中期	20住床下で検出
29	第66図	112 × 88 × 37	楕円	黒褐	不明	
30	第66図	116 × (104) × 37	円	黒	中期中葉末	
31	第66図	80 × 76 × 22	円	暗褐	中期中葉末	
32	第66図	136 × 116 × 32	楕円	黒	不明	
33	第66図	96 × 80 × 29	楕円	黒褐	中期後葉	

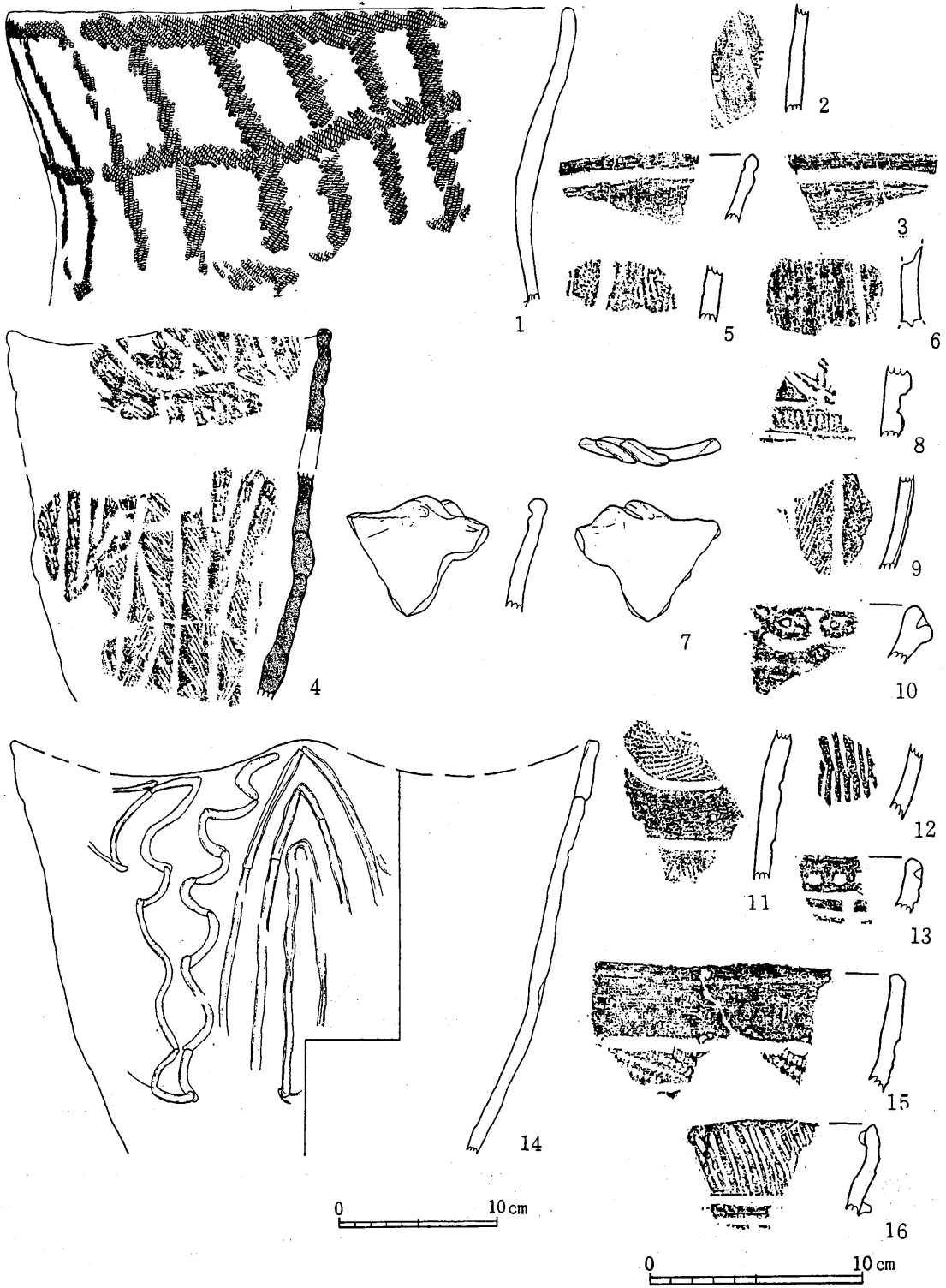
第20表 土坑調査表

(福澤)



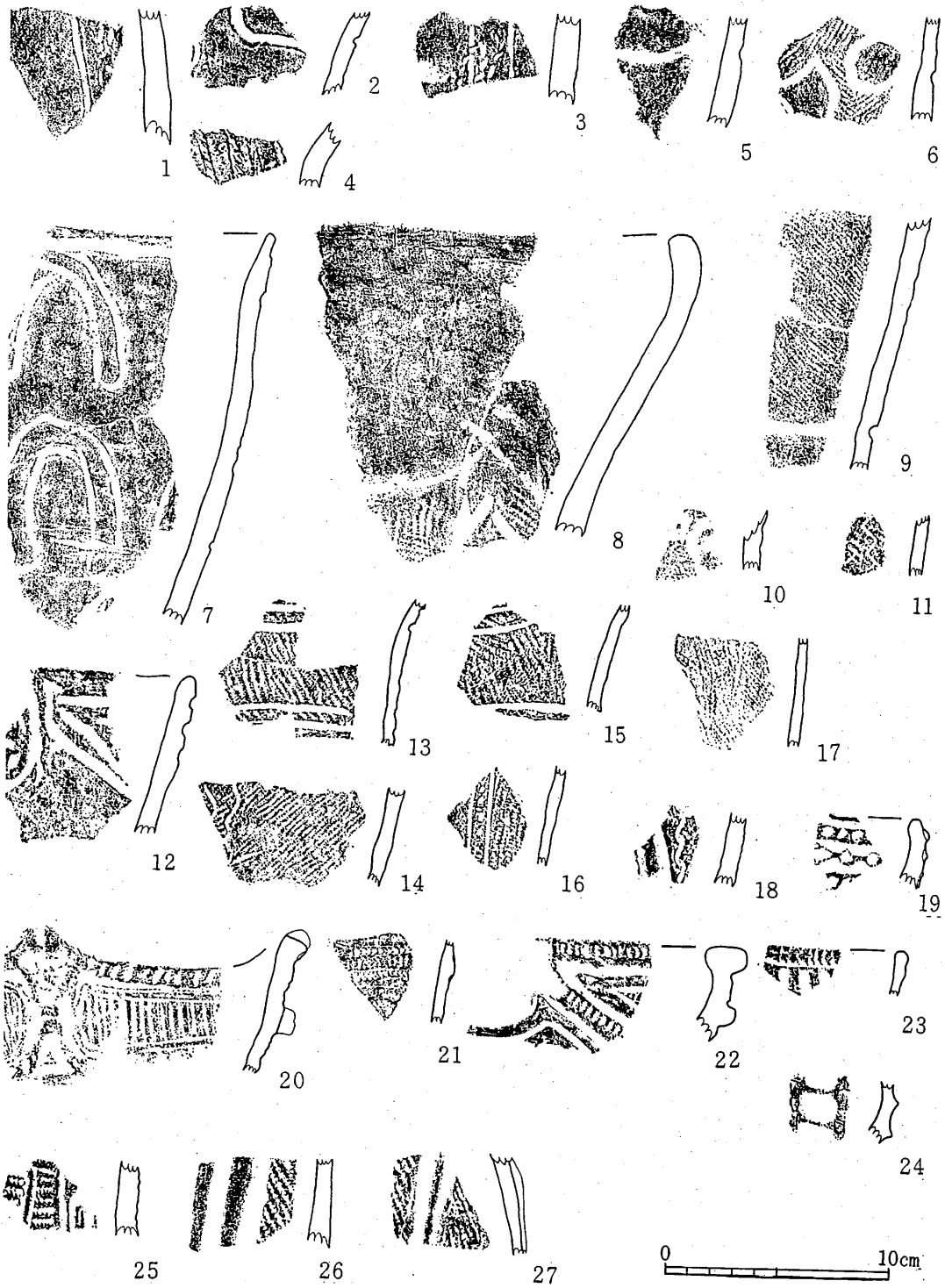
第67图 土坑出土遺物

土坑3 1~3, 土坑4 4~10, 土坑5 11~13,
 土坑7 14~17, 土坑8 18~20, 土坑10 21,
 土坑11 22, 土坑12 23~26, 土坑14 17



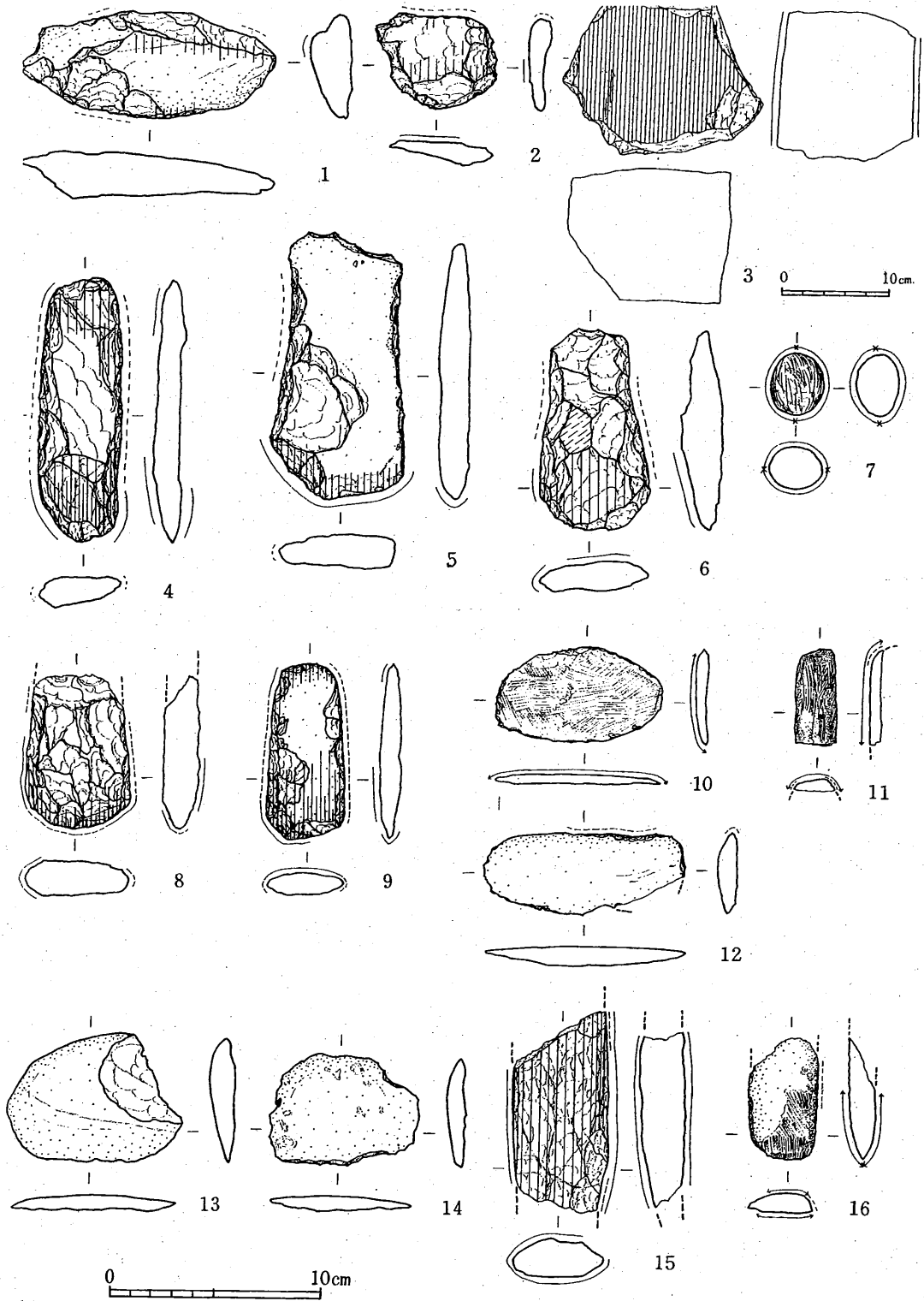
第68图 土坑出土遺物

土坑14 1, 土坑15 2~3, 土坑17 4,
土坑18 5~6, 土坑20 7~11, 土坑21 12~16,



第69图 土坑遺物

土坑21 1~4, 土坑22 5~6, 土坑23 7~11,
 土坑24 12~16, 土坑25 17~18, 土坑26 19,
 土坑30 20~21, 土坑31 22~24, 土坑33 25, 土坑34 26~27,

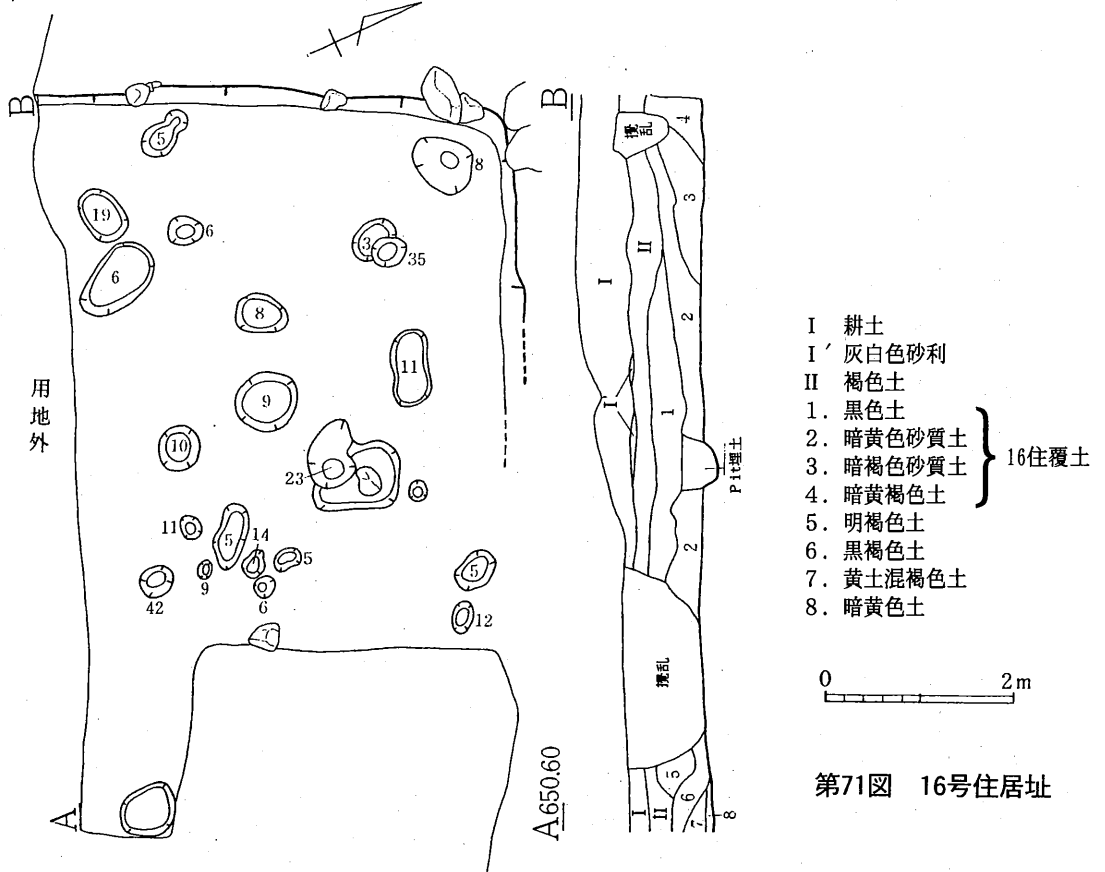


第70图 土坑遺物

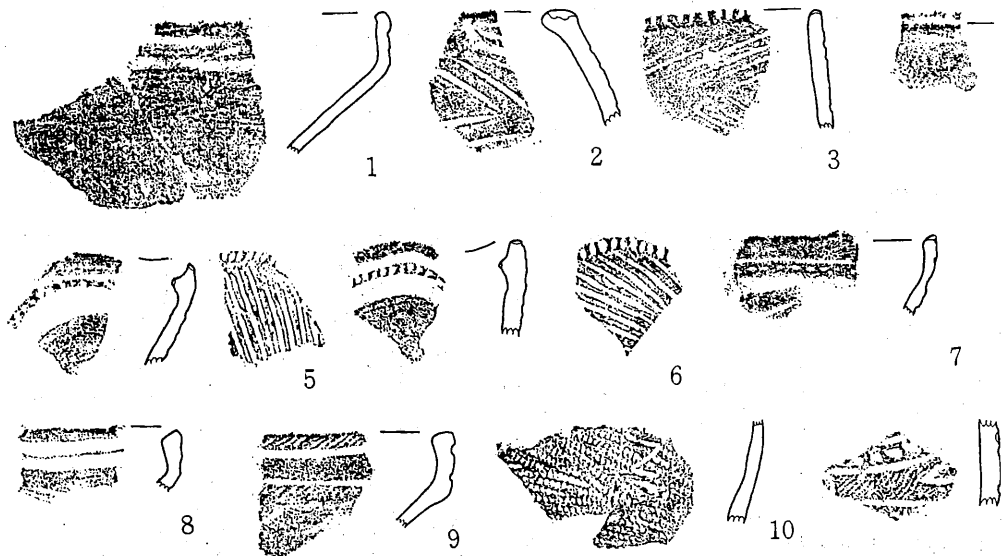
土坑4 1, 土坑5 2, 土坑8 3,
 土坑20 4~7, 土坑21 8~12, 土坑24 13~16,

6 弥生時代の竪穴住居址

(1) 16号住居址 (第71図・第21表・第72~75図)



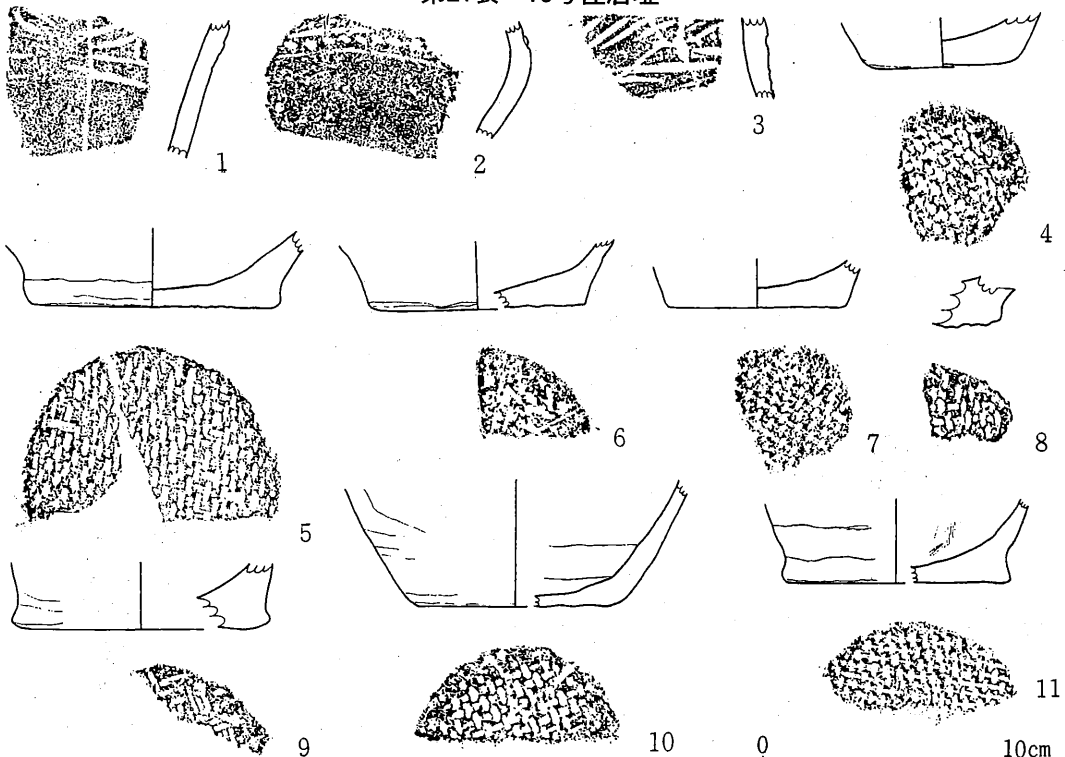
第71図 16号住居址



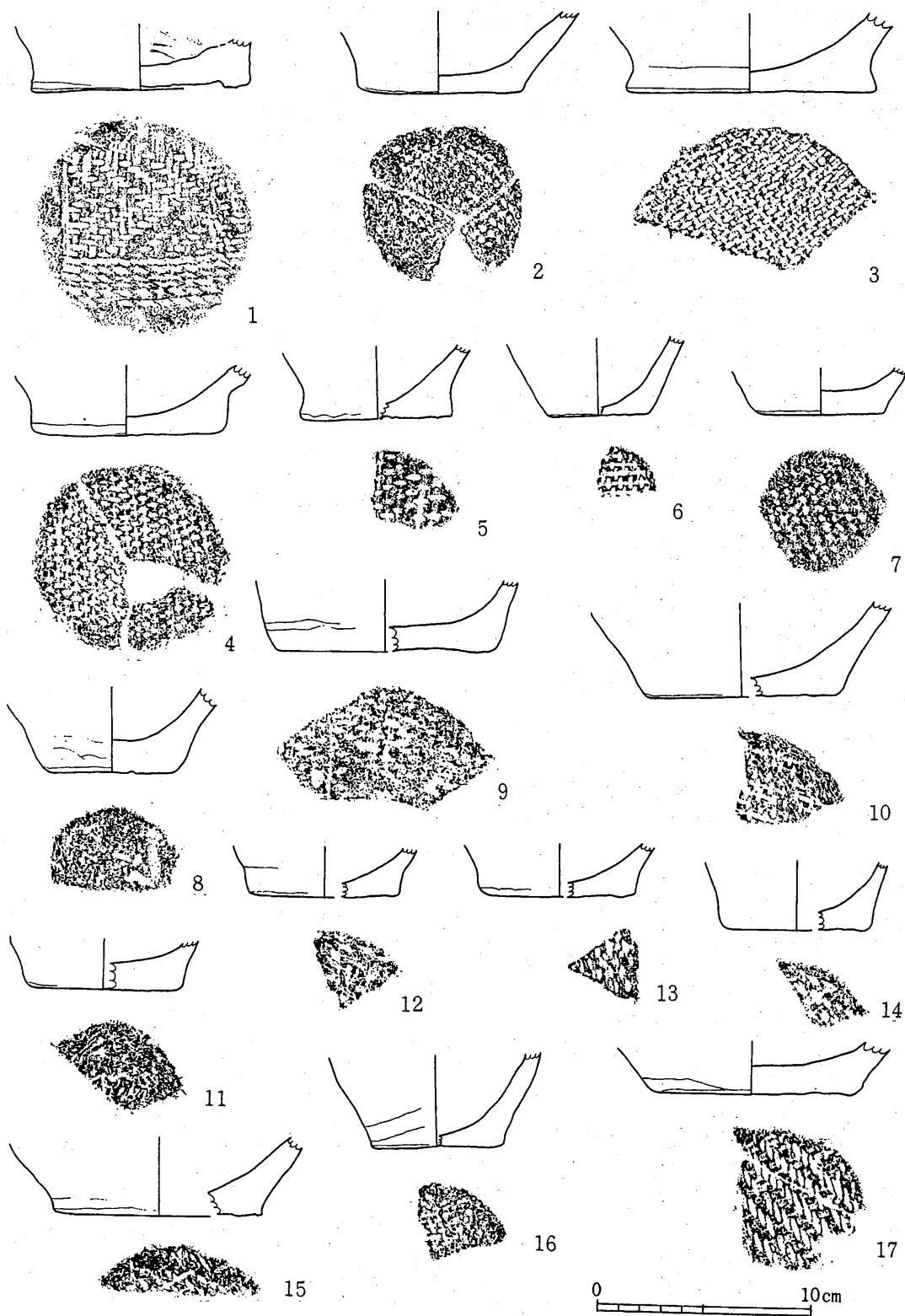
第72図 16号住居址出土遺物

遺構番号	16号住居址		時期	弥生後期	検出位置	BK-25	検出面				
平面検出	結果	部分的明確	根拠	黒色土の落ち込み、東側半分は検出できず							
新旧関係	なし						根拠				
埋土	分層	4層		埋没過程	自然埋没			包含物	なし		
平面プラン	不整(長)方形			規模	不明			主軸	北側壁N68°W		
床	検出	明確	状態	堅固	掘方	あり		貼床	明確	貼替え	なし
床面焼土等	有無	無		状況							
壁	検出	北西壁及び北東壁の一部						状態	ほぼ垂直		
柱穴	有無	有	内容	支柱穴 1 その他	遺物	なし			柱痕	なし	
周溝	状態	なし			遺物						
炉	検出できず										
住居内施設	有無	無	内容					遺物			
埋甕・伏甕	有無	—	状態	蓋石					遺物		
増改築	有無	無	根拠								
床下遺構	有無	無			遺物						
その他	・埋土中の遺物は縄文時代後期後葉の粗製無文の深鉢片が多く出土している (馬場)										

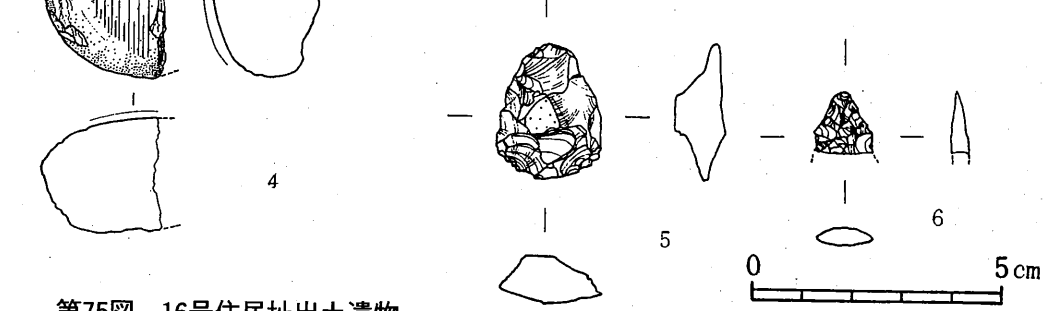
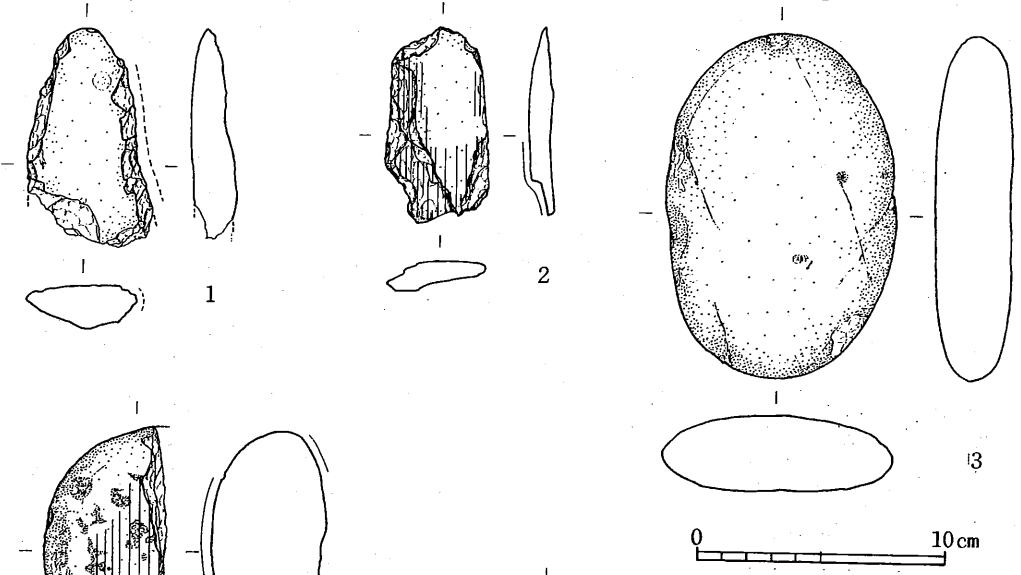
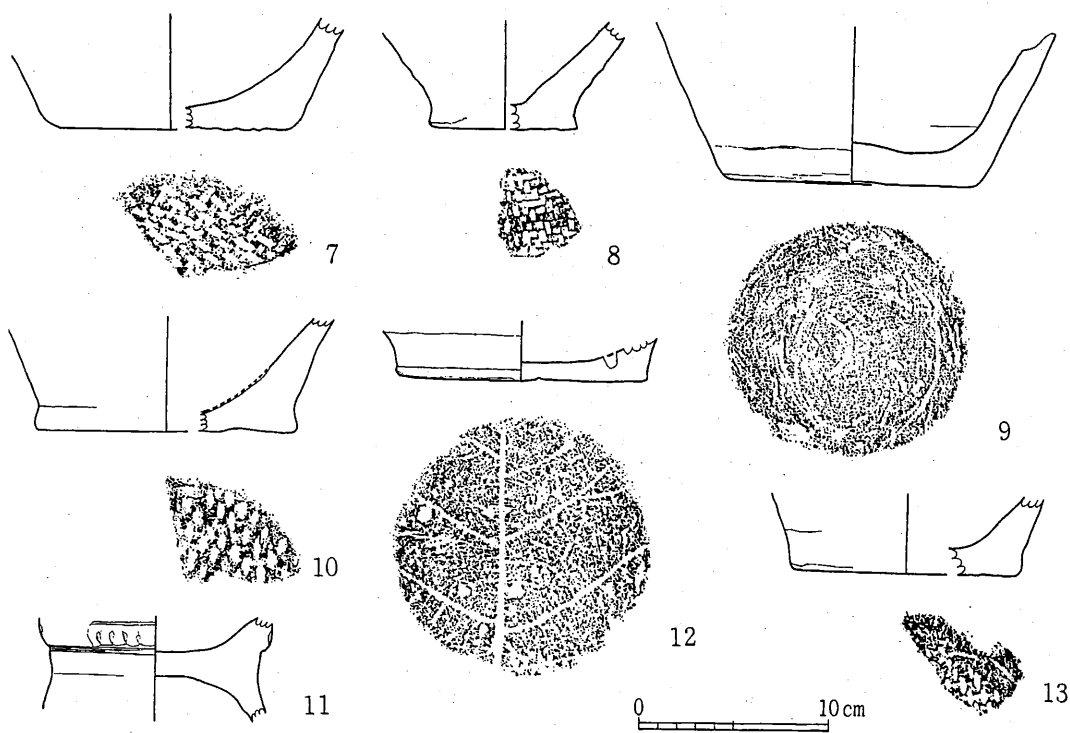
第21表 16号住居址



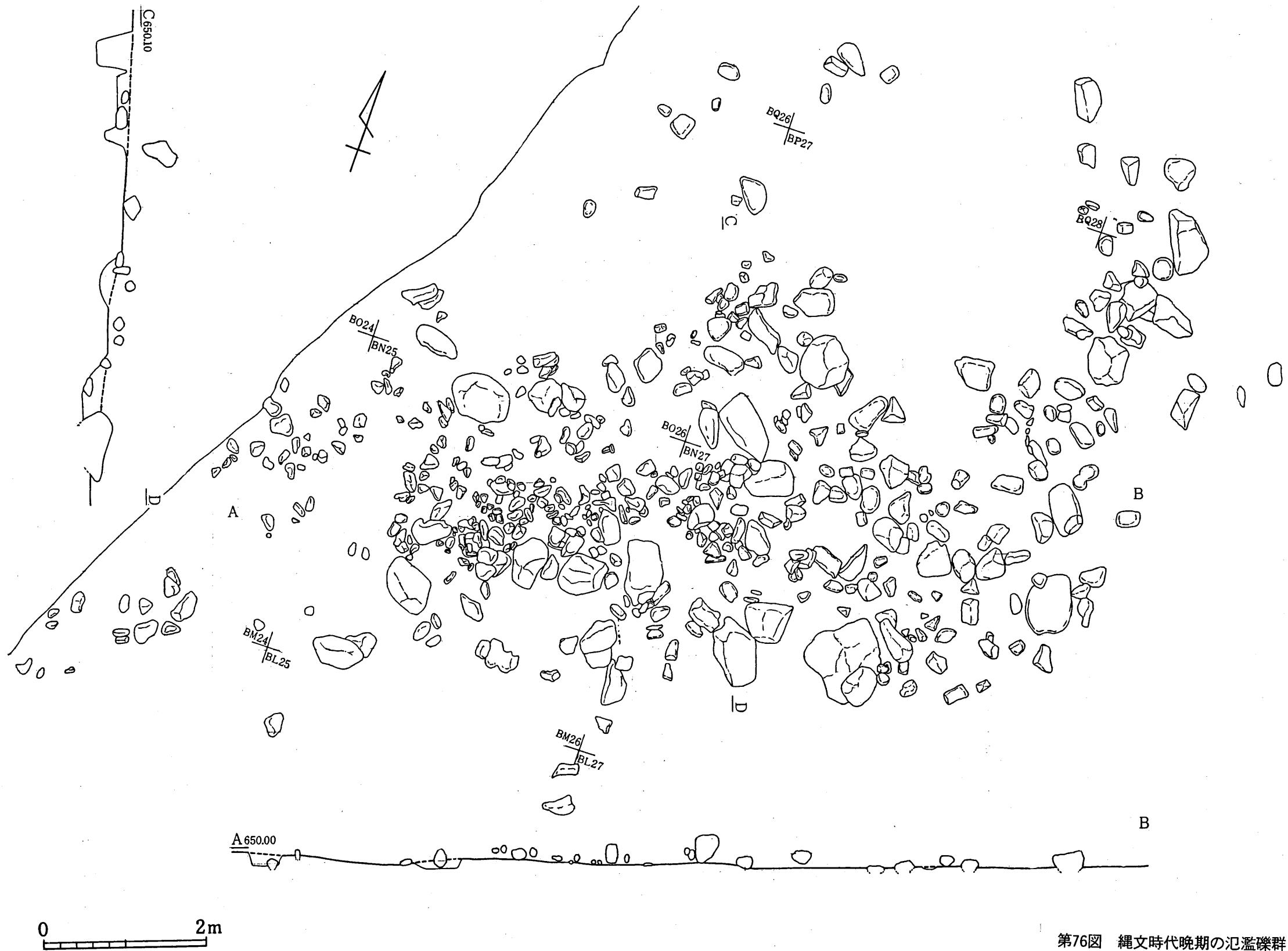
第73図 16号住居址出土遺物



第74图 16号住居址出土遺物



第75图 16号住居址出土遺物

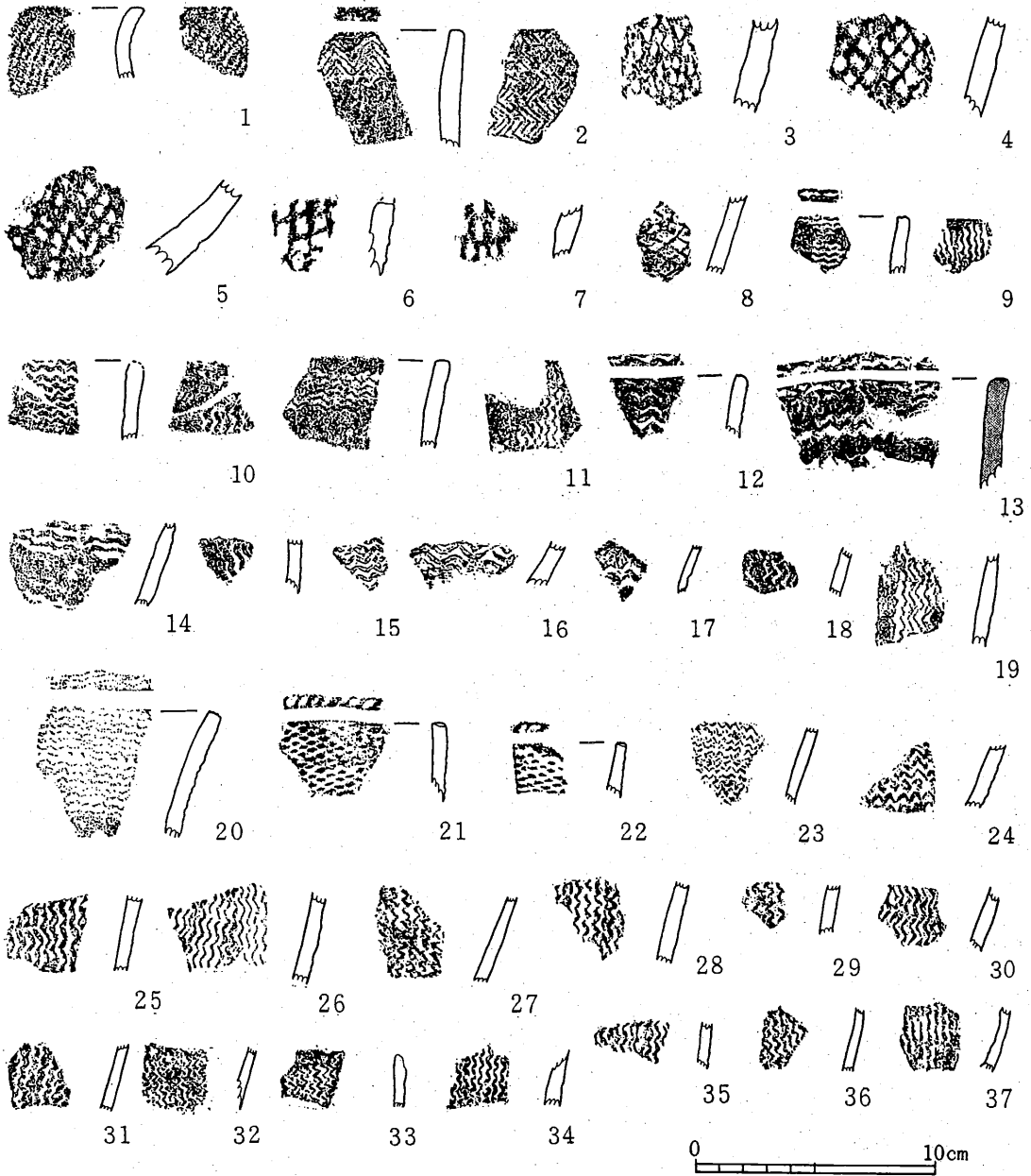


第76図 縄文時代晩期の氾濫礫群

7 遺構外出土遺物

1) 土器

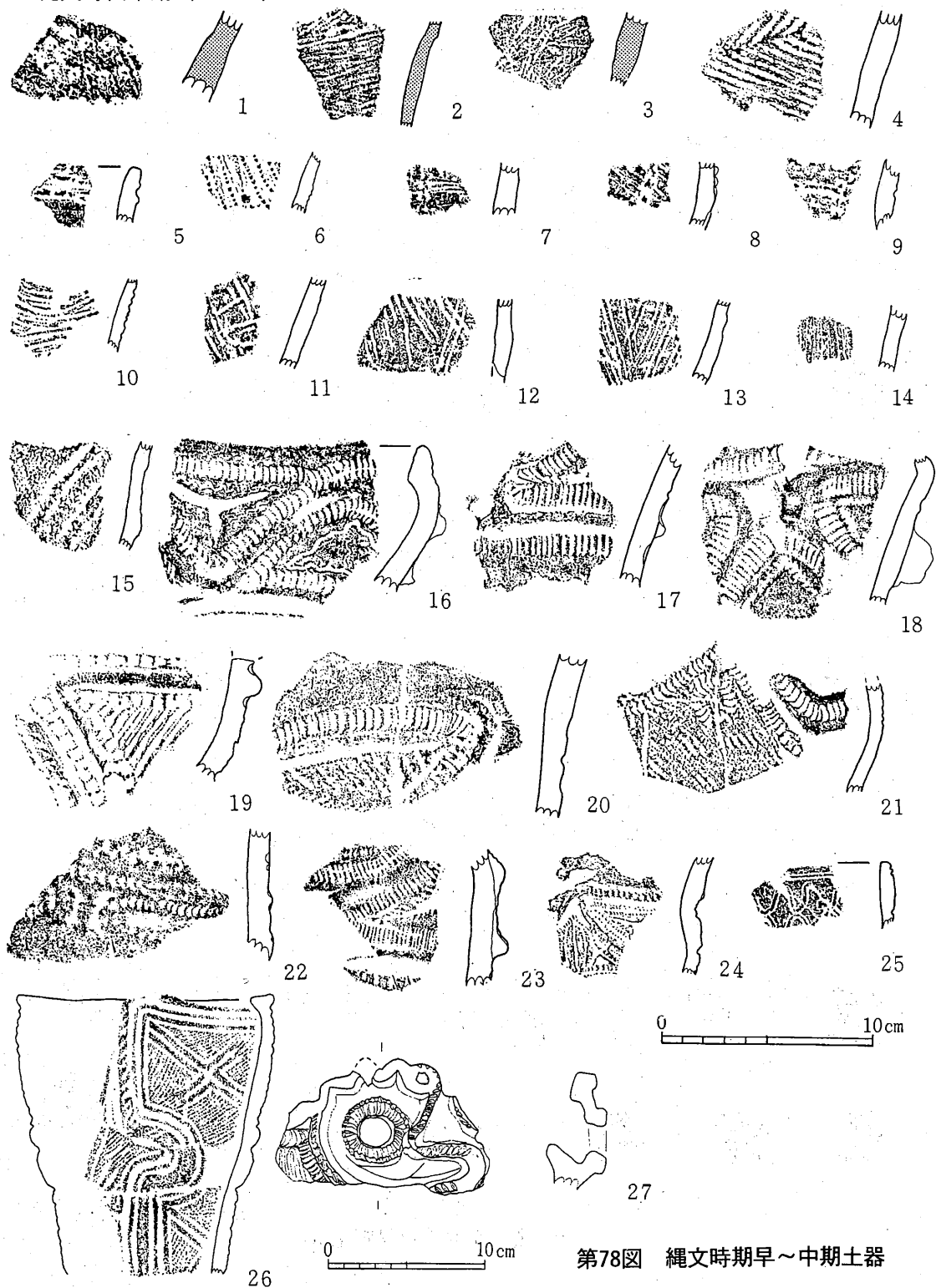
① 縄文時代早期



第77図 縄文時代早期土器

②繩文時代前期 (1~14)

③繩文時代中期 (15~27)

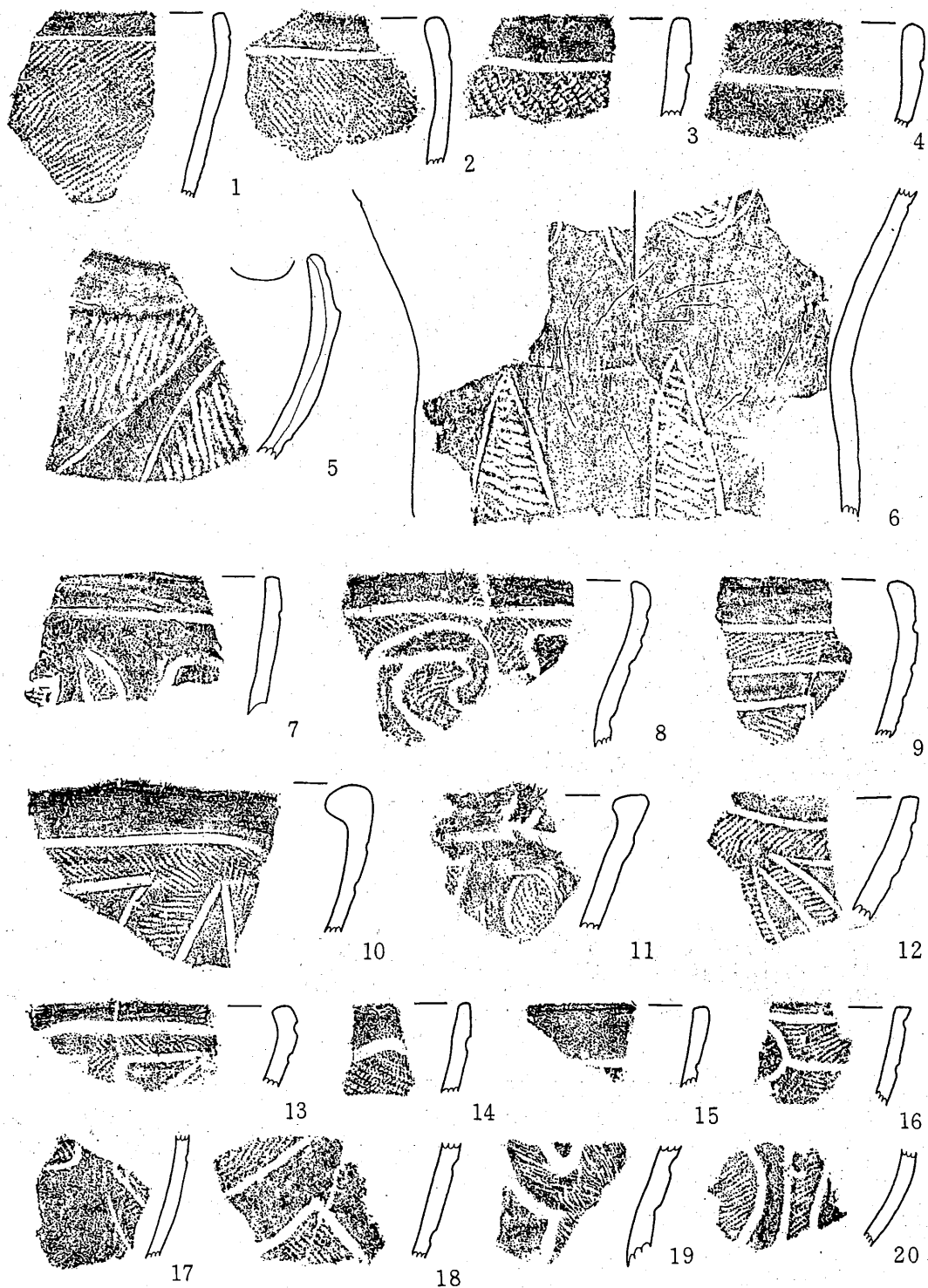


第78図 縄文時期早~中期土器

図No.	出土区・層	原体種類	部位	単位数	刻み	施文方向	施文方法	原体長	原体幅	口唇部施文	内面施文	器厚	胎土等
1	BN28コク	L R縄文	口縁部			横位					L R横位	6	細かい金雲母
2	タテトレンチ	山形文	口縁部	1	横	縦位	密接	185	150	山形文	山形文横位	8	細かい石英を含む
3	BM30明カツ	ネガティブ	胴下半	2	縦	横位	密接		135			10	金雲母
4	BM20コク	斜格子目文	胴	2	斜	横位	密接		190			10	細かい石英
5	BM27カツ	ネガティブ	胴下半	2	斜	横位	密接		155			10	金雲母細かい石英
6	BW31明カツ	斜格子目文	胴	2	斜	横位	密接		165			9	金雲母
7	タテトレンチ	ネガティブ	胴	2 or 3	斜	横位	密接		125			8	石英等
8	BO033	斜格子目文	胴	2	斜	横位	密接		170			8	石英
9	BN29明カツ	山形文	口縁部	2	横	縦位	密接		100	山形文	山形文横位	6	細かい金雲母
10	12住フク土混	山形文	胴上	2	横	縦位	带状	255	120		山形文横位	6	石英等含む
11	BL30コク	山形文	口縁部	2	横	縦位	带状	145	125	山形文	山形文横位	6	石英等含む
12	18住フク土混	山形文	口縁部	2	横	横位			200	山形文		6	
13	BC29コク	山形文	口縁部	2	横	横位	带状	245	145	山形文	なし	8	繊維、岩片を含む
14	BL28カツ	山形文	胴下	2	横	横位	带状		190			6	
15	B	山形文	胴上	2	横	縦位	带状		135		山形文横位	6	
16	BD33	山形文	胴	1	横	横位	密接		140			7	細かい金雲母
17	B	山形文	胴		横	横位						3	細かい金雲母含む
18	B	山形文	胴		横	縦位	带状					5	
19	BL28カツ	山形文	胴	2	横	縦位	带状	175	105			6	
20	BT35明カツ	山形文	口縁部	3	横	横位	無文部有	250	185	山形文		7	
21	BK30明カツ	楕円文	口縁部	2	横	横位	密接		155	刻み	なし	6	
22	19住床下	楕円文	口縁部	2	横	横位		150		刻み	なし	6	
23	10住フク土混	山形文	胴	2	横	縦位	密接	125	80			6	
24	BM29P1	山形文	胴	2	横	横位	密接		110			7	
25	BM28明カツ	山形文	胴	2	横	縦位	密接		185			6	細かい金雲母
26	BK30明カツ	山形文	胴	2	横	縦位	密接		160			6	
27	10住フク土混	山形文	胴	2	横	縦位	密接		100			5	
28	BW24P1	山形文	胴	2	横	縦位	密接		120			7	石英多く含む
29	ミゾ状 1混	山形文	胴	2	横	縦位			105			5	
30	BM30明カツ	山形文	胴	2	横	縦位	密接		170			6	
31	10住フク土混	山形文	胴	2	横	縦位	密接		115			5	
32	16住P5	山形文	胴	2	横	縦位	密接		95			5	
33	カクラン	山形文	胴	2	横	縦位	密接		85			4	
34	ミゾ状 1混	山形文	胴	2	横	縦位	密接		105			6	
35	BK26 (16住)	山形文	胴	2	横	縦位	密接		130			5	
36	BL30コク	山形文	胴	2	横	縦位	密接		95			5	
37	BT37明カツ	山形文	胴	3	縦	横位	密接		105			5	石英等

第22表 草創期・早期土器観察表

④繩文時代後期

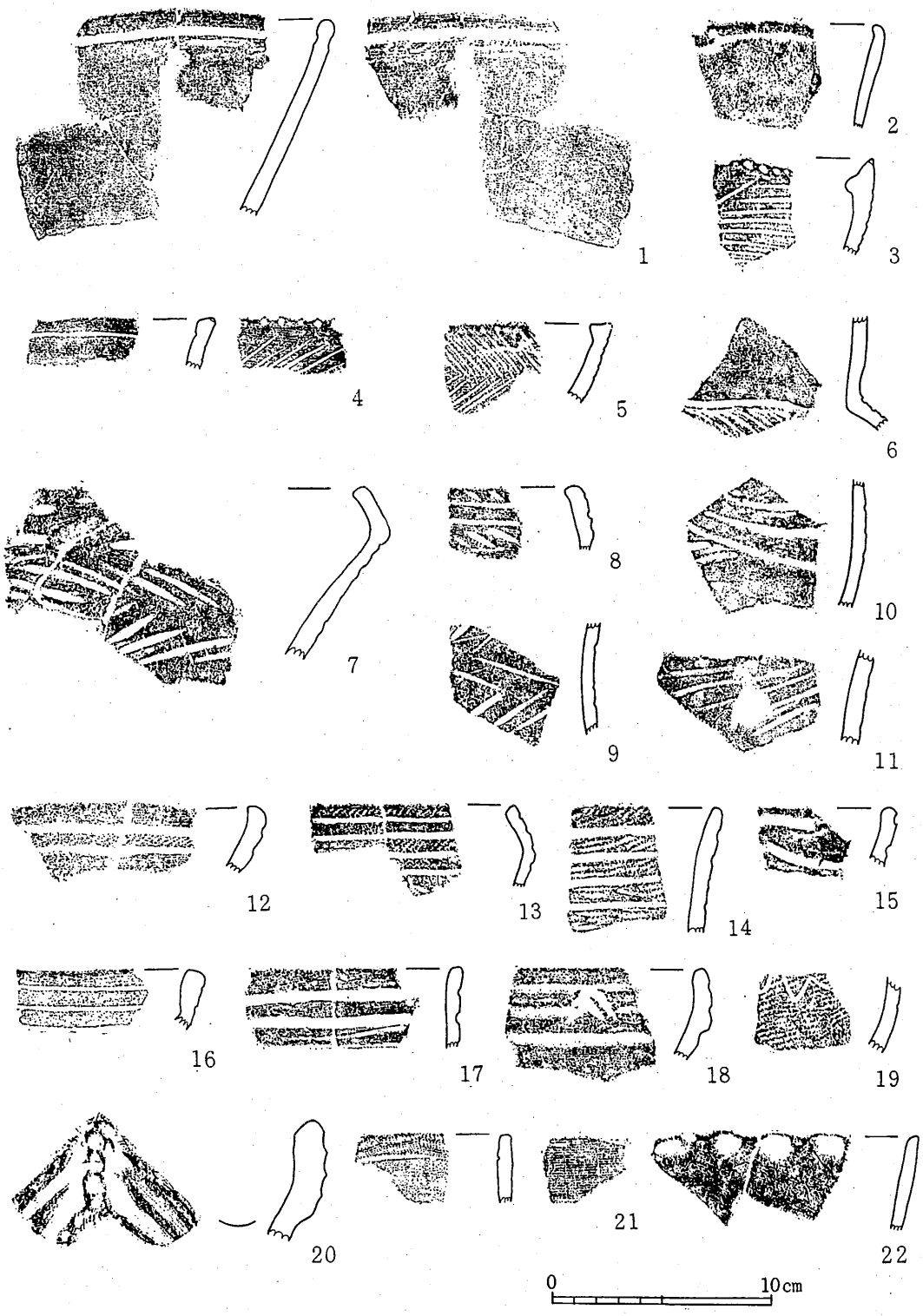


第79図 縄文時代後期土器

0 10cm

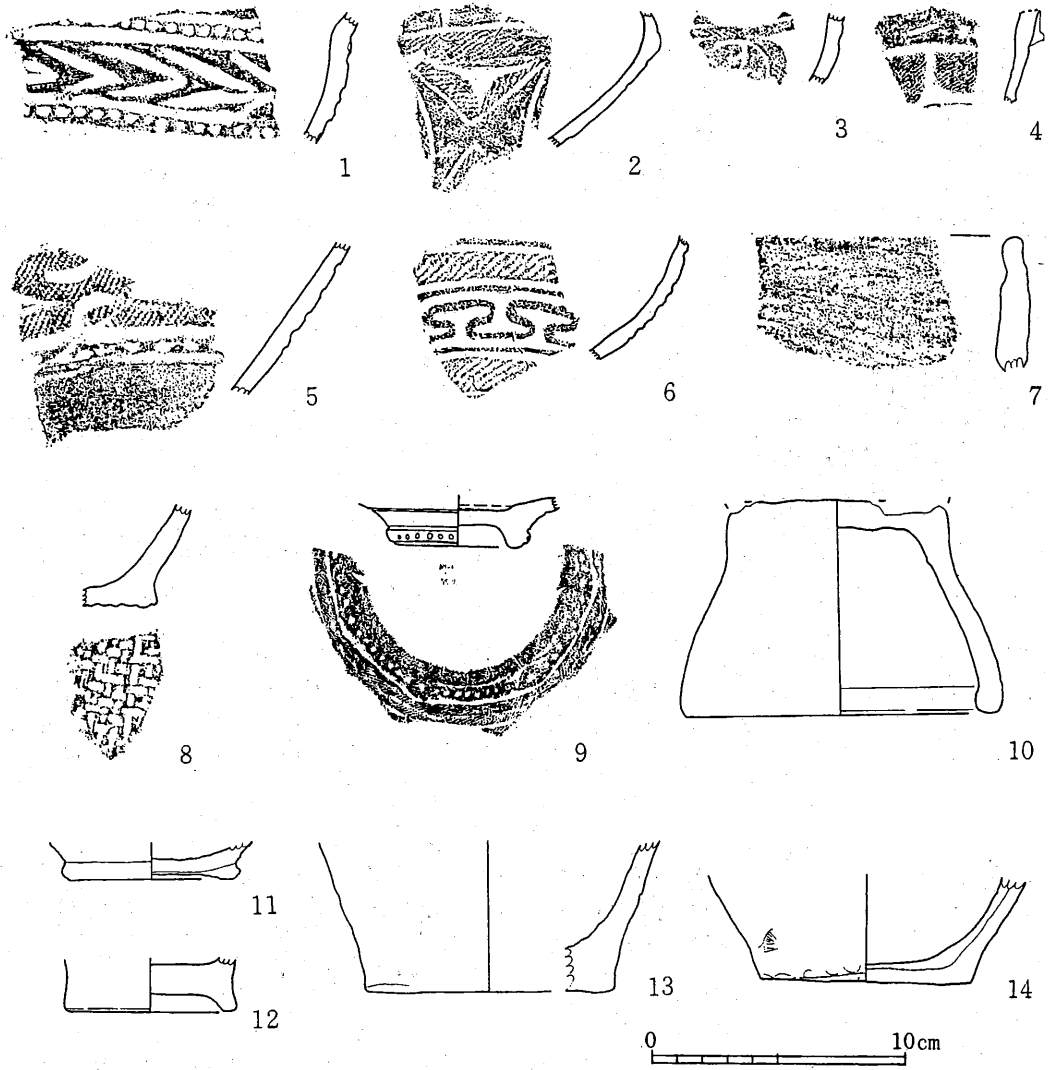


第80圖 縄文時代後期土器



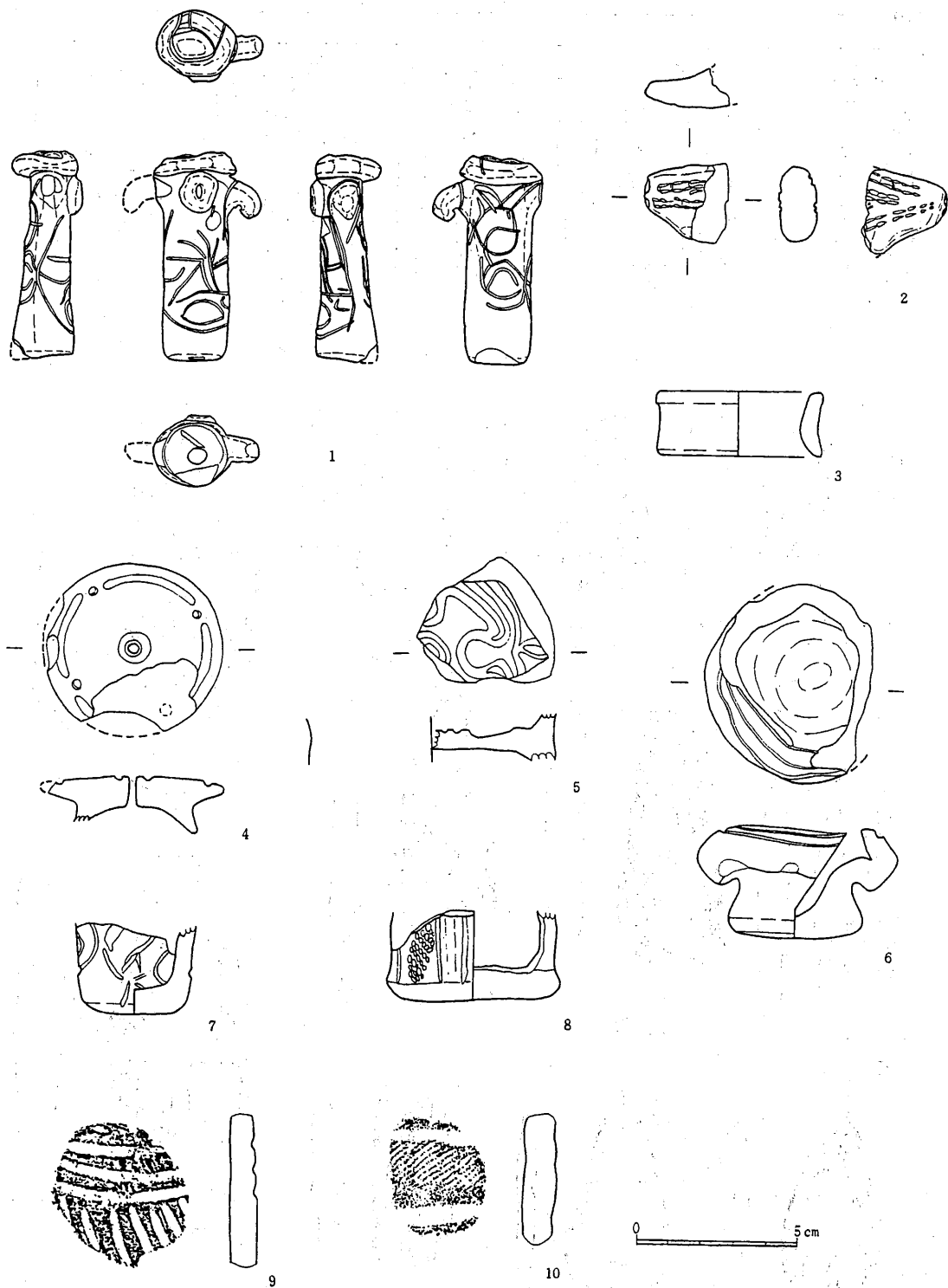
第81図 縄文時代後期土器

⑤ 縄文時代晩期土器



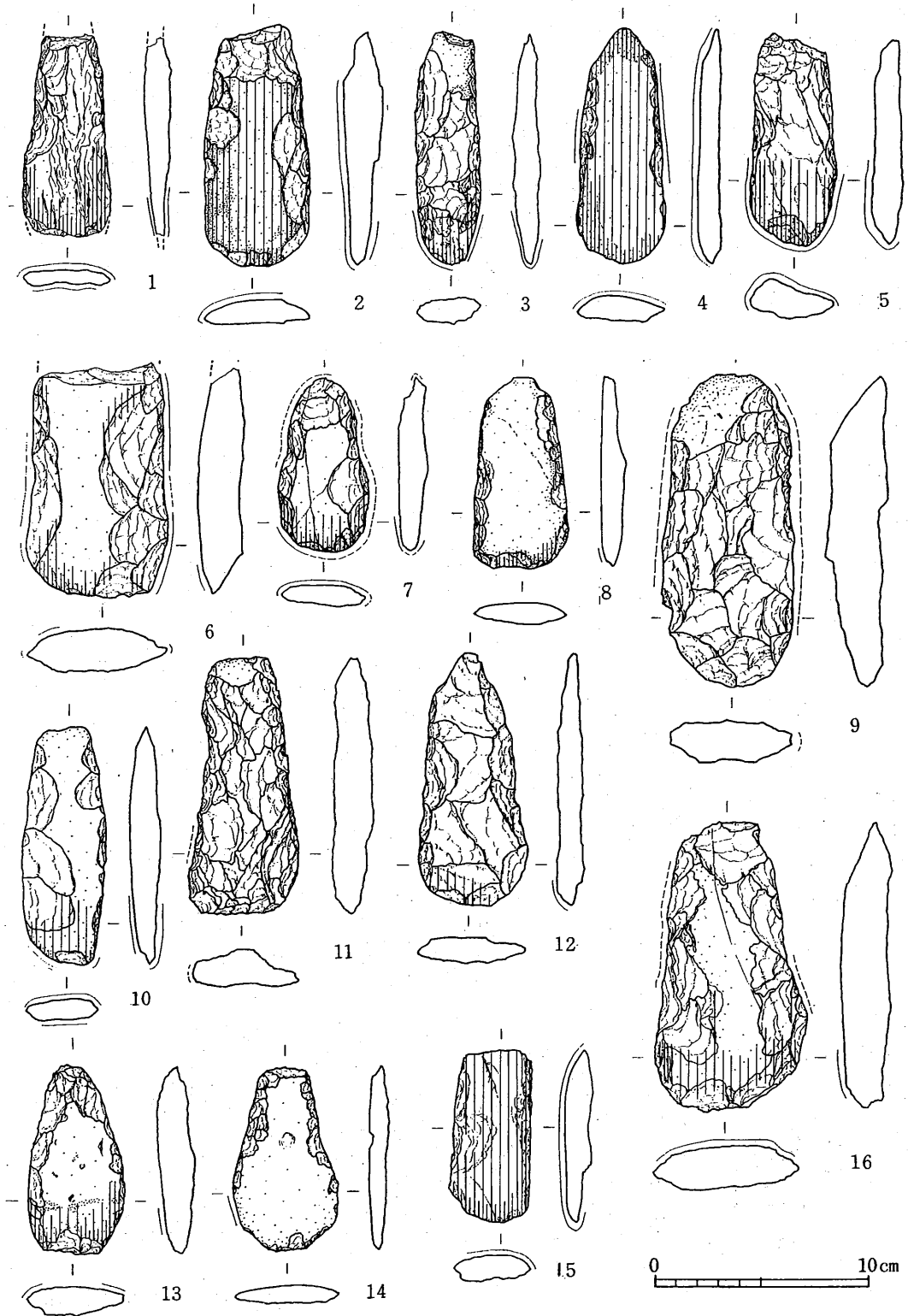
第82図 縄文時代後・晩期土器

2) 土製品

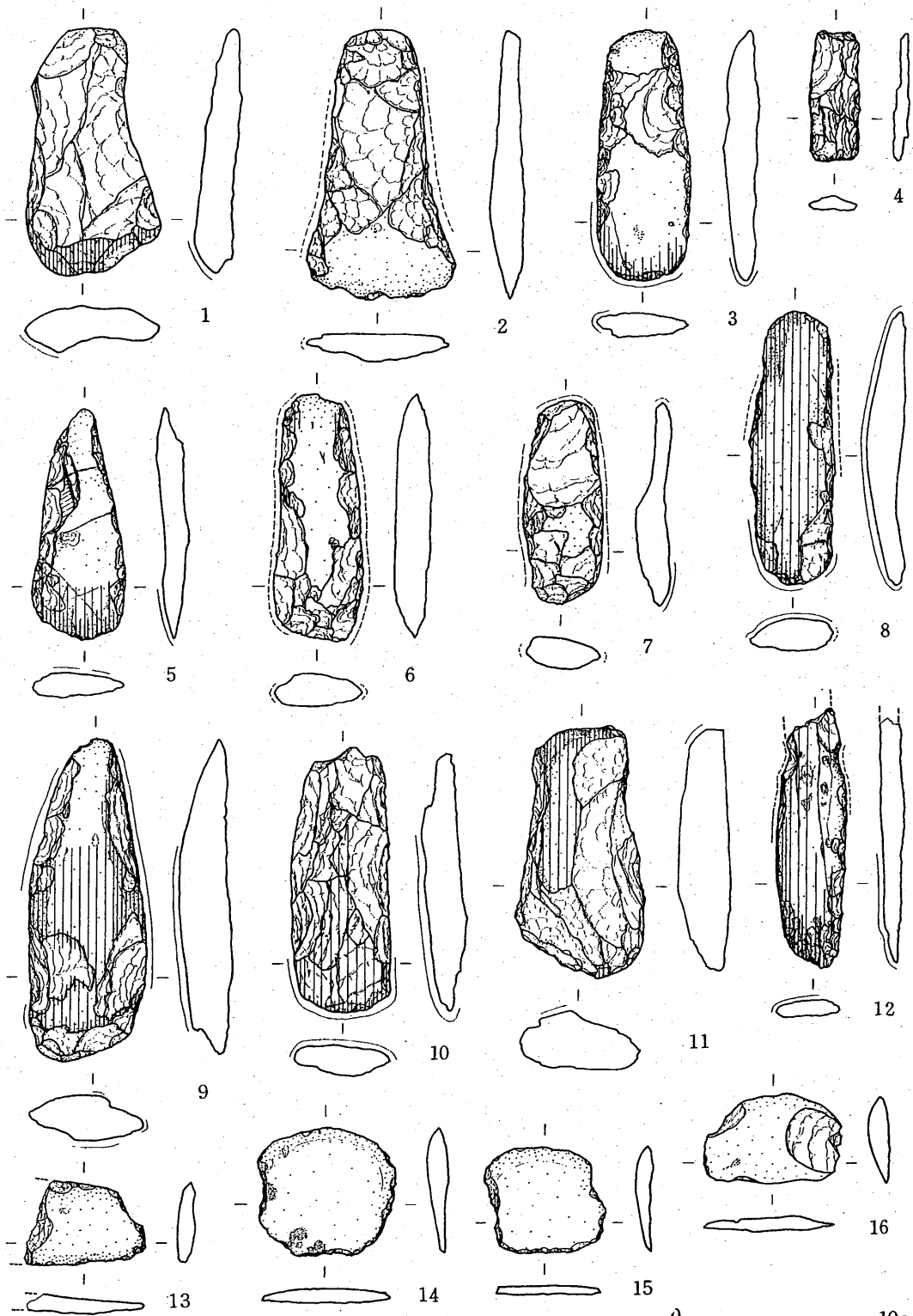


第83図 縄文時代土製品

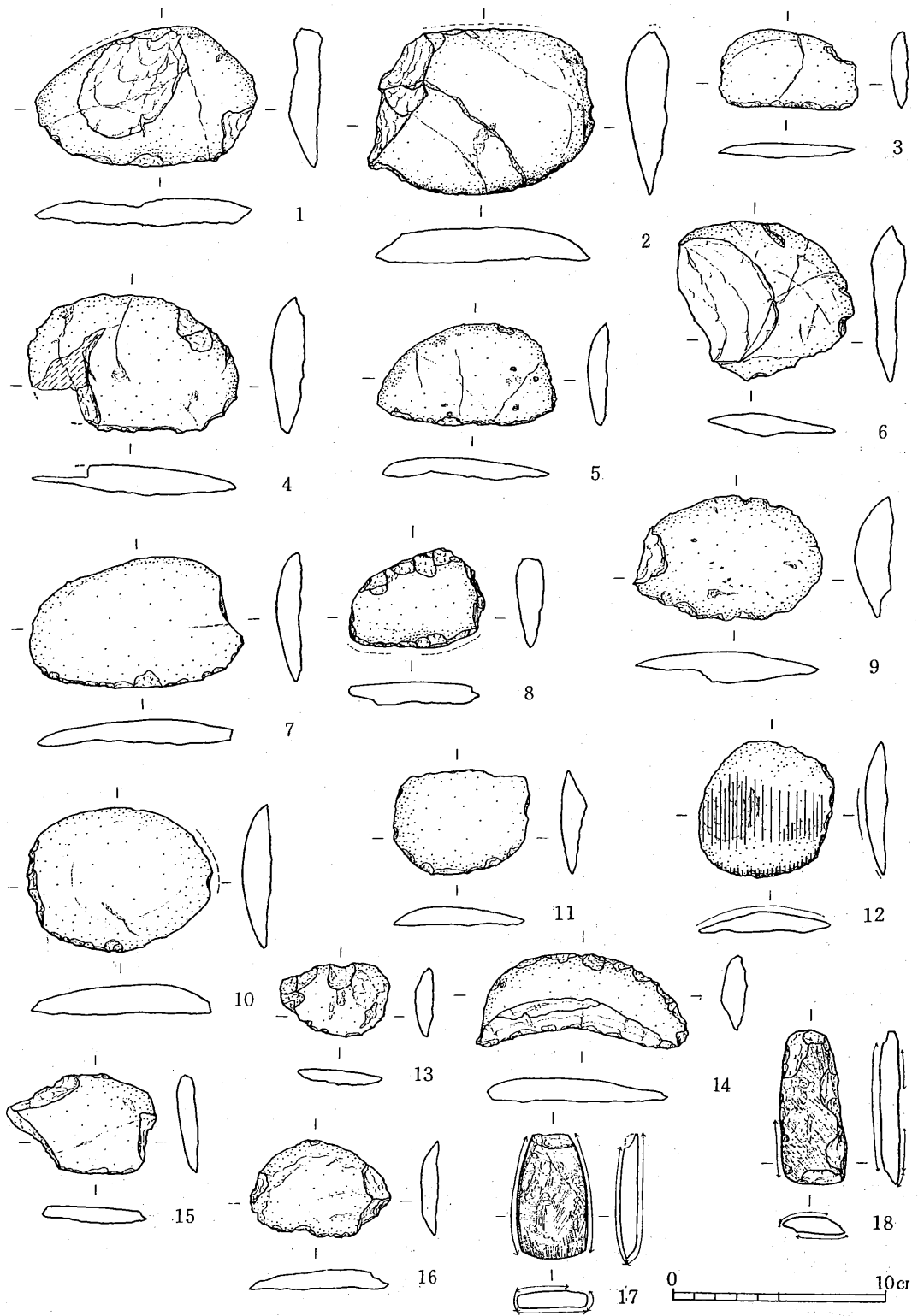
3) 石器



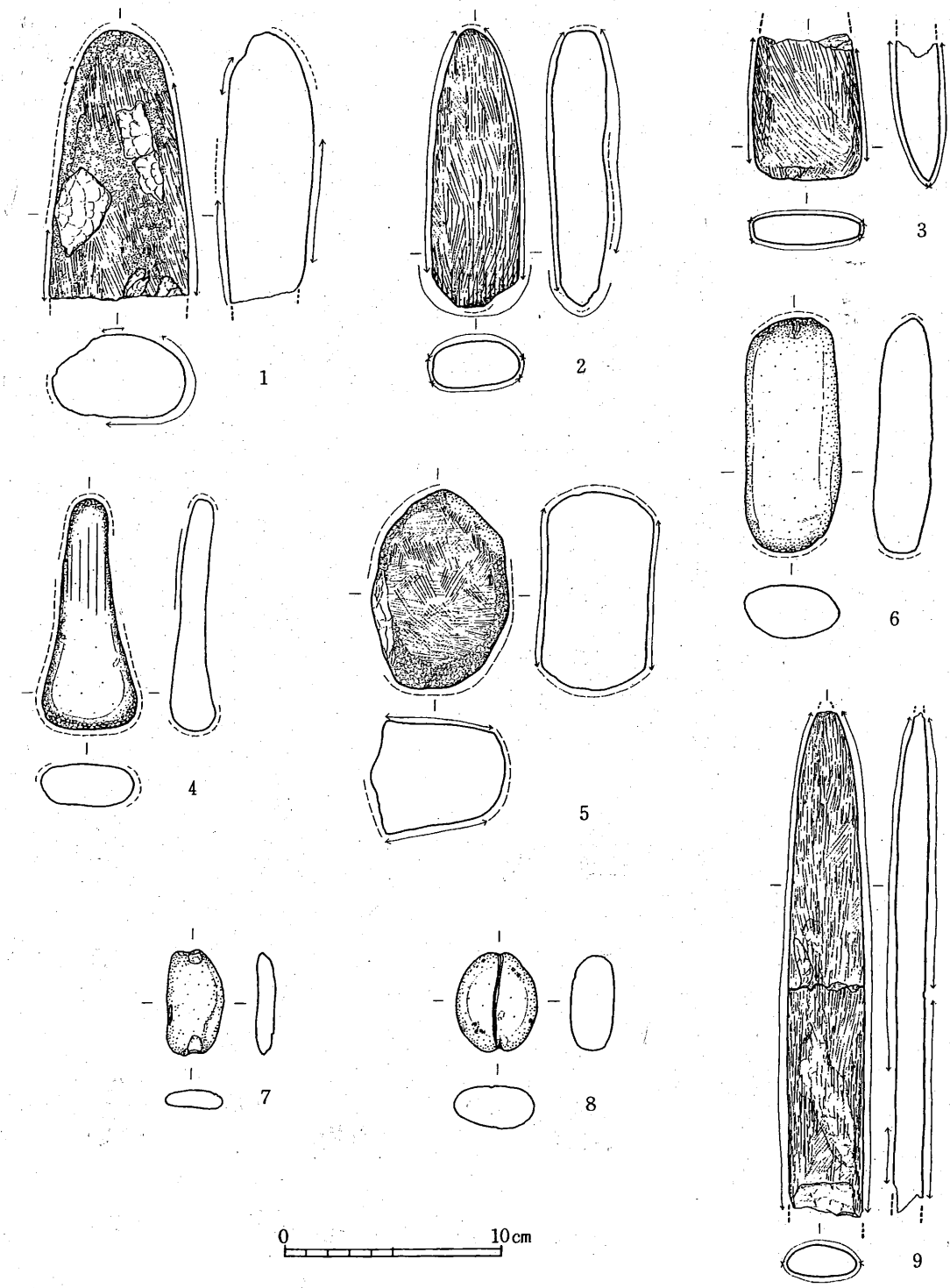
第84图 遺構外出土石器



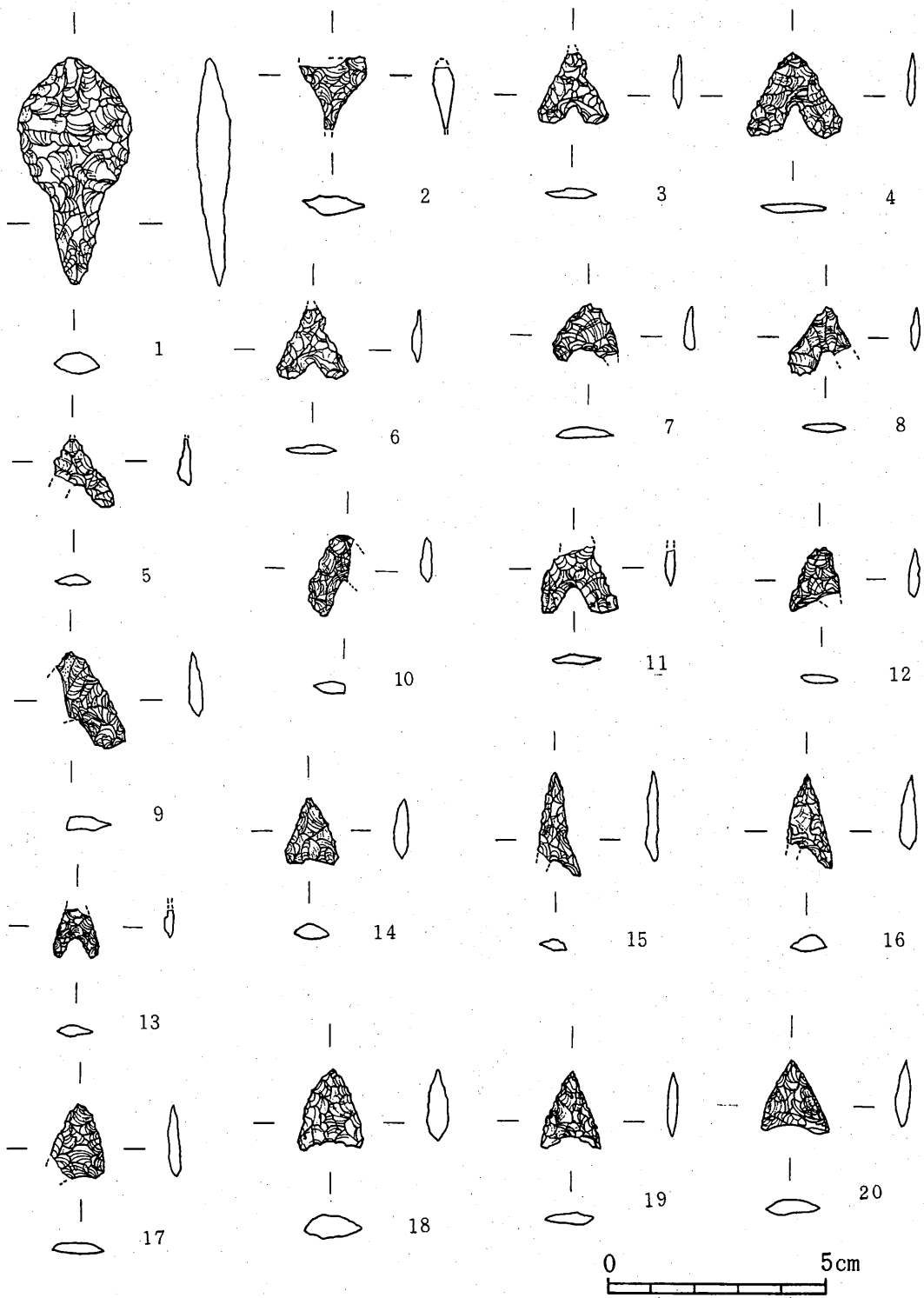
第85圖 遺構外出土石器



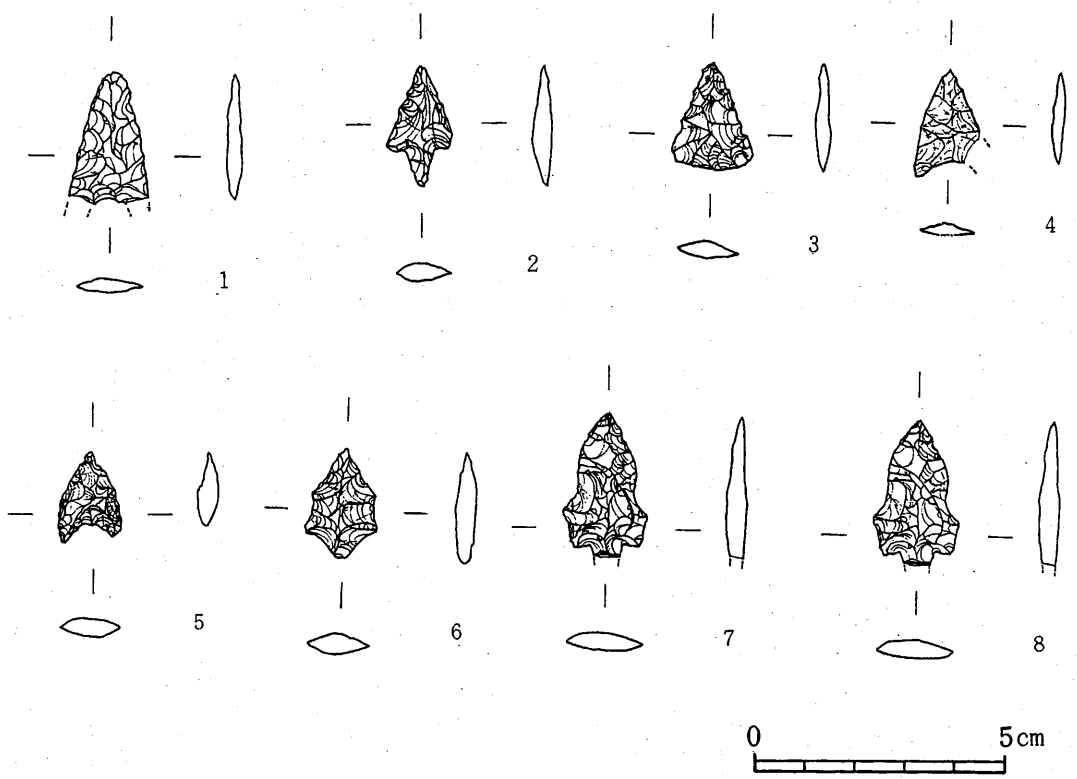
第86圖 遺構外出土石器



第87图 遺構外出土石器



第88图 遺構外出土石器



第89圖 遺構外出土石器

IV ま と め

今回の調査は、宅地造成という狭い範囲に限られたもので、遺跡全体から見れば、そのごく一部にすぎないものである。その調査結果は本文中に記したとおりであり、今までは、南北に通る農道西部山麓線建設に先立ち実施した発掘調査、地表面において確認される遺物より、推測されていた本遺跡の実態により深く触れることができる調査であった。特に、縄文時代中期中葉から後葉にかけての集落址が確認されたのをはじめ、早期・後期の遺構等も検出され、当地方における縄文時代研究に大きく寄与する結果が得られた。そこで、時代毎の概要を記して今次調査の総括としたい。

(1) 縄文時代草創期～前期

この時期は、土坑17のほかは、小穴が12号住居址北側で確認できたのみで、住居址は確認されていない。出土遺物の多くは調査区北側で確認されており、この状況から、本調査区の北側に草創期～前期の集落の存在が予想できる。

1) 縄文時代草創期

本遺跡出土の縄文時代草創期と考えられるものとして、表裏縄文土器 1片 (第77図 1) がある。原体LRの単節縄文が内外面とも横位に施文され、内面は少なくとも2帯以上施文される。口縁部が外反し、口唇部がなでられる。胎土に細かい金雲母・石英を含む。口縁部および口唇部の形態は、下伊那郡高森町増野川子石遺跡出土の表裏縄文土器に類似する。胎土に金雲母・石英を含むことから草創期に遡ると考えられる。

2) 縄文時代早期～前期

早期の土坑17は、20号住居址に切られて確認されているが、検出時の切り合いは明確でなく出土遺物 (第68図 4) より判断した。壁は軟弱な砂質で、埋土も暗褐色砂質である。

第77図 2～37は押型文土器を一括した。量的に少ないながらも、立野式・樋沢式・細久保式各々および他地域から搬入されたと考えられる土器が出土している。

2～8・16・37は立野式に比定される。2はいわゆる立野タイプの山形文で、1単位で反復すると考えられる。3・5・6は胎土に金雲母を含む。7は石英を多く含んだ橙褐色を呈する搬入されたと考えられる土器で、原体から大川式直後併行に位置づけられよう。37は縦刻み 3単位の山形文と考えられ、横位に密接施文される。山形文といわゆる棒状文の中間的な文様ともいえ、胴部下半で、器厚 5mmの薄手の土器である。

9～11・14・15・18・19は帯状施文を特徴としており、樋沢式に比定される。細かい金雲母を含む。13は繊維や岩片を多く含んでおり、搬入された土器と考えられる。黒鉛を含む樋沢式土器は出土していない。

20～36は密接施文を特徴とする土器で、細久保式に比定される。20は、横位 2帯の密接施文の下に無文帯をもつ。21・22は口唇部に刻みが施される。26は内面に炭化物が付着する。33は接合部分にかけて山形文が施文されており、成形および施文が交互に行なわれている。

以上、大まかであるが、従来設定されている土器型式で分類した。しかし、押型文土器の編年については、近年その出自等に関して様々な説が展開され、議論の分かれる部分が多く、少なからずこうした議論に関わる遺物が出土した遺跡といえる。こうした論議については、立野遺跡出土土器をはじめ、当地方出土の該期資料を統括する中での整理・検討が必要といえる。

(2) 縄文時代中期

本遺跡の集落は、平成2年度に行われた第1次調査時に確認された竪穴住居址3軒を含め、確認された住居址20軒中、中期が15軒で、土坑等も多くが中期であり、該期が中心となる。以下、中期を大きく初頭・中葉・後葉とに分類し、必要に応じて細分していく。

1) 中期の土器について

① 中期中頭

当該期の遺物は出土していない。周辺の遺跡においても見られない。

② 中期中葉

所謂井戸尻編年の猪沢式土器様式併行と思われる土器小破片が1片出土しているが(78-15)、詳細は明らかでない。

引き続き新道式土器様式は見られないが、藤内式土器様式併行が出土しており(78-16～23・26・27)、連続爪形文及び重三角文や三叉文が見られる(78-16～18・20・23)。また、縦位区画文(パネル文)が施されるものもあり、当地方では飯田市増田遺跡土坑48出土土器(上郷町教育委員会 1989)に続いて類例の少ないものである。

井戸尻Ⅲ式土器様式併行(以下中葉末とする)期になると伊那谷南部では、遺物量も増加する。本遺跡では4・8・9号住居址及び土坑3・7・30・31出土遺物が該期に相当する。主体となるものは平出第Ⅲ類A土器(6-4・5、78-25)及び、下伊那型櫛形文土器(18-1、19-4)で(神村 1986)、井戸尻Ⅲ式土器様式のメルクマールである櫛形文を胴部に持ち、口縁部から頸部にかけて粘土紐を縦位・横位・弧状に添付する土器で、米田明訓の言う「細隆線文土器」は(米田 1980)、あまり出土していない(69-24)。いずれにせよ、中期中葉末～後葉初頭の編年については、八ヶ岳山麓地域でも過渡的な土器が出土し流動化しているように、現状では大枠しかない当地域においては、中期中葉末～後葉初頭にかけての細分は困難である。

③ 中期後葉

該期について当地域の編年は、前述した米田の編年に基本的に準拠する。

I期は、12号住居址出土土器が該当する。30-3・6・8・9は、加曾利EⅠ式土器様式の影響を受けた土器で、口縁部に横位渦巻文で区画する文様帯を有し、頸部は無文で胴部に斜縄文及

び条線を施文するものである。30-5、32-4~10、33-1・2・5・8・9・11~18、34-1~5は、中葉末の「細隆線文土器」の系譜を引く土器と思われ、櫛形文が残るものもあるようである。12号住居址出土土器にも櫛形文を有する土器があるが、前述したように多時期の土器が出土しているので混入している可能性もある。30-7は曾利Ⅰ式土器様式系の土器である。当地域では若干の出土があるが類例は少ない。

Ⅱ期になると遺物量が増え、5・10・19号住居址出土土器が該当する。該期になると、主に東海地域の技法が多く流入しており、所謂「中富式土器」の影響を受けた土器が多い（9-2、23-1~3、24-4~24、56-1他）。また、該期に多く見られる、頸部が一段膨れ、胴部は地文に単節斜縄文を施し、入組文を施文する、所謂「下伊那タイプ」の土器（末木 1978）は当遺跡からは出土していない。

Ⅲ期は、当遺跡では最も出土している。該期を構成している土器は、大きく分類して大柄渦巻文（以下唐草文とする）を施文する所謂「唐草文土器」と、加曾利Ⅴ式土器様式の影響を受けた土器、東海地方の影響を受けた土器の3種類がある。しかし、米田も指摘しているように該期は細分する必要があると思われるので、「唐草文土器」の変遷を中心として、以下Ⅲa・Ⅲb・Ⅲcと3細分し考察したいと思う。

Ⅲa期は「唐草文土器」がまだ確立されていない段階である。所謂飯田下伊那の典型的な「唐草文土器」は、無頸胴張の樽形の器形に隆帯で唐草文を施文し、その間を沈線で充填するものであるが、当該期に見られる「唐草文土器」は、無頸胴張の樽形と、唐草文の間に沈線を充填する手法は確立されているが、唐草文はまだ未発達である。加曾利ⅤⅡ式土器様式の影響を受けた土器においては、口縁部文様帯の横位渦巻文が下垂化し、幅広くなる傾向が見られる。また、胴部の地文は斜縄文が用いられるという点では前段階と同様である。東海地方の影響を受けた土器の様相としては、所謂「咲畑式土器」と呼ばれる土器の影響を強く受けた土器群が見られる。以上が、Ⅲa期の様相であるが、本遺跡では出土していない。

次段階のⅢb期は、当地方の縄文中期後葉で最も隆盛した時期である。本遺跡でも7・13号住居址・土坑5が該期に相当する。「唐草文土器」は、典型的な様相を示し（39-1・40-1）、唐草文が器面に大きく施文され、その間に沈線及び綾杉文が充填される。加曾利ⅤⅡ式土器系土器は、該期に至って転機を迎える。前段階まで胴部の地文が斜縄文及び条線文だったものが綾杉文に変化し、口縁部文様が円形若しくは楕円区画文になり、区画内に刺突文、沈線及び綾杉文が充填される（39-2~3・40-5~6・67-11）。この綾杉文への変化は唐草文土器が曾利様式土器に影響を与えたと同様であると解釈できる。口縁部の区画文の変化については加曾利ⅤⅡ式土器系土器に見られる横位渦巻文による区画文の退化現象と考えられる。また、これらの土器群は飯田下伊那独自の土器でありそうである。40-2は、神村透が橋状突帯付土器としたもので（神村 1990）、分布は愛知・岐阜・京都・滋賀・香川まで広がるようである。該期の概要は以上であるが、前段階まで多く見られた東海地方の影響は該期を境にして少なくなるようである。

III c 期に至ると「唐草文土器」は衰退の一途を辿る。隆盛期の「唐草文土器」に見られる唐草文は隆帯で、無頸胴張の樽形の器形にほとんどが施文されるが、該期に至るとこれらの規則性が崩壊する。18号住居址出土土器(52-1)は、所謂キャリパー形で、口縁部には楕円区画文を有し、区画内に綾杉文と単節斜縄文を充填する。胴部には沈線で渦巻文を施文している。該期は前段階に見られた口縁部に円形若しくは楕円区画文を有する土器群は減少し、胴部の綾杉文は弱々しくなる(51-1)。これらの土器群に代わり、加曾利E III式土器系土器が増加する。I 期に見られた口縁部文様帯の横位渦巻文が退化したモチーフを用い、頸部には刺突文を施文し、胴部は地文に斜縄文を施し、沈線で長方形に区画する(31-4~6、45-2、46-3・51-2)。また、蛇行沈線を施文するものもある(31-3、46-6)。本遺跡では12・15号住居址の一部と18号住居址が該期に比定される。

中期最終末にあたる、米田氏の言うIV・V期については、結節縄文が施文される土器群であり、神村透の論文に詳しい(神村 1978)。しかし、前述したIII期の細分方法で考えれば、縄文施文のあるものをIV a 期とし、縄文が磨消されたもの及び、ないものをIV b 期と、一期2細分した方がよいと考えられる。本遺跡では15号住居址出土遺物の一部(45-1・5、46-7・8・11・12)がIV a 期に比定される。

以上、本遺跡出土土器の編年的位置付けを考察したが、概要のみであり、また根拠に乏しい点が多い。

2) 集落について

今次調査においては、集落について考察できるだけの資料に乏しいが、以下、時期毎に気付いた点を記述したい。なお、時期区分は、1) で用いたものを使用する。

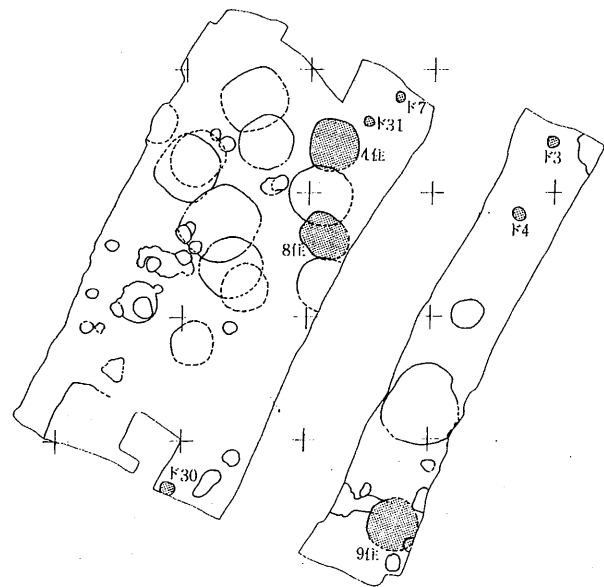
①中期中葉末

当地方では確認例が少なかった時期であり、近年増加する傾向があるが、集落の解明までは至っていないのが現状である。該期の住居址は、調査区の南北方向に3軒、その東側に土坑が4基確認されている。また、西側に1基、単独で土坑がある。調査区の地形は南西側に急に、北西側に緩やかに傾斜しており、遺構分布及び地形の状況から集落は調査区北東側に展開していると考えられ、集落南西側の一部を調査したと考えられる。

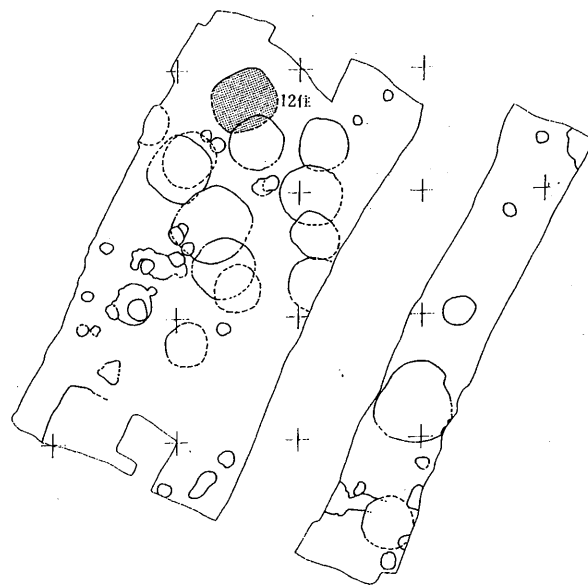
②中期後葉I期

調査区北側で1軒(12号住居址)確認された。12号住居址は他時期に亘る土器が出土しているが、炉址の規模から、該期に位置付けられる。当地方の中期に於ける炉址の変遷は、中葉末は石囲炉の掘り方は浅く、使用される石も小型で、円形若しくは方形に囲う。この形式が後葉II期まで続き、III a 期になると大型化した石囲炉になり、掘り方も深く、石も直方体状の大型のものを方形に組み、定型化する。一部に六角形を呈するものもある。中期終末のIV a・b 期は、確認された遺構が少なく詳細は不明であるが、比較的大型の物が多い。

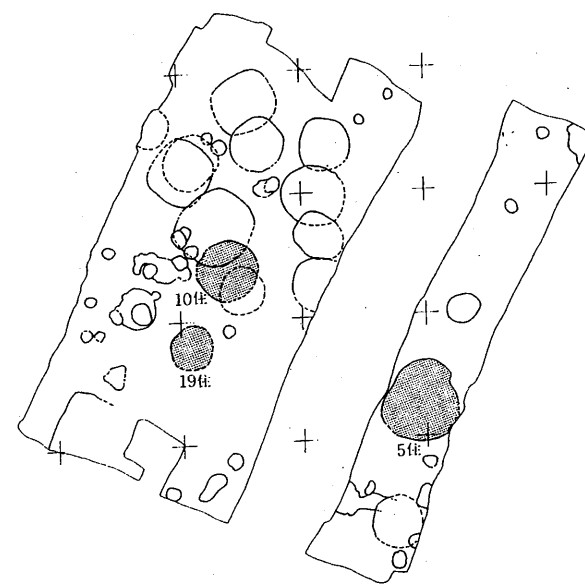
該期の集落は前述したように1軒のみで集落の構成等の詳細は不明である。



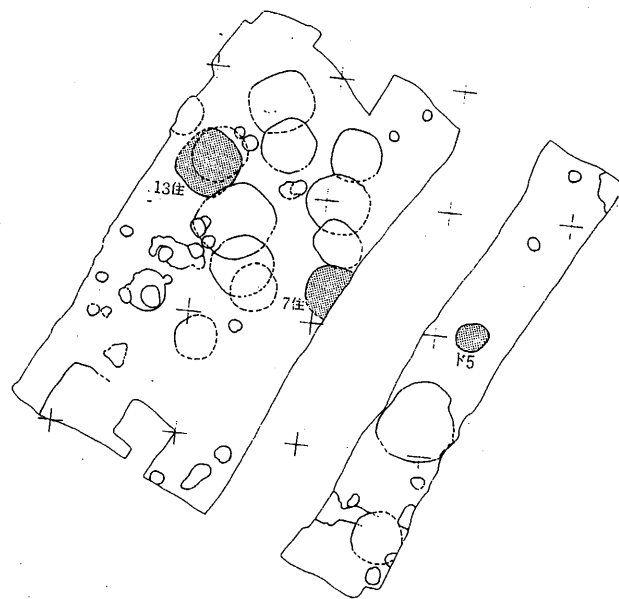
中期中葉末



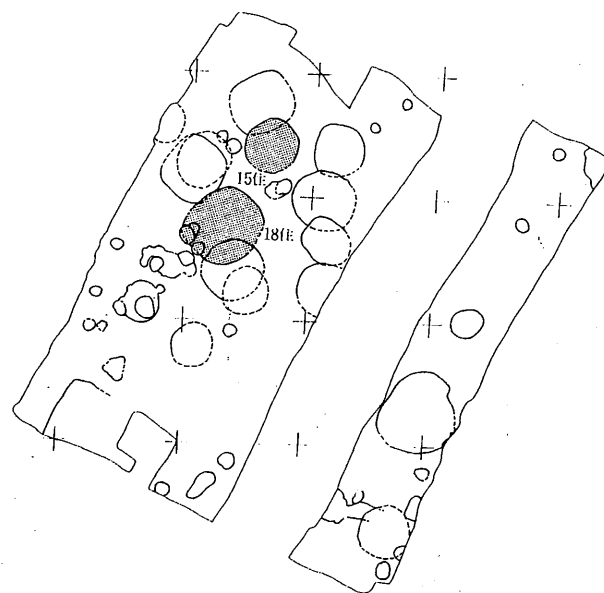
中期後葉Ⅰ期



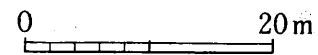
中期後葉Ⅱ期



中期後葉Ⅲ b期



中期後葉Ⅲ c期



第90図 縄文時代中期に於ける集落変遷図

③中期後葉Ⅱ・Ⅲb・Ⅲc期

Ⅱ期に於いては調査区中央部で北西—南東方向に3軒、Ⅲb期は調査区中央部で北西—南東方向に2軒、Ⅲc期は中央部やや北東寄りの位置に北東—南西方向に2軒確認されている。これらの時期も中期中葉末期と同様、集落は調査区北東側に展開していた可能性が強い。

以上の如く得られた成果は不明の点が多いが、高密度に重複して遺構が確認されたことは、今次調査地点が長期間に亘り集落域として活用されていたことにほかならない。詳細な時期が不明な遺構も多いが、中期に限れば、中葉末から中期後葉の中葉まで、ほぼ連続した集落が営まれていたようである。

(3) 縄文時代後期・晩期

調査区西側で、この時期の遺構・遺物が確認されているが、そのほとんどは礫間(図76)の褐色砂質土より出土している。地形・礫群の状況より、それらは調査区南西を流れる南沢川の氾濫によるものと判断できる。このことより、南沢川に沿った本遺跡の西に、後期～晩期にかけての集落の存在があるといえよう。

1) 後期

①後期初頭

当該期の遺物として、称名寺系土器があり、土坑22・23(第69図5～11)および遺構外(第79図7～第80図11)での遺物出土が比較的多い。断片的であるが、J字文・渦巻文といった帯縄文を特徴としており、細分論議はあるが所謂大安寺タイプで称名寺1式(中島庄一 1989 第Ⅱ段階)に比定されると考えられる。

土坑14出土の第68図1はRL縄文が帯状・格子目に施文される。「典型的な磨消縄文がまだ成立していない土器」(玉田芳英 1989)として奈良県大官大寺下層等に類例があり、近畿地方との関連を示す。

②後期前・中葉

前葉および中葉の遺物は、遺構外を中心に断片的に出土している。第80図18等は堀之内式に、また第80図22・23・第81図1～6は加曾利B式に比定されよう。

③後期後葉

20号住居址は後期中葉～晩期前葉にかけての遺物が出土しており、詳細時期は不明であるが、遺物の量から後期後葉の住居址と考えられる。遺構外遺物(第81図7～22)のうち、17は凹線文系、18は下向きの扇状圧痕が施文され宮滝I式併行に比定される。また、21は巻貝により擬似縄文が施文される。

2) 晩期

遺構外、特に氾濫礫群を中心に、断片的に初頭から中葉にかけての遺物出土がある(第82図)。氾濫礫群からは、後期後半からこの時期にかけての遺物が多く出土することより、晩期のある

時期に南沢川の大規模な氾濫が起きたものといえる。

(4) 縄文時代土製品 (第83図)

1は土偶と考えられるが、頭部は粘土紐を貼り付けたのみの簡素な表現で、右腕を欠損する。中期のものかと考えられるが、詳細は不明である。2は、中期後葉の所謂出尻土偶の右腕である。3～5は後～晩期の土製耳飾り、6～8は中期のミニチュア土器、9・10は同じく中期の土製円盤である。

(5) 弥生時代後期

この時期の住居址は1軒確認されたのみであるが、調査前にはこのような高所での存在はまったく予想されなかった。弥生時代といえば、農業を中心とした生産基盤であり、当然住居址の立地する台地上及び周辺の凹地では、稲作・畑作等が行われていたことが容易に予想できる。

当地方においてこのような高所の居住域としては、伊賀良地区の細田北・梅ヶ久保遺跡、上久堅地区の北田遺跡、高森町の月夜平遺跡が、650m前後の標高にあり、ともに弥生時代最高所の集落といえる。特に、本遺跡と同じ伊賀良地区である細田北遺跡で2軒、天竜川を隔てた北田遺跡では5軒の竪穴住居址が確認されており、また該期の集落の通例では、少なくとも数軒の住居址で構成されていることより、調査範囲の南側から西側に、この時期の集落が展開している可能性が高いと判断される。

出土遺物については小片が出土するのみであり、断片的な資料のため、詳細は不明である。

今次調査結果は以上のとおりで、遺跡の極一部を調査したのみにもかかわらず、様々な重要な事実を示している。遺跡の広がりには、笠松山麓を西端に扇状地全域にわたる24haに及び、当地方の縄文時代最大の遺跡群であり、なおかつ、その時代も草創期以降すべての時期にわたっている。遺跡群のすべての内容を具体的にできるとすれば、諏訪の八ヶ岳西南麓の遺跡群にも匹敵するような縄文王国の姿が明かされるはずである。

そうした遺跡の重要性の反面、現実として本遺跡が、市街地より約3kmに位置し、また、現在の伊賀良地区の国道バイパスを中心とした急激な開発の進展状況から、今後周辺地域は宅地開発等、大小様々な開発対象となり、遺跡そのものの破壊もとどまるところを知らない状況であり、今まで以上の地道な文化財保護の姿勢と施策によっていかなければ、当地方の縄文時代研究の根幹を放棄する結果を生じかねない。

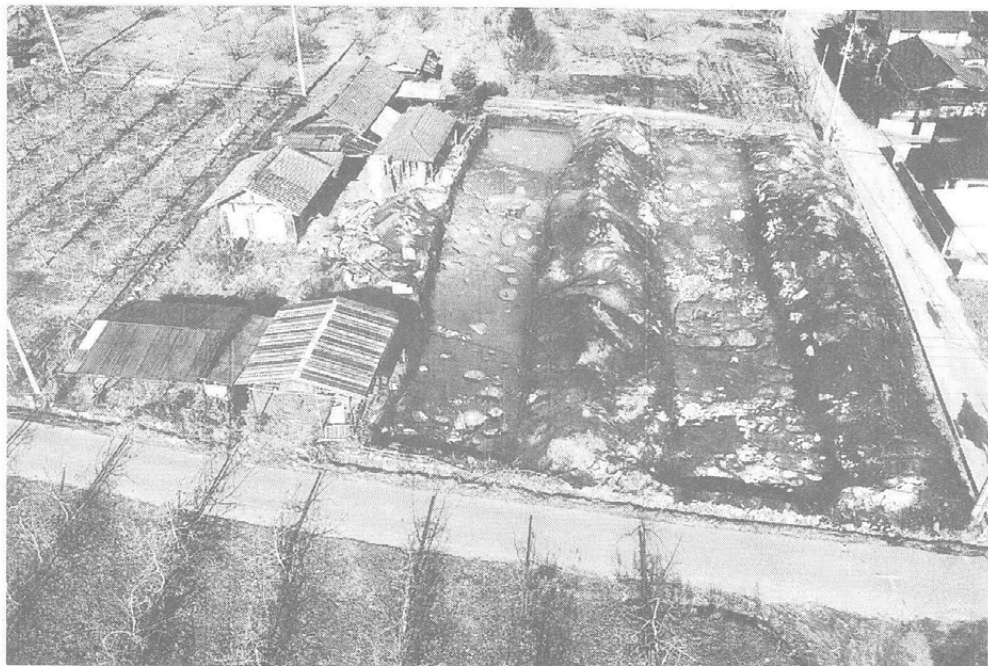
引用参考文献

- ・飯田市教育委員会 1988 「北田遺跡」
- ・飯田市教育委員会 1990 「細田北遺跡」
- ・飯田市教育委員会 1991 「大原遺跡」
- ・飯田市教育委員会 1994 「中村中平遺跡」
- ・上郷町教育委員会 1989 「ツルサシ・ミカド・増田・垣外遺跡」
- ・神村 透 1978 「結節縄文をつけた一群の土器」 『中部高地の考古学』
- ・神村 透 1986 「下伊那型櫛形文土器」 『長野県考古学会誌』 51
- ・神村 透 1990 「縄文中期後半の橋状突帯付土器」 『伊那』 38-5
- ・末木 健 1978 「伊那谷中部縄文中期後半の土器群とその性格」 『信濃』 30-4
- ・玉田芳英 1989 「中津・福田K II式土器様式」 『縄文土器大観』 4 pp 262~
265
- ・中島庄一 1989 「称名寺式土器様式」 『縄文土器大観』 4 pp 258~ 261
- ・平林 彰・綿田弘実 1988 「(6)縄文後期の土器」 『長野県史』 考古資料編 全 1巻(4)
遺構・遺物 pp94~97
- ・平林 彰・綿田弘実 1988 「(7)縄文晩期の土器」 『長野県史』 考古資料編 全 1巻(4)
遺構・遺物 pp97~ 100
- ・米田明訓 1980 「南信天竜川沿岸における縄文中期後半の土器編年」 『甲斐考
古』 17-1

写真図版



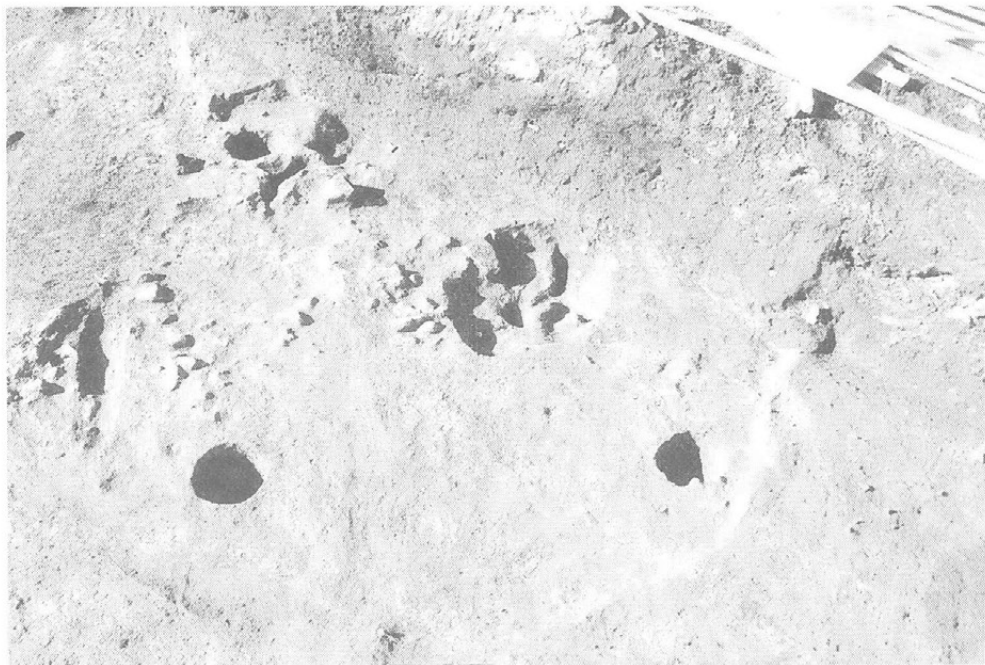
遺跡全景



調査区全景



調査区全景



4号住居址



5号住居址



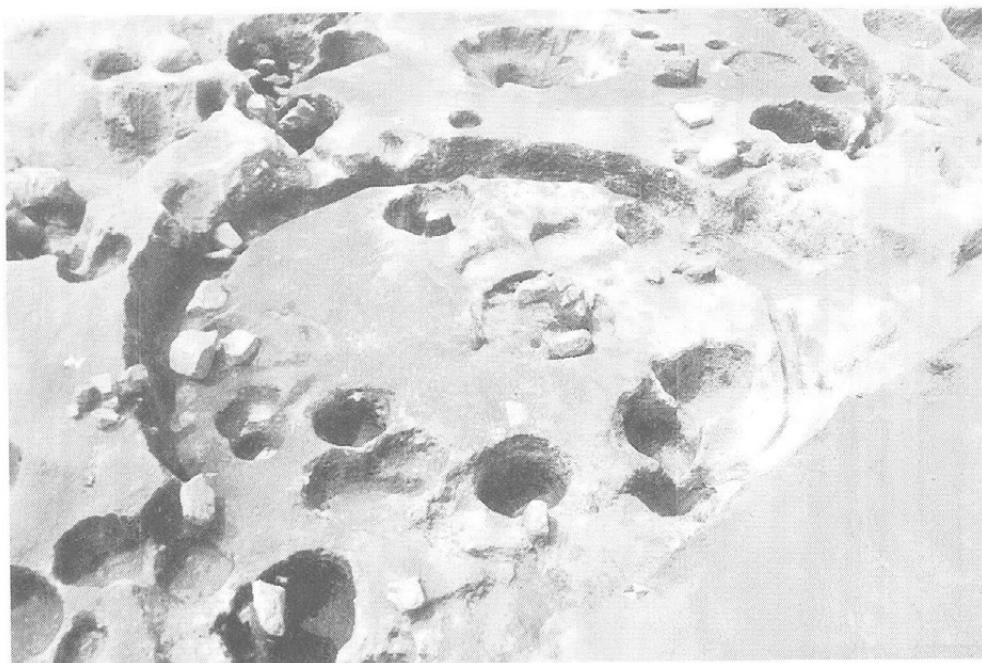
6号住居址



7号住居址



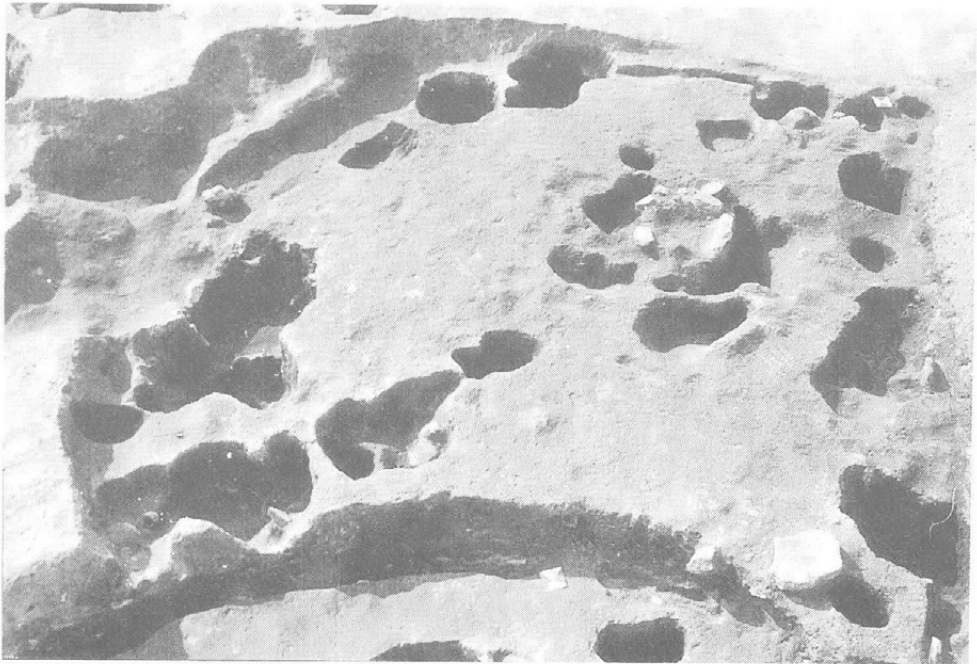
8号住居址



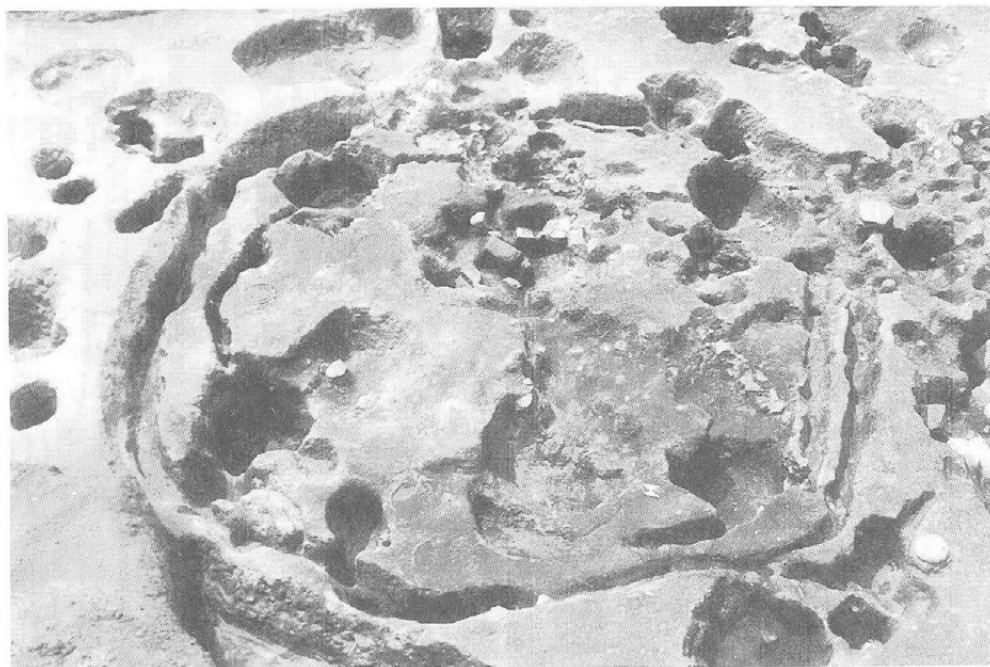
10号住居址



10号住居址炉



12号住居址



13号住居址



13号住居址炉



13号住居址埋甕 1、2



13号住居址埋甕 3



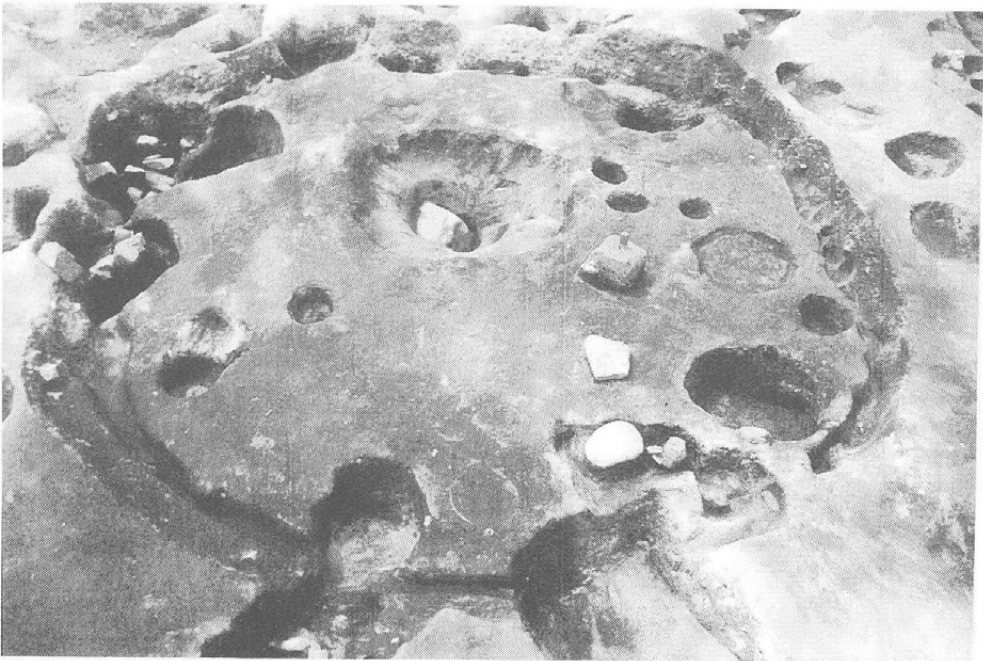
14号住居址炉



15号住居址



15号住居址炉



18号住居址



18号住居址埋甕



20号住居址



20号住居址炉



土坑 5



土坑11



土坑12



土坑13



土坑21



土坑24



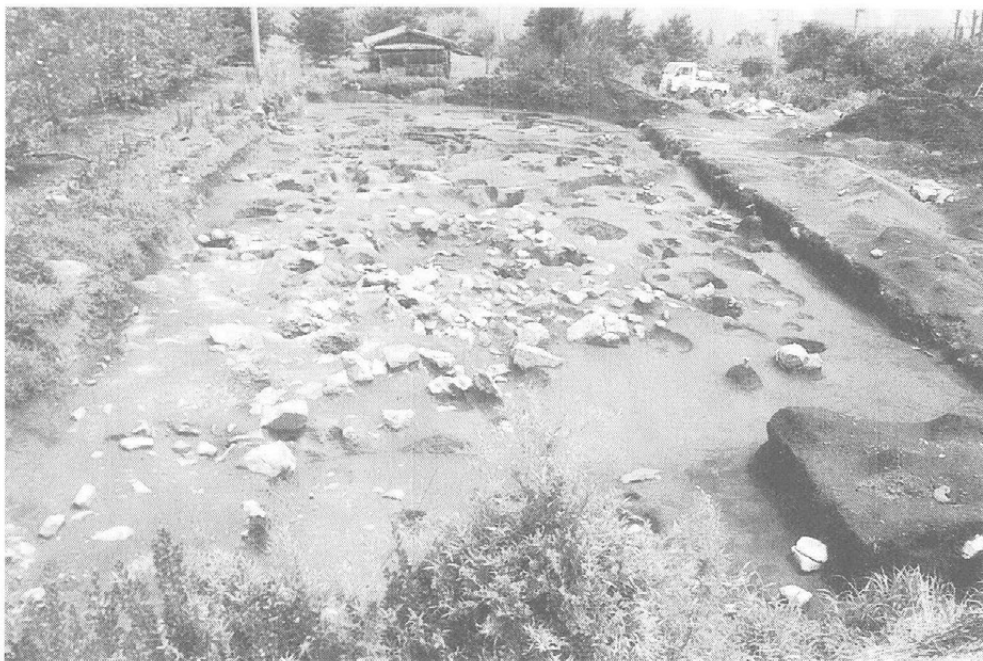
土坑25



土坑28



16号住居址



氾濫礫群



重機作業風景



重機作業風景



発掘調査風景



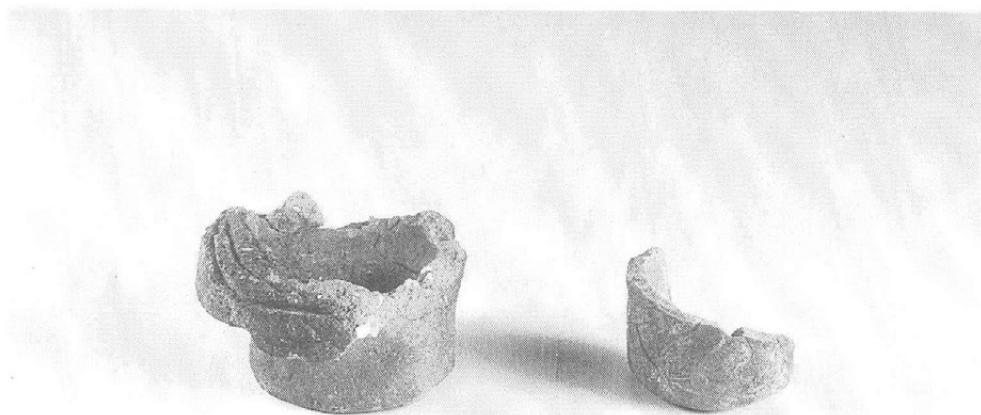
発掘調査風景



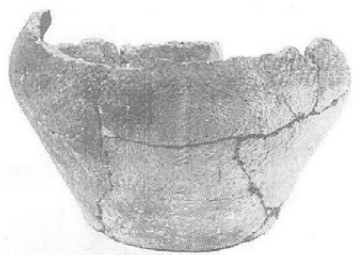
委託測量調査



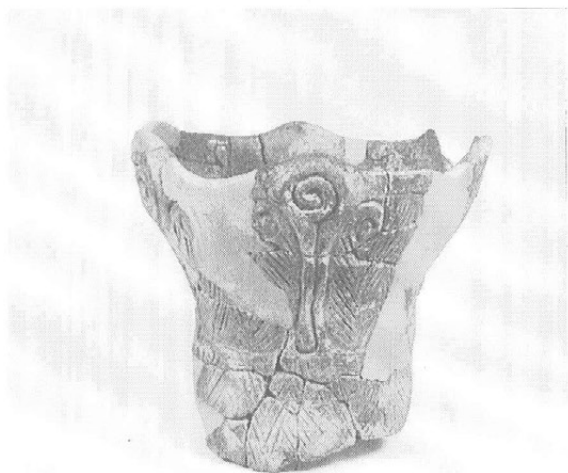
5号住居址出土土器(埋甕)



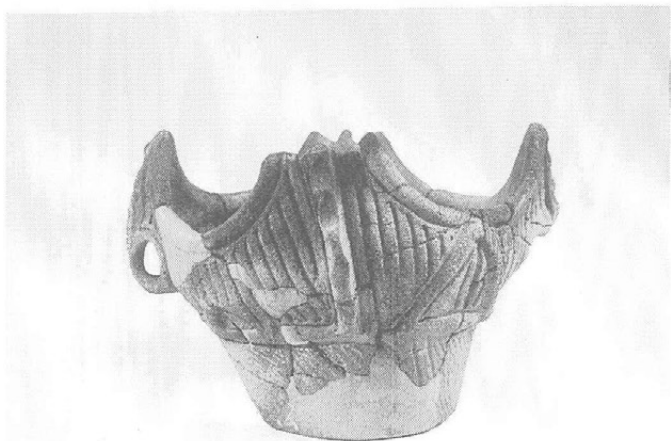
5号住居址出土土器



6号住居址出土土器



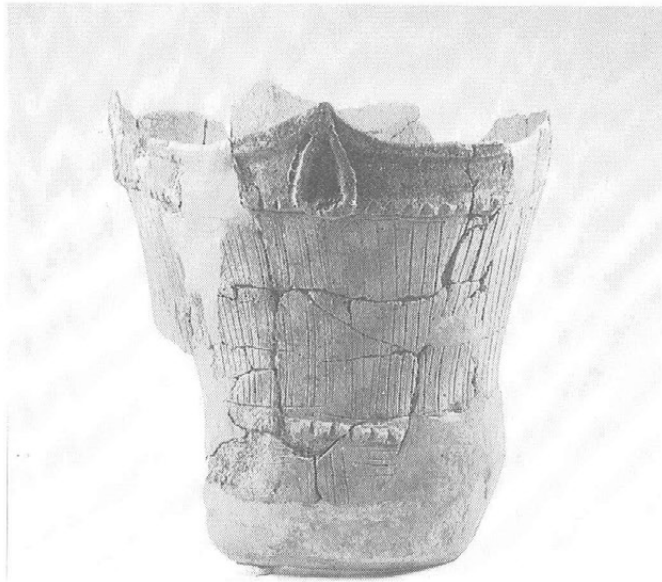
7号住居址出土土器



8号住居址出土土器



8号住居址出土土器



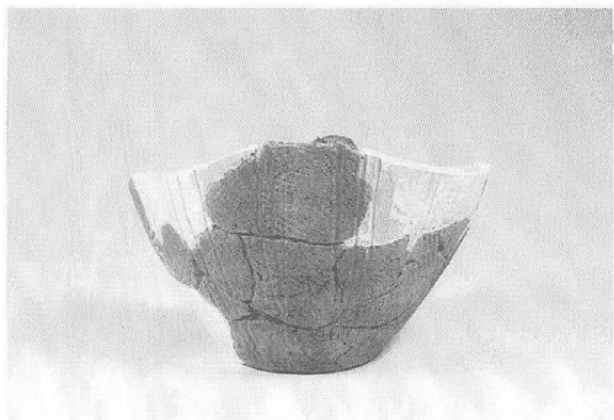
同上



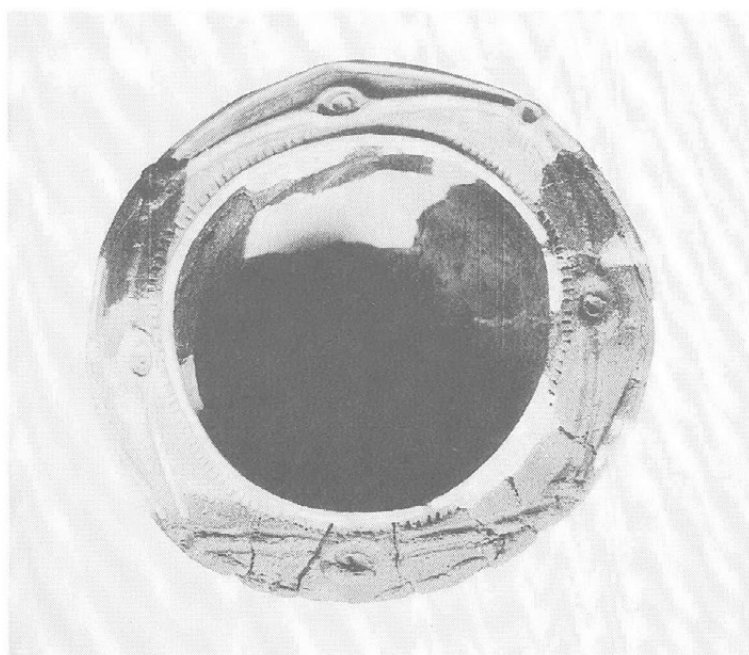
10号住居址
出土土器



同上



同上

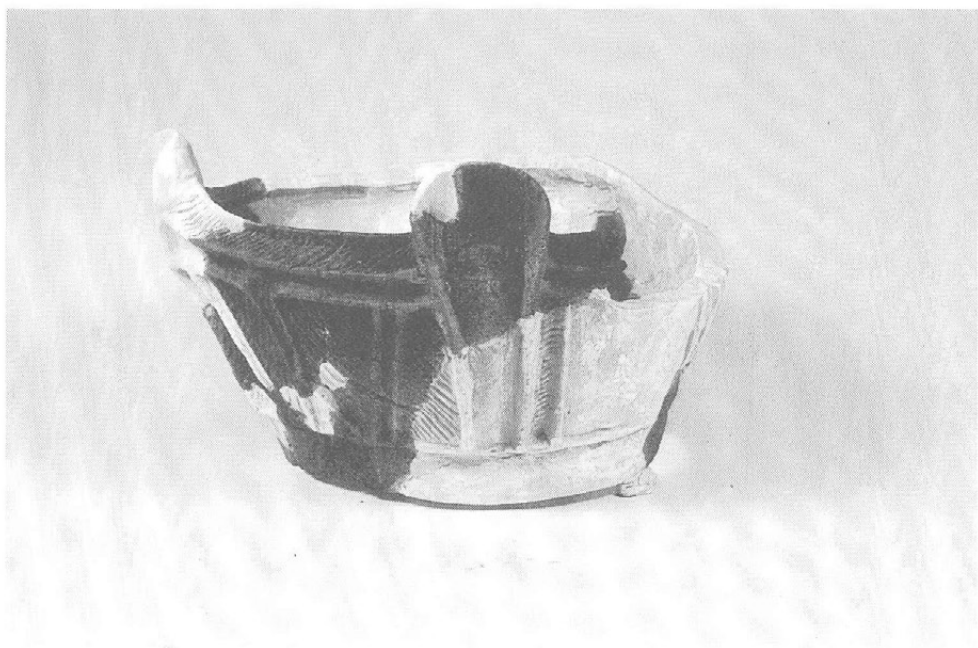


10号住居址
出土土器





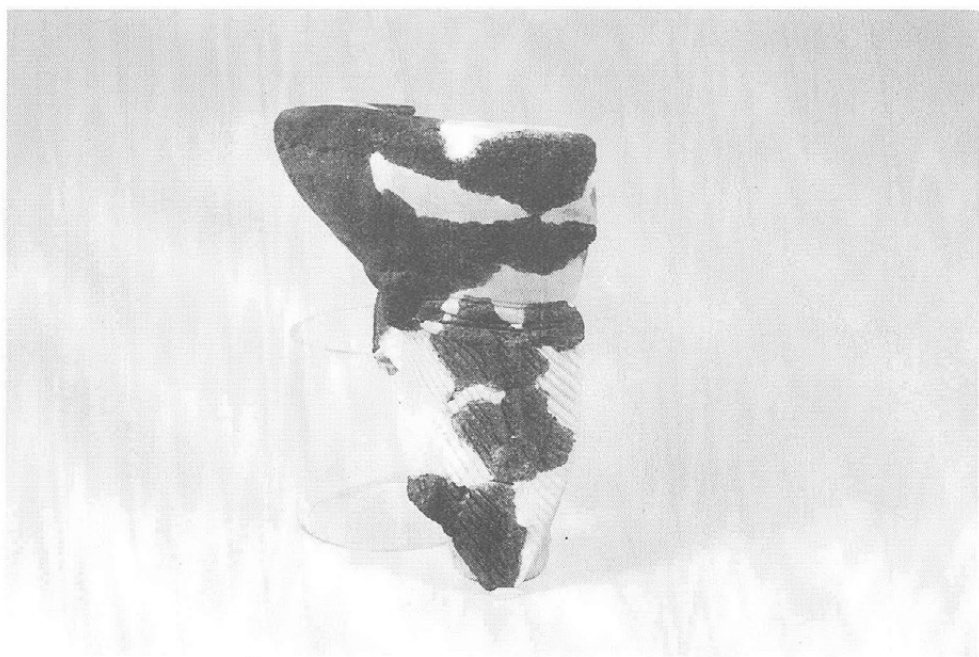
12号住居址出土土器



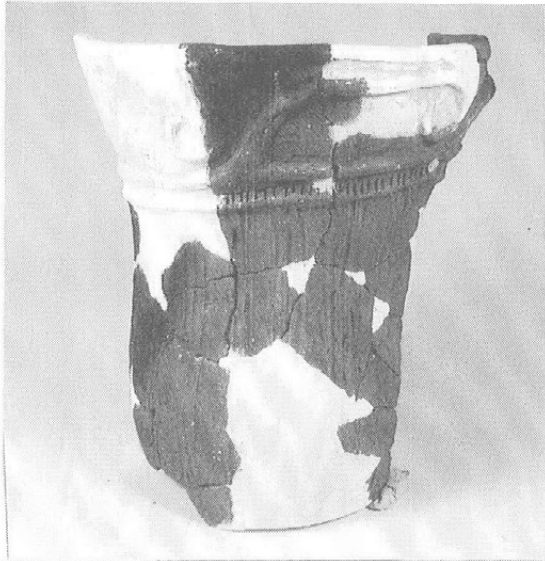
同上



12号住居址出土土器



同上



12号住居址出土土器



同上



同上

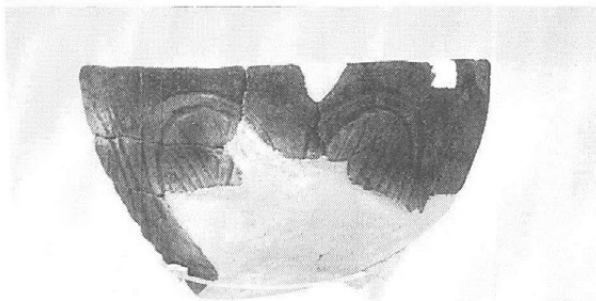
13号住居址出土土器
(埋甕2)

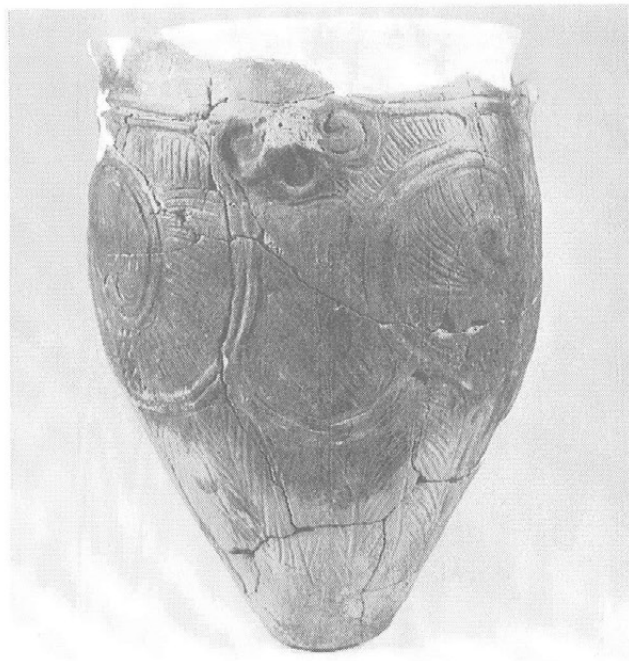


同上
(埋甕3)



同上

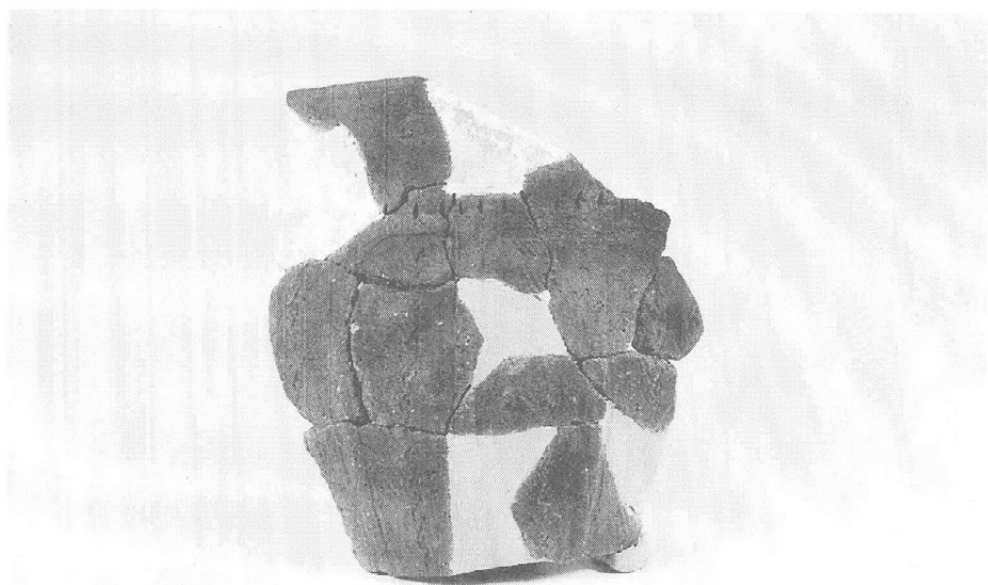




13号住居址出土土器
(埋甕1)



同上



15号住居址出土土器



18号住居址出土土器

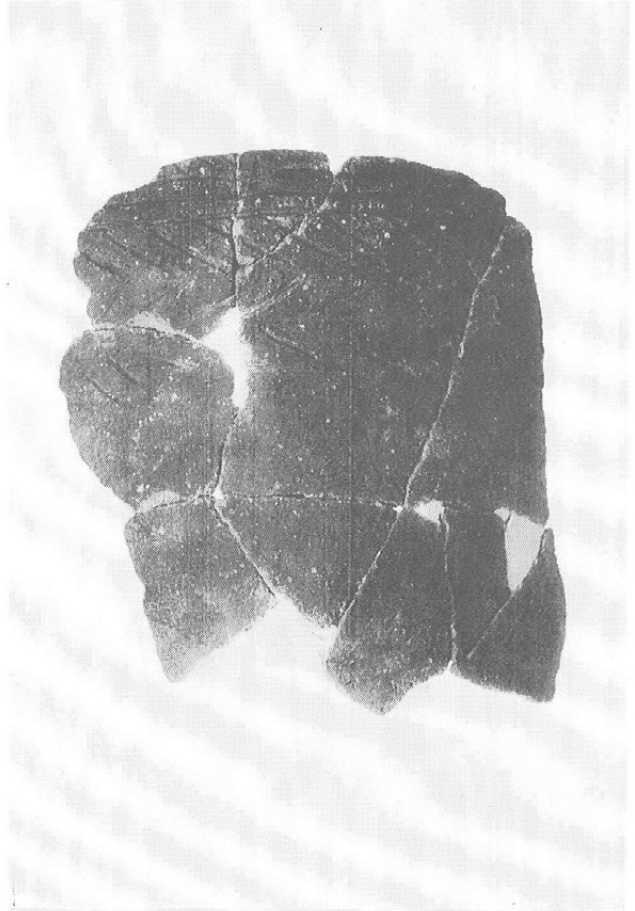


18号住居址
出土土器

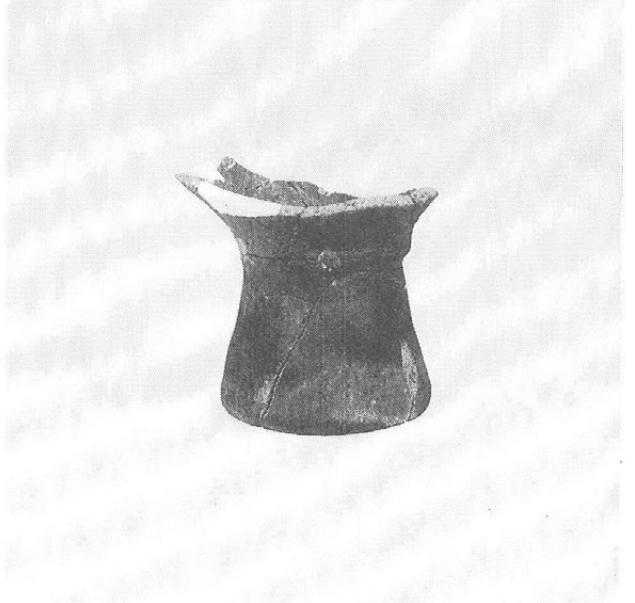


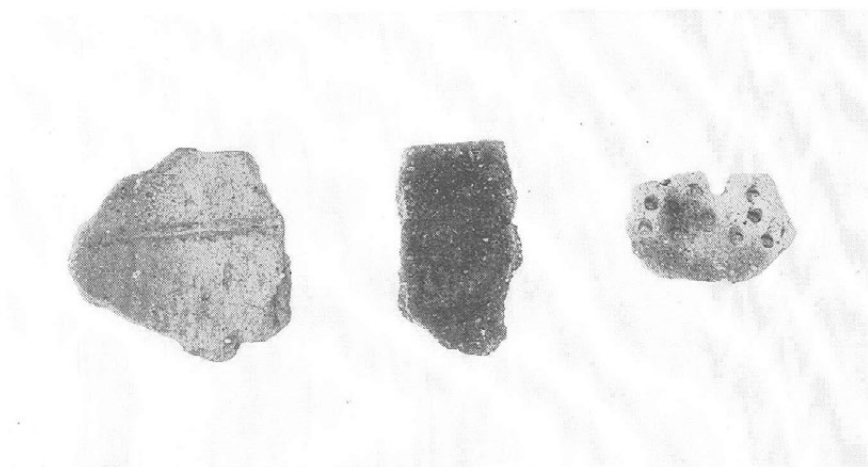
同上

20号住居址
出土土器

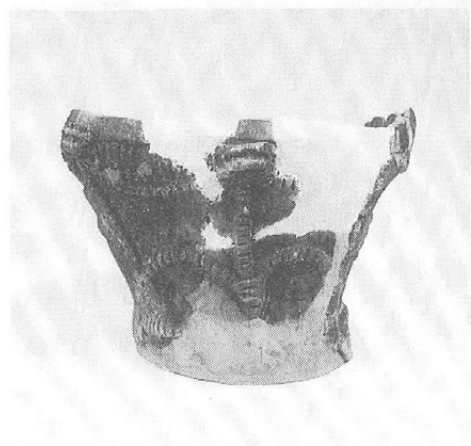


同上





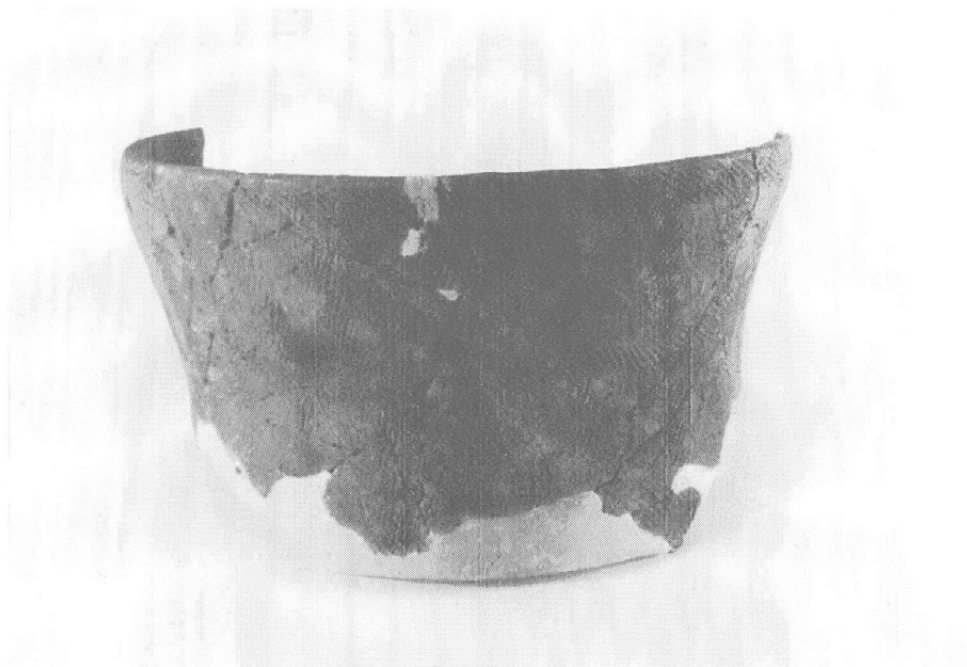
沟址 1
出土土器



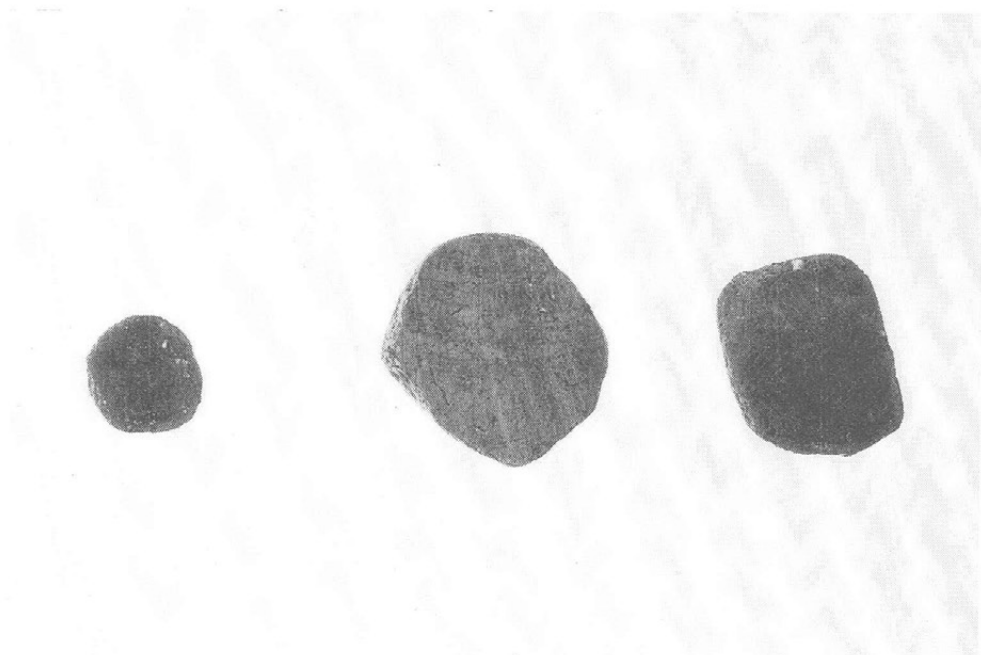
土坑 3 出土土器



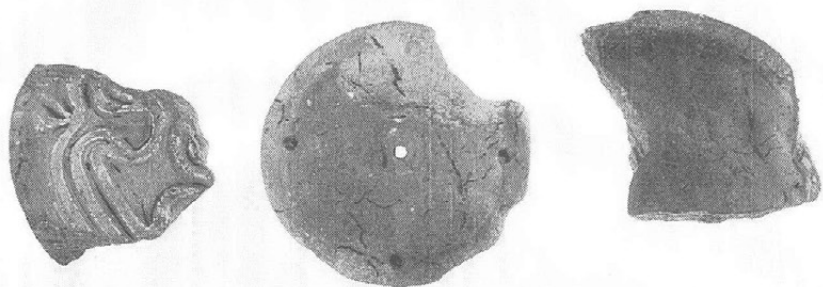
土坑 5 出土土器



土坑14出土土器



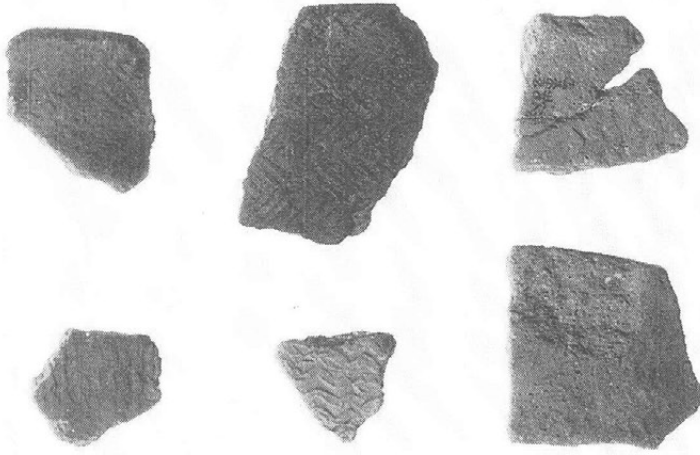
土製円盤



遺構外出土遺物



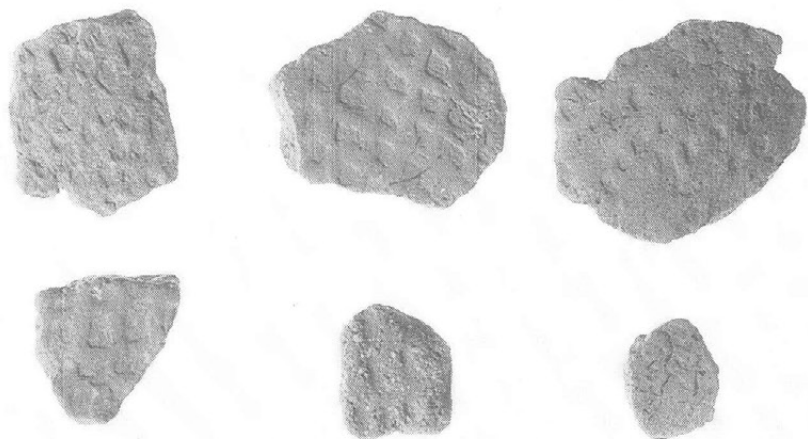
同上



遺構外出土遺物



遺構外出土遺物



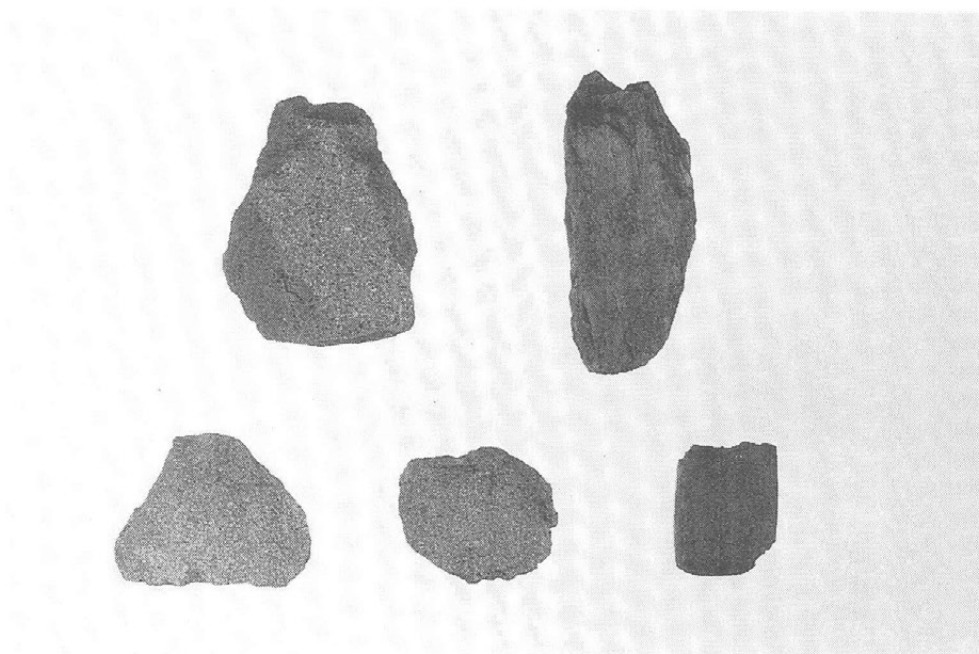
遺構外出土遺物



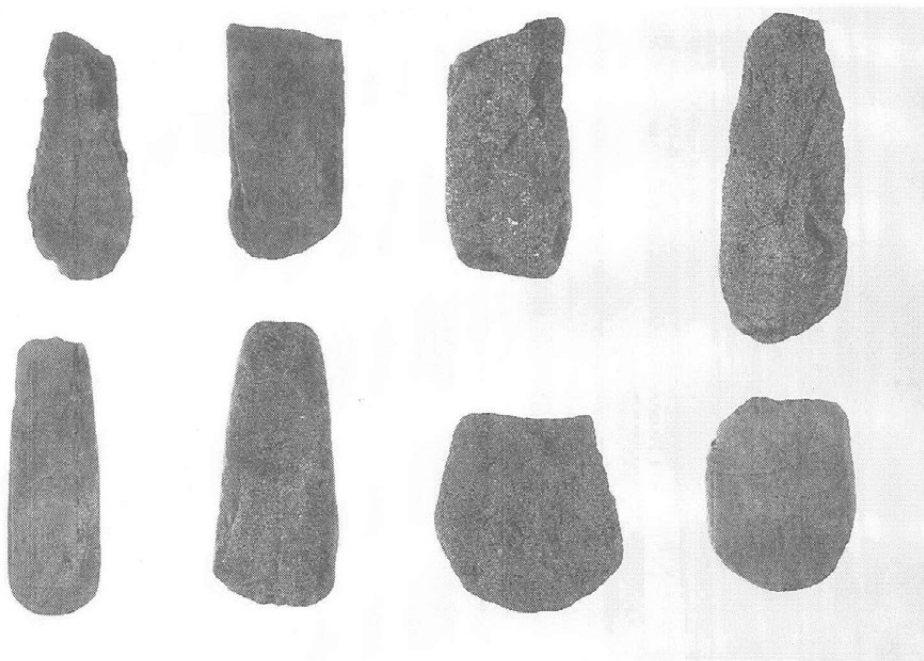
遺構外出土遺物



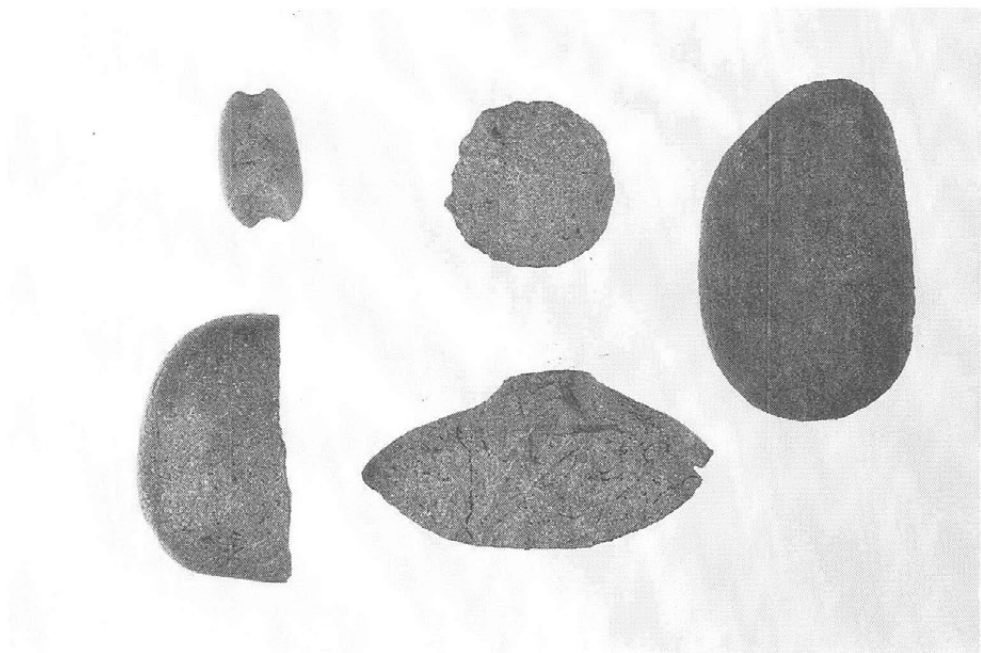
遺構外出土遺物



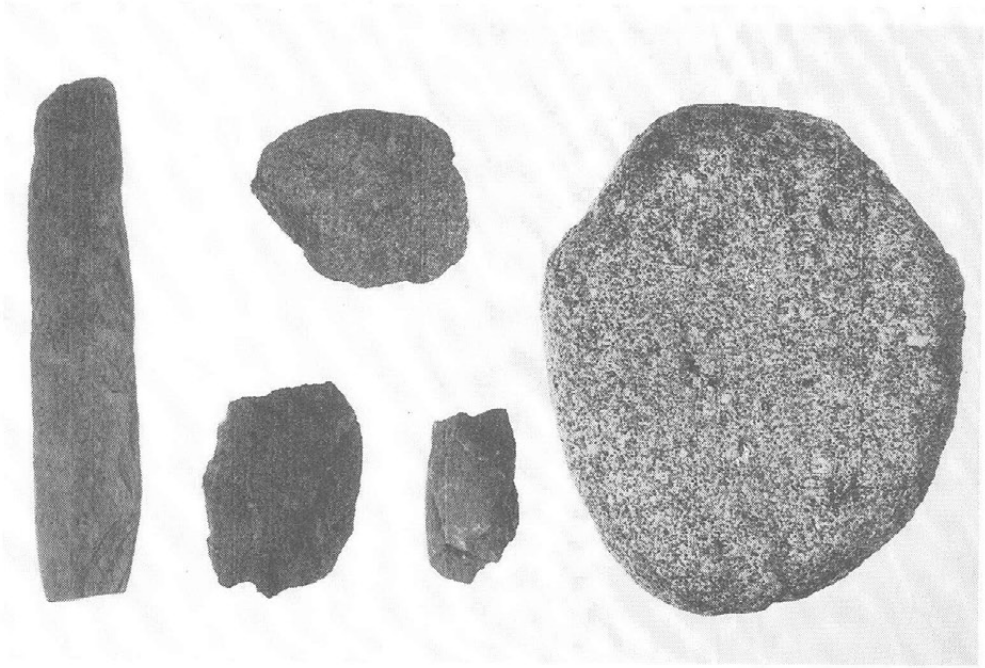
4号住居址出土石器



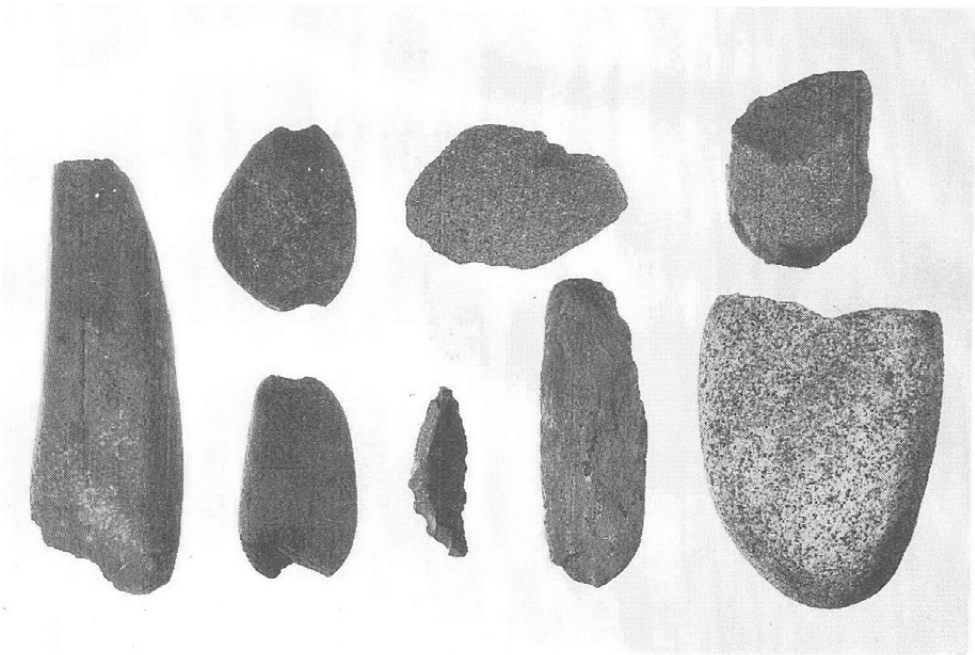
5号住居址出土石器



5号住居址出土石器



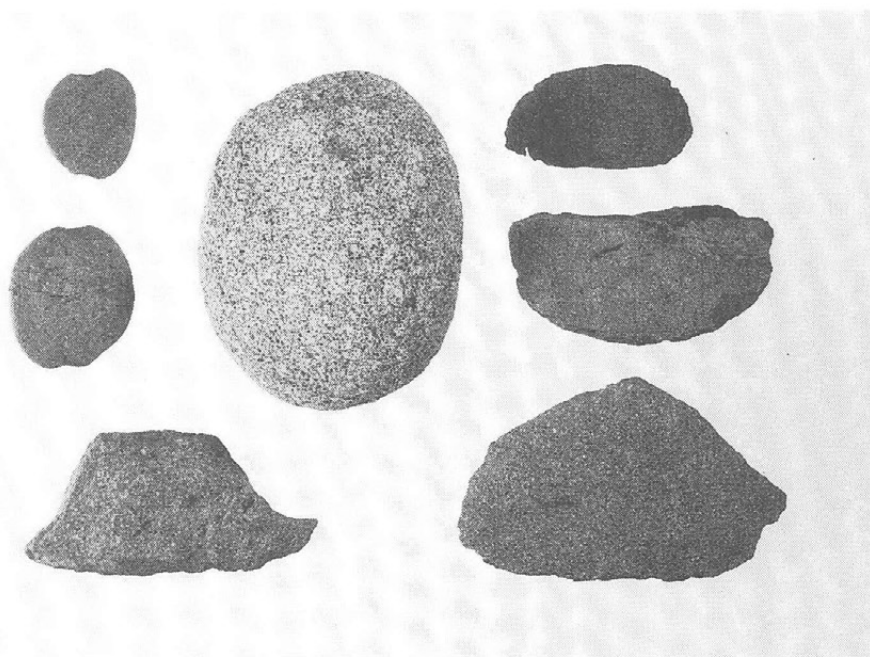
6号住居址出土石器



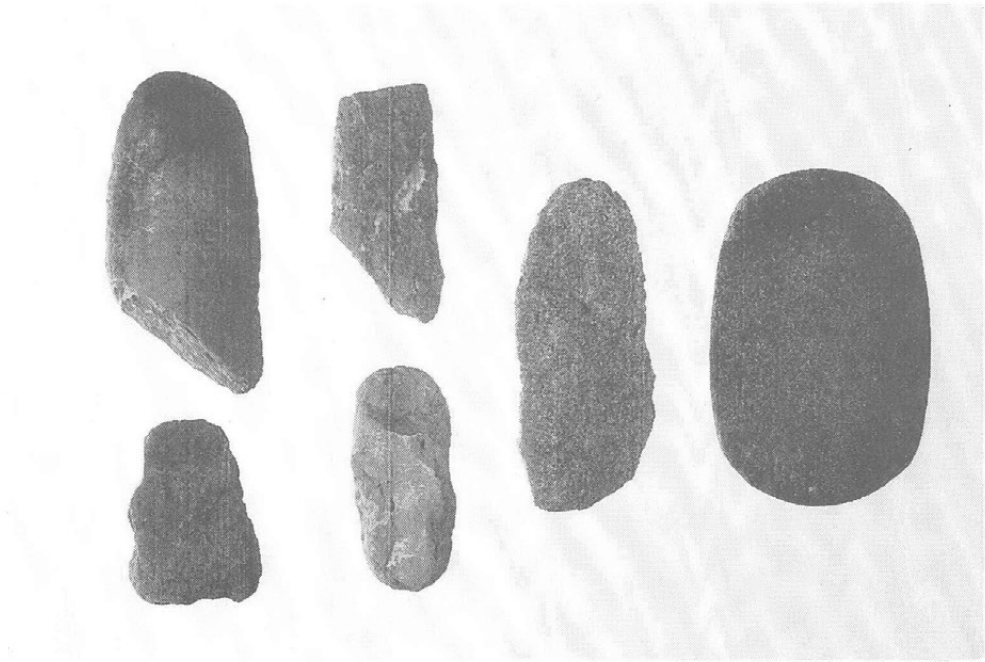
8号住居址出土石器



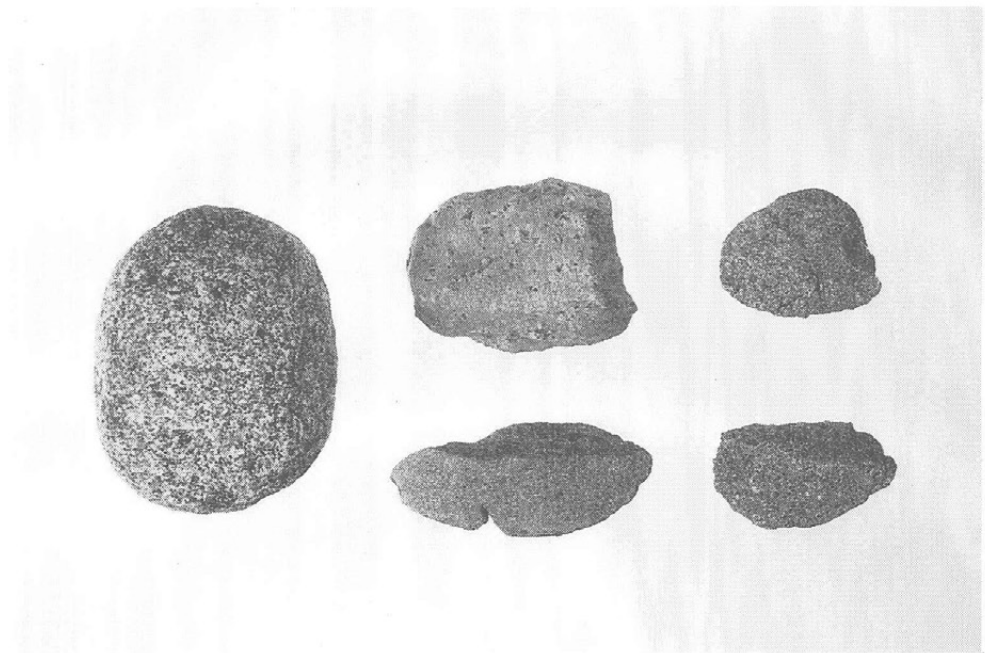
10号住居址出土石器



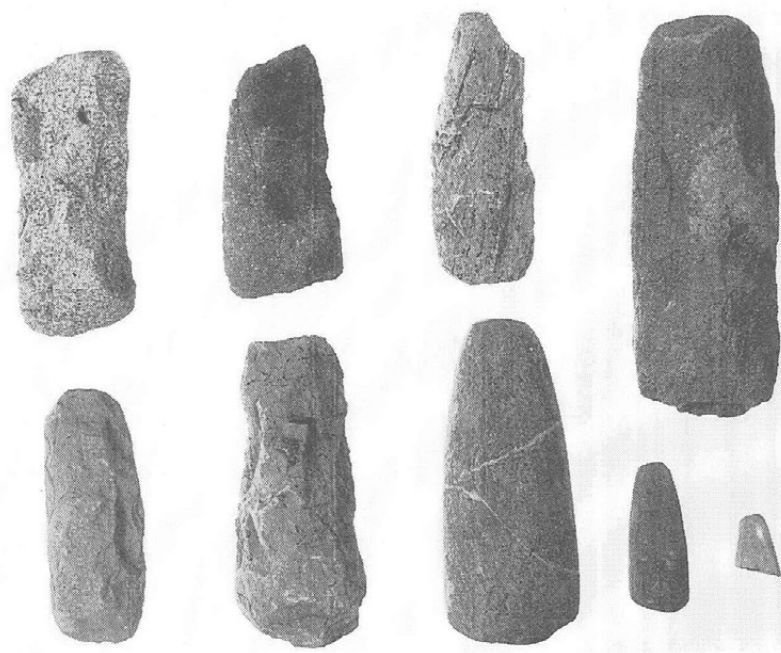
同上



12号住居址出土石器



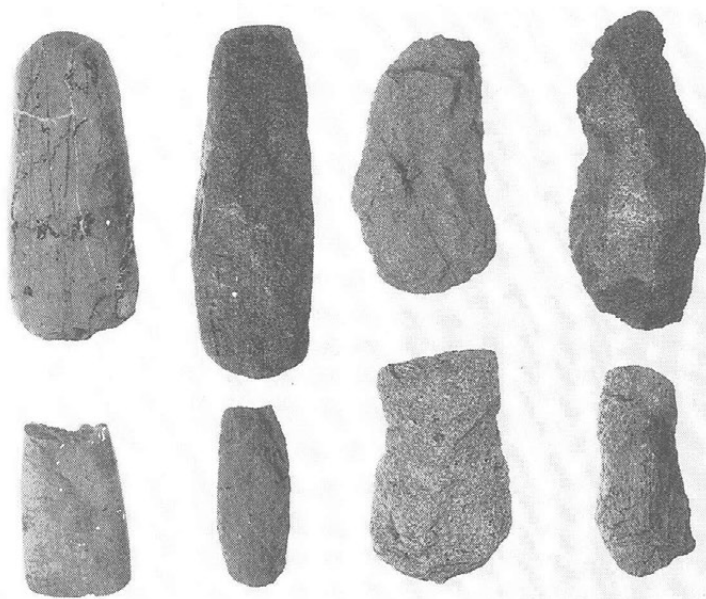
同上



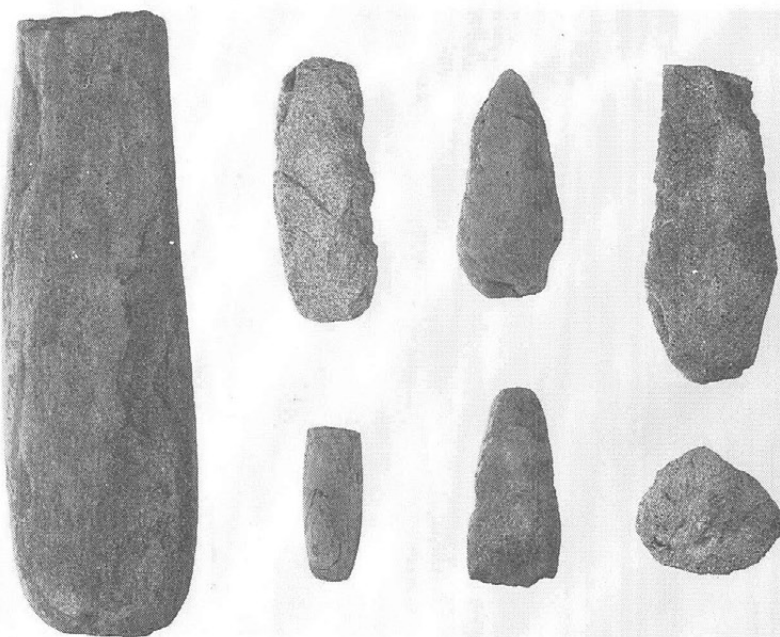
13号住居址出土石器



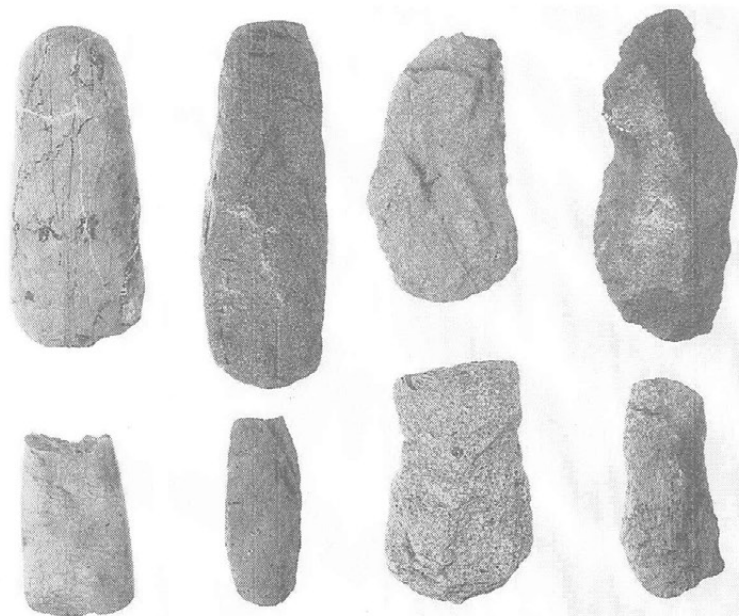
同上



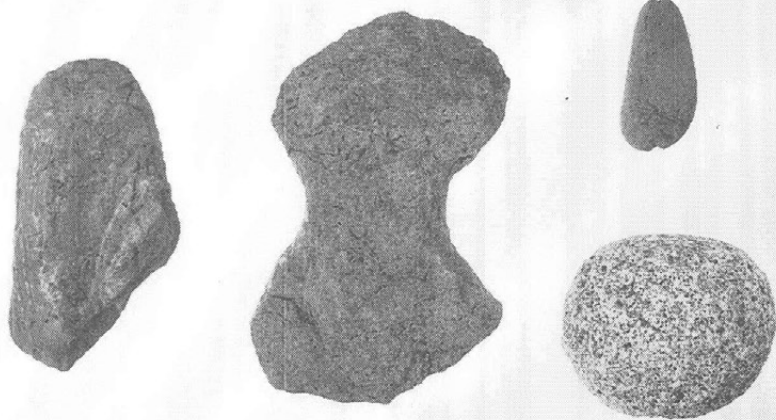
15号住居址出土石器



同上



18号住居址出土石器



20号住居址炉出土石器

報告書抄録

ふりがな	きたがたおおほらいせき							
書名	北方大原遺跡							
副書名	宅地造成に先立つ埋蔵文化財包蔵地北方大原遺跡発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	吉川 豊・馬場保之・吉川金利・福澤好晃・下平博行							
編集機関	長野県飯田市教育委員会							
所在地	〒395長野県飯田市上郷飯沼3145番地 ☎0265-53-4545							
発行年月日	西暦1995年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村遺跡番号				m ²		
きたがたおおほら	いいだし きたがた	2053	35°	137°	平成5年	1,000m ²	宅地造成	
北方大原	飯田市北方		46′	32′	11月30日			
	3346-1他		36″	42″	平成6年			
					6月21日			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項		
北方大原	集落址	縄文早期 ～後晩期	竪穴住居址	16軒	縄文時代土器			
			竪穴状遺構	1基	石器			
			土坑	31基	土偶			
			溝状址	1条	耳栓			
			溝址	1条	弥生後期土器			
		弥生後期	竪穴住居址	1軒				

きたがた おおはら

北方大原遺跡 II

宅地造成に先立つ埋蔵文化財包蔵地
発掘調査報告書

1995年4月 発行

編集・発行 長野県飯田市上郷飯沼3145番地
飯田市教育委員会
印刷 ユニプリント株式会社

